

データベース構築促進及び技術に関する報告書

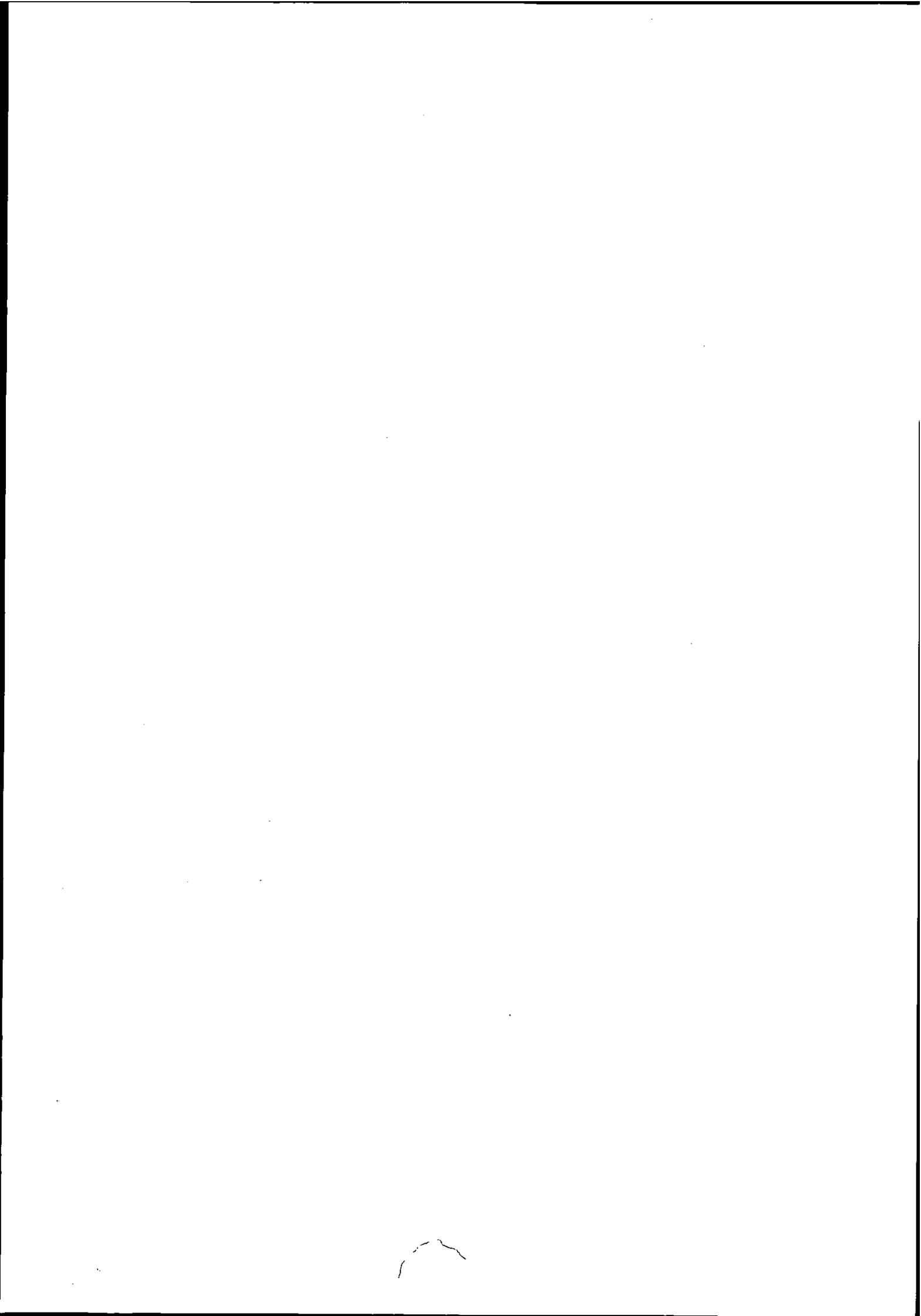
アジア太平洋交流データベースの課題性の研究

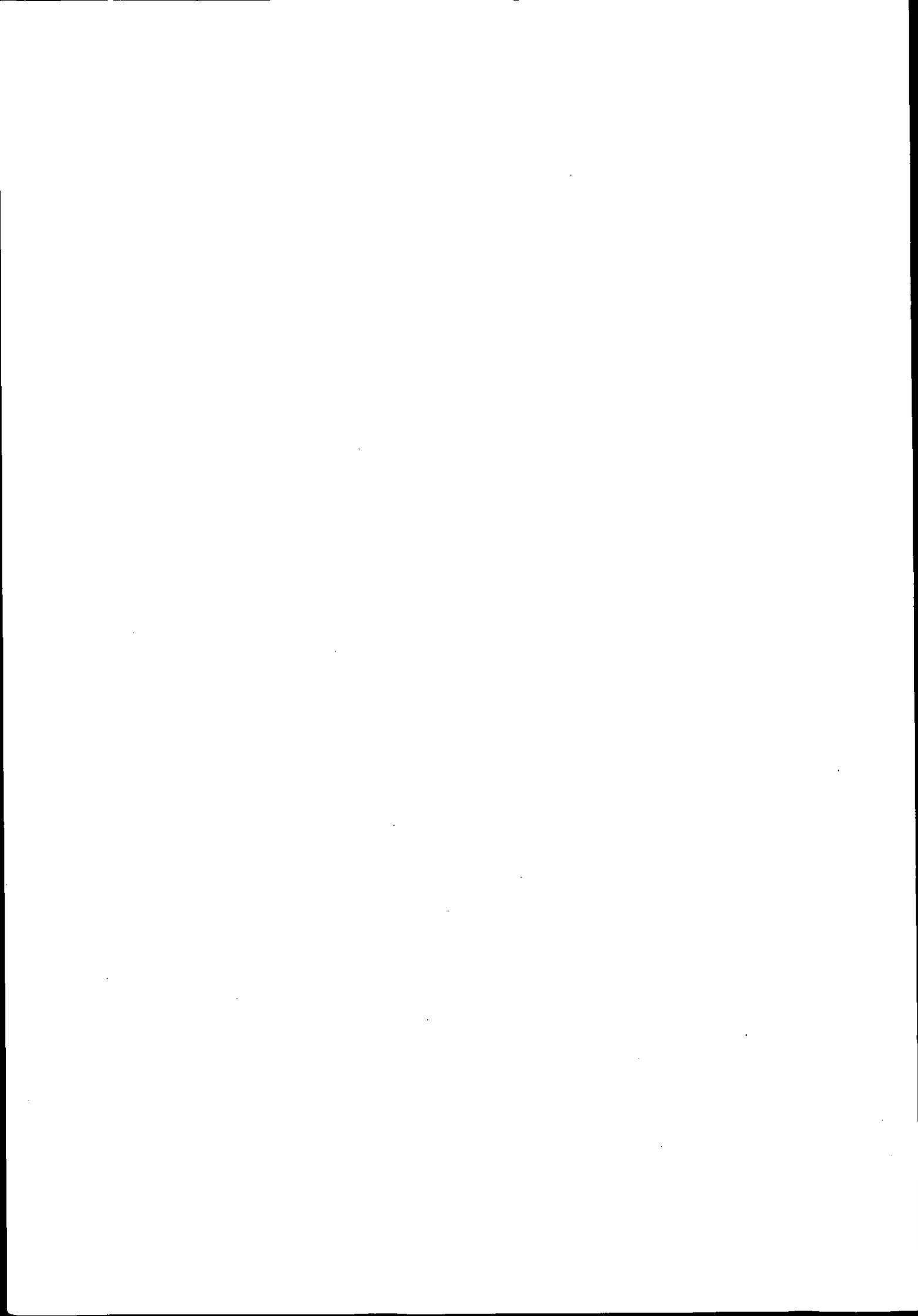
平成3年3月

財団法人 データベース振興センター

委託先 株式会社 西日本新聞社

本報告書は、日本自転車振興会から競輪収益の一部である機械工業振興資金の補助を受けて作成したものである。





序

データベースは、わが国の情報化の進展上重要な役割を果たすものと期待されている。今後、データベースの普及により、わが国において健全な高度情報化社会の形成が期待されている。さらに、海外に対して提供可能なデータベースの整備は、国際的な情報化への貢献および自由な情報流通の確保の観点からも必要である。しかしながら、現在我が国で流通しているデータベースの中でわが国独自のものは3割にすぎないのが現状であり、わが国データベースサービスひいてはバランスある情報産業の健全な発展を図るためには、わが国独自のデータベースの構築およびデータベース関連技術の研究開発を強力に促進し、データベースの拡充を図る必要がある。

このような要請に応えるため、(財)データベース振興センターでは日本自転車振興会から機械工業振興資金の交付を受けて、データベースの構築および技術開発について民間企業、団体等に対して委託事業を実施している。委託事業の内容は、社会的、経済的、国際的に重要で、また地域および産業の発展の促進に寄与すると考えられているデータベースの構築とデータベース作成の効率化、流通の促進、利用の円滑化・容易化などに関係したソフトウェア技術である。

本事業の推進に当って、当財団に学識経験者の方々に構成されるデータベース構築・技術開発促進委員会(委員長 山梨学院大学教授 蓼沼良一氏)を設置している。

この「アジア太平洋交流データベースの課題性の研究」は平成2年度のデータベースの構築促進および技術開発促進事業として、当財団が株式会社西日本新聞社に対して委託実施した課題の一つである。この成果が、データベースに興味をお持ちの方々や諸分野の皆様方のお役に立てば幸いである。

なお、平成2年度データベースの構築促進および技術開発促進事業で実施した課題は次表のとおりである。

平成3年3月

財団法人 データベース振興センター

平成2年度 データベース構築促進・技術開発委託課題一覧

分野	課題名	委託先
社 会	1 形態学的コメントを含む病理データベースのフィージビリティ調査	(株)エス・ピー・オー
	2 災害情報データベース支援環境の構築	(株)防災都市計画研究所
	3 A V / M A R C のための分類索引データベース構築	(株)ダイソメディアサービス
	4 気候情報データベースの構築	(株)エムテーエス雪氷研究所
	5 健康の自己管理と病気予防データベースの構築	(株)コンピュータコンビニエンス
	6 シルバーエイジの実態及び生活に必要な情報のデータベース構築のための調査研究	美崎高齢者福祉互助会美崎生活館
	7 交通事故調査データのデータベース化に関する調査研究	(財) 日本自動車研究所
地域活性化 中小企業振興	8 アジア太平洋交流データベースの課題性の研究	(株)西日本新聞社
	9 戦略商圏レベルに細分化した地域データと分析・提案手法を統合化した企画支援システムデータベースの構築	パラシュート情報開発研究会 札幌凸版印刷(株)
	10 ネットワーク化された地域情報データベースの有効なマネジメントについての調査研究	セントラル開発(株)情報図書館 R U K I T
	11 徳島市中小商業振興データベースの構築	(株)ニューメディア徳島
	12 九州地域の人材情報データベース構築	(財) 九州産業技術センター
海 外	13 海外向け国内先端技術分野中堅企業情報英文データベース構築	コムラインインターナショナル(株)
	14 海外規格(ソ連邦国家規格)データベースの整備	日本電子計算(株)
	15 政府開発援助(O D A)に関するデータベースの構築調査	(財) 日本国際協力システム
	16 専門用語データベースシステムの機能に関する調査研究	アイ・エヌ・エス(株)
	17 専門家データベース構築事業	(財) 海外貿易開発協会
技 術	18 V A N用データベース管理システムの開発	シャープ(株)
	19 レコードマネジメント用辞書管理システムの開発研究	(株)オフィス総研
	20 建築C A D用拡張可能データベースのプロトタイプ作成	三菱電機(株)
	21 先進複合材料データベース・プロトタイプの作成	(財) 次世代金属・複合材料研究開発協会
	22 マイクロコンピュータのプログラマブル周辺デバイスのデータベース化	(社) 日本システムハウス協会
	23 書誌データベース用ダイナミック・シソーラスの可能性調査と実験	(株)紀伊國屋書店

目 次

1. 課題性研究の概要	1
1. 1 目的	1
1. 2 実施内容	1
1. 3 実施体制	2
2. 国際化の現状	3
2. 1 国際化をとりまく状況	3
2. 2 地域の国際化	9
2. 3 困っている外国人	10
2. 4 外国人グループ・インタビュー要約	13
2. 5 国際化に対する認識の不足	16
2. 6 求められる受け入れ体制づくり	17
3. データベースの必要性	18
3. 1 データベースの主要な役割	18
3. 2 データベースのもうひとつの効果	18
4. データベースの情報内容	20
4. 1 在日目的からみた必要情報	20
4. 2 日本人のための情報	25
4. 3 利用できる他情報	26
4. 4 アジア太平洋DBのメンテナンス	30
5. システムの概要設計	31
5. 1 システム構築の考え方	31
5. 2 概要設計の前提条件	32
5. 3 汎用検索ソフト「ORION」	37
5. 4 データベースの構造と検索手順	42
5. 5 画像処理	47
5. 6 翻訳支援システム	51
6. 国際交流調査	53
6. 1 調査企画	53
6. 2 調査要約	54

7. 採算性の考え方	57
7. 1 初期投資の軽減	57
7. 2 情報センターの位置付け	58
7. 3 運営方法	58
⑧. 今後の課題	59
8. 1 情報内容の質の向上	59
8. 2 システム技術のテスト	59
8. 3 アジアDBの利用	59
8. 4 今後の国際交流	59
9. 資料編	60
9. 1 第1回研究会 議事録	61
9. 2 第2回研究会 議事録	75
9. 3 第3回研究会 議事録	89
9. 4 第4回研究会 議事録	103
9. 5 第5回研究会 議事録	116
9. 6 外国人留学生グループインタビュー	125
9. 7 外国婦人グループインタビュー	144
9. 8 国際交流調査詳細報告	152

1. 課題性研究の概要

1.1 目的

国際化時代を迎えアジア太平洋の玄関口として九州や福岡への外国人の流入や外国企業の進出が急増している。また日本の企業の間にも外国人労働者を採用するところが増えている。

さらに、福岡のスペースワールドやツインドーム、長崎ハウステンボスなどのテーマパーク、および九州の大規模リゾートの開発により、アジア太平洋諸国からの外国人旅行者も年々増加している。

一方、日本での生活を始めようとする外国人や外国人労働者を迎える日本企業では、外国人の法的手続きや生活基盤情報の窓口が各行政機関に散在していたり、あるいは情報不足で困った環境下にあったりする。

西日本新聞社はアジア太平洋諸国と地域の交流、あるいは福岡や九州で暮らす外国人の生活の快適化を促進するために、行政情報だけでなく、仕事や日常生活に必要な情報を幅広く収集し、いつでも簡単に取り出せるアジア太平洋交流データベースシステム構築の課題性の研究（フィージビリティ・スタディ）を目的としている。

1.2 実施内容

本研究の実施内容は次の4項目を主たる内容としている。

① アジア太平洋交流DB情報内容の検討

国際交流業務にたずさわる実務責任者による研究会の開催と、外国人当事者によるグループ・インタビューによってデータベース情報内容を検討する。

② アジア太平洋交流DBシステムの概要設計

システム構築や概要設計の前提条件を考察し、検索手順、あるいは検索ソフト、画像情報処理を中心に使用可能なハード・ソフトについて検討する。

③ 採算性の検討

情報センターの採算と位置付について考察する。

④ 国際交流に対する市民意識の調査

福岡市民500人を対象に国際交流に対する市民意識の調査。

1.3 実施体制

西日本新聞社情報センター内にセンター長を中心に事務局を作り、外部スタッフとして国際交流業務にたずさわる担当責任者を中心に研究会を組織した。

①研究会メンバー

座長	九州造形短大教授	伊藤 寛道
	元アメリカ文化センター副館長	藤本 敏樹
研究会メンバー	九州通商産業局中小企業第一課長	坂梨 正雄
"	九州山口経済連合会企画課長	松尾 泰次
"	福岡入国管理局渉外調整官	中原 幸一郎
"	福岡県国際交流センター交流課長	二宮 純
"	" 主査	三浦 政輝
"	福岡国際交流協会 総務課長	武村 丞治
"	福岡商工会議所国際部長	満留 省吾
"	日本交通公社海外旅行九州支店長	三宅 誠一
"	" 課長	森山 日出夫
"	九州大学講師留学生教育担当	白土 悟
"	九州大学留学生センター講師	

②事務局メンバー

事務局長	西日本新聞社情報開発センター長	友成 克生
事務局員	" " 次長	野村 武
"	" データベース部長	伊藤 朗人
"	" 調査部次長	高浜 正興
"	" システム開発部次長	波多江 修
"	" システム開発部次長	伊東 純一
"	" システム開発部	小西 晋

③なお、報告書まとめの段階で国際交流問題に造詣の深い、都市経済研究所主任研究員福井康子に協力を仰いだ。また、システム概要設計の段階で、日立製作所荒木茂信、有井宏和システムエンジニアの支援を得た。

2. 国際化の現状

2.1 国際化をとりまく状況

国際化は古くて新しいテーマである。国レベルでは、交通機関の発展、世界経済システムの強化、マスコミュニケーション・通信等の急速な技術発達など多くの分野での進展により、国際的相互依存関係が深まってきている。わが国も経済の発展に代表されるように、国際社会での役割は増大してきており、国際化が今ほど強く求められている時代はないといえよう。

経済・政治・外交といった面だけでなく、社会的そして文化的な国際交流が多彩に行われ、国際化に向け懸命に努力しているところである。

中でも、アジア太平洋地域と日本の関係はますます強まってきている。

例えば、日本への人の流入の現状を旅行者、就学生、就労者という3つの視点別に見てみると

まず、旅行者では、表1のように、アジア太平洋地域内での人の流れは1980～1987年の7年間で5割増しで、特に日本への旅行者数は76万人から146万人と約2倍に拡大している。1990年には訪日旅行者は年間300万人を突破し、その内訳でみると、アジア地域からの旅行者は1970年の30%程度から'89年は約60%と急増している。一方訪問先としての福岡を見ると、'82年の訪問率14位から'89年は5位に浮上し、アジアに近い九州の国際化が活発になっている。

○外国人旅行者の日本への流れ (表1)

(単位:人)

FROM	韓国	台湾	フィリピン	マレーシア	インドネシア	オーストラリア	ニュージーランド	アメリカ	カナダ
1980	212,973	235,549	27,902	14,688	17,854	23,985	5,340	277,780	40,821
1987	360,159	360,636	85,267	40,080	24,254	39,169	17,702	477,891	58,536

○国籍別外国人登録数 (表2)

北九州市、福岡市の外国人登録数は、1988年で、約2万人弱で、国籍別はアジアが94%と大半を占めている。

1988年12月末現在

都 市	総 数	ア ジ ア 州								
		韓国・朝鮮	中 国	フィリピン	インドネシア	インド	トルコ	イスラエル	タイ	その他
北九州市	11,019	10,180	429	52	7	3	3	-	11	38
福岡市	8,549	6,538	1,043	167	41	9	3	-	24	135

都 市	北アメリカ州	南アメリカ州	ヨーロッパ州	アフリカ州	オセアニア州	ソ連	無国籍
北九州市	192	29	51	7	10	1	6
福岡市	380	69	162	27	38	0	13

留学生の受け入れも、アジアとの関係が強いのが表3から見てとれる。

○留学生の出身国 (表3)

FROM \ TO	アメリカ 1986	日本 1986
アメリカ	—	881
カナダ	13,853	74
日本	13,304	—
中国	40,322	6,988
韓国	17,600	3,155
香港	9,717	163
シンガポール	3,998	88
フィリピン	3,755	200
タイ	5,719	539
マレーシア	19,096	678
インドネシア	8,155	344
ブルネイ	21	2
ベトナム	2,381	32
ラオス	455	5
カンボジア	455	0
北朝鮮	49	0
オーストラリア	1,299	71
ニュージーランド	487	31
パプア・ニューギニア	24	8
ソ連	97	7
アジア・太平洋計	140,787	13,266
その他地域	208,823	1,694
世界計	349,610	14,960

出所：UNESCO "Statistical Yearbook 1988"

注：留学生受入国上位50カ国の高等教育機関に在籍する留学生数統計数値をもとに作成した

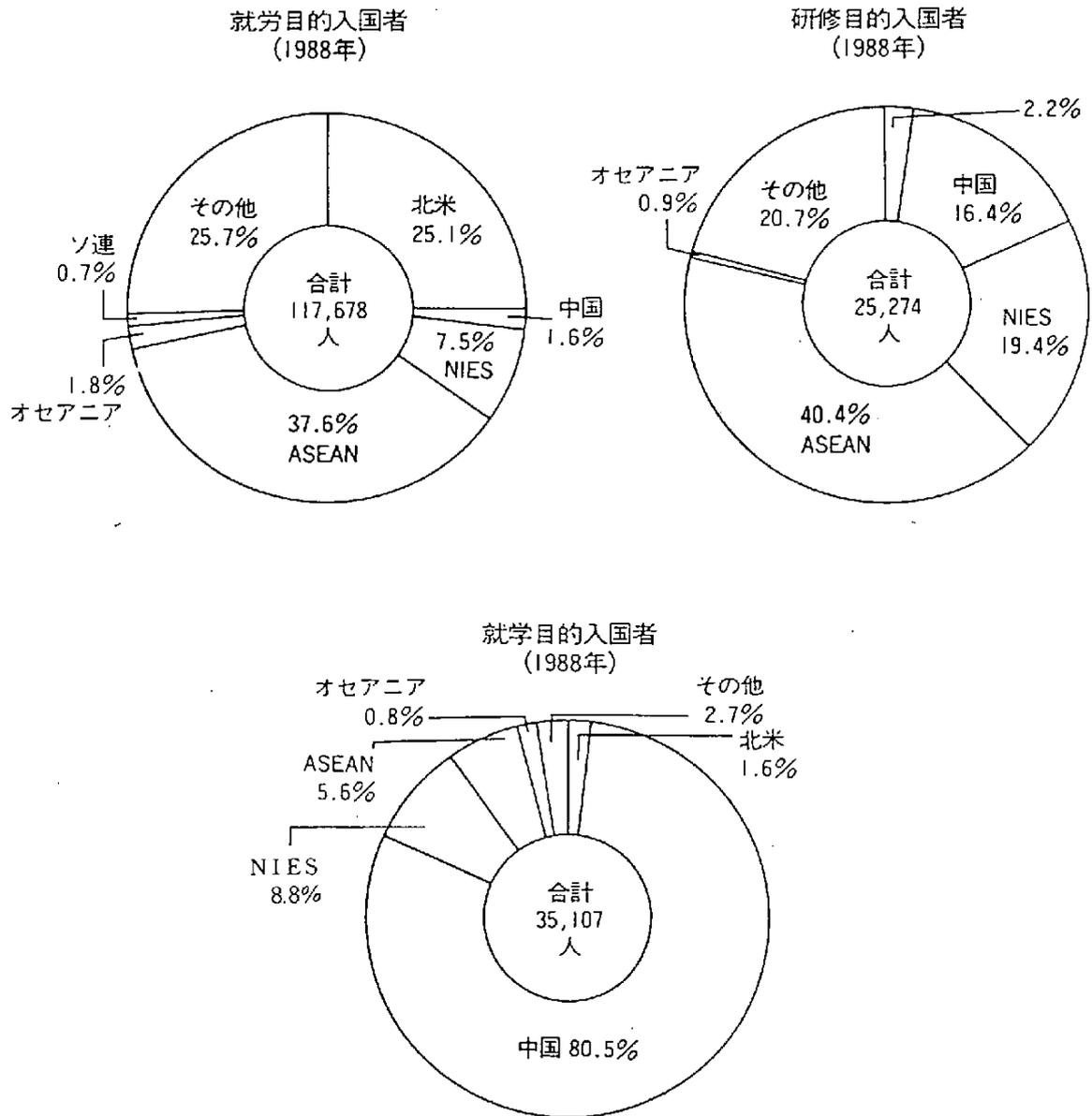
九州大学における外国人留学生の内訳を見ると、総数435名の内、アジア系は375名（86%）と大半を占め、特に、中国系、韓国からの留学生が多い。

九州大学外国人留学生数一覧表（'90.11月 表4）

○ アジア計	(375)	○ 中近東	(5)
中国系	210	○ ヨーロッパ	(13)
韓国	86	○ アフリカ	(15)
インドネシア	27	○ 北米	(5)
シンガポール	12	○ 中南米	(17)
マレーシア	10	○ オセアニア	(5)
フィリピン	9		
タイ	4		
パキスタン	4		
その他	13		
		総計	435名

労働のための人の流れは、以前は北米や中近東への流れが大きく、日本への流入は比較的新しい現象である。就労目的で日本へ流入してきている外国人の出身国をみると、アジア太平洋地域からのシェアが大きいことがわかる。

○わが国への就労・研修・就学目的入国者 (図1)

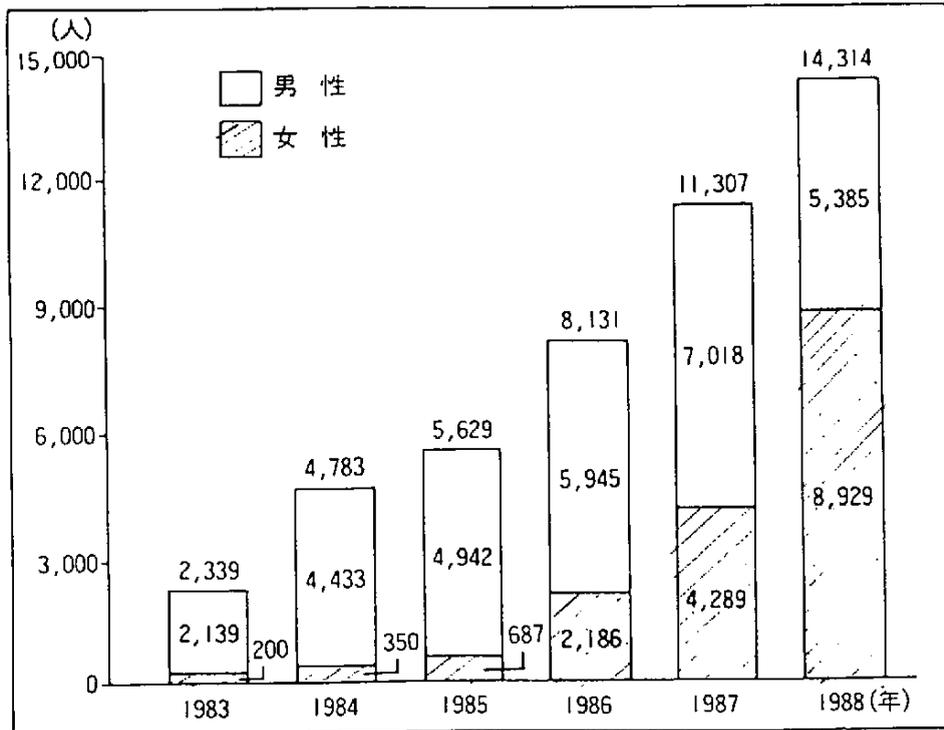


注:「研修目的入国者」と「就学目的入国者」は本来の就労目的以外の入国者であるが参考までに掲げた

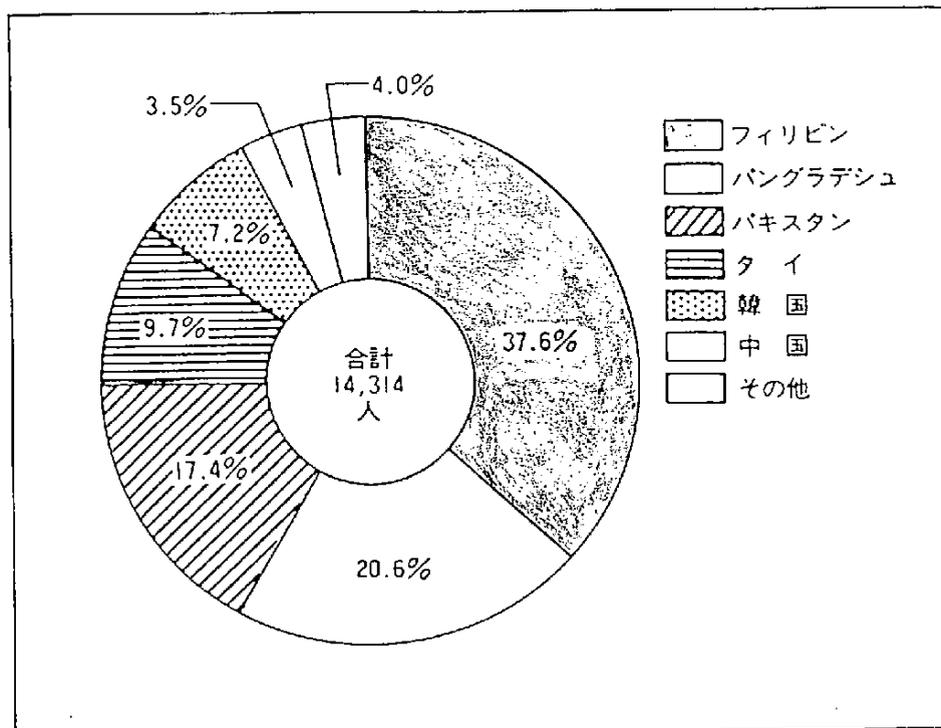
出所:法務省「出入国管理統計年報」

また、日本への不法就労者も年々多くなってきており、その国籍もアジアが大半である。

○わが国における不法就労者の推移（性別人員）（図2-1）



○不法就労者の国籍（図2-2）



出所：法務省「昭和63年上陸拒否者及び入管法違反事件の概況」から引用。

2.2 地域の国際化

このような動きの中、地域レベルにおいては、国レベルでなしえない手法や発想をもってできる国際化の推進があるはずである。

外国との経済や文化交流にしても、従来は大半が東京を経由してなされていたが、これからは都市間直接交流の時代だといわれる。

「国と国との交流」というスタンスでは実現しにくい「人と人との交流」という、きめこまやかでより親密な国際交流が求められよう。

住民そして企業が、また民間団体や学術研究団体、地方公共団体がといった多様な主体による、多様な分野での交流の積み重ねが重要である。

2.3 困っている外国人

このように日本と諸外国、特にアジアとの関係が相互に強まりをみせている中、たくさんの方が日本へ流入してきている状況を見た。

しかしながら、日本へ来て暮らしている外国人が日本の暮らしに満足しているかどうかは、はなはだ疑問である。どのように困っており、また、何を求めているのかについて、現在日本で就労している外国人社員に対して実施されたアンケート結果（表5、表6）によると、生活上の最も大きな問題点は、「言葉の障害」について「住宅問題」、「自然環境」、「交通」となっている。

これを国籍別にみると、アジア人は「住宅問題」や「地域での人間関係」をあげる人が多い。これは、特に重要な指摘と受けとめるべきである。

外国人留学生と外国人婦人によるグループ・インタビューからも「言葉による障害」が原因で子供の教育や隣近所つき合いなど苦勞したこと。「住宅問題」では市営住宅に入居する難しさ、また、仲間意識の強い日本人グループとの「人間関係」で苦勞した事例が多く上げられている。

○仕事や会社に対する不満（国籍別）（表5）

（単位：％）

	北米 n=36	欧州 n=28	アジア n=23	その他 n=7
仕事量に対する要員不足	25.0	14.3	4.3	14.3
仕事内容と自分の能力・関心と が合わない	11.1	10.7	13.0	28.6
責任・権限が少ない	38.9	28.6	17.4	0.0
会社や上司の意思決定が遅い	44.4	28.6	13.0	14.3
仕事の割り振りが不公平	11.1	7.1	17.4	14.3
昇進・昇格の見込みが小さい	36.1	50.0	26.1	14.3
会社や上司が能力開発に不熱心	19.4	17.9	8.1	0.0
給与が安い	19.4	14.3	21.7	0.0
査定が不公平、不明確	38.9	46.4	21.7	14.3
時間管理、コスト管理が厳しい	2.8	10.7	21.7	0.0
オフィス環境がよくない	27.8	10.7	21.7	14.3
職場の人間関係がよくない	13.9	3.6	17.4	14.3
残業が多い	13.9	10.7	21.7	14.3
有給休暇がとりにくい	11.1	25.0	21.7	14.3
職場外での付き合いが多過ぎる	8.3	7.1	4.3	0.0
その他	11.1	10.7	8.7	42.9
特に問題はない	8.3	10.7	26.1	28.6

（社）平和経済計画会議「外国人社員の就労と生活の実態」

NIRA 1990 VOL3 NO7

○日常生活の問題点（国籍別）（表6）

（単位：％）

	合計	北米 n=36	欧州 n=28	アジア n=23	その他 n= 7
言葉の障害	39.4	47.2	46.4	21.7	28.6
住宅問題	29.8	16.7	35.7	52.2	0.0
日常の買物	4.3	8.3	3.6	0.0	0.0
交通	24.5	27.8	25.0	13.0	42.9
教育	4.3	0.0	10.7	4.3	0.0
医療	5.3	5.6	7.1	0.0	14.3
安全・衛生	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
地域での人間関係	18.1	11.1	17.9	26.1	28.6
自然環境	27.7	27.8	39.9	13.0	28.6
行政サービス	8.5	13.9	7.1	4.3	0.0
母国の情報不足	18.1	11.1	17.9	21.7	42.9
その他	16.0	11.1	25.0	13.0	14.3

（社）平和経済計画会議「外国人社員の就労と生活の実態」

NIRA 1990 VOL3 NO7

次に、外国人にとって住みやすい日本にするための日本が改めるべき課題については以下（表7）の通りの結果が出ている。

○日本の課題（表7）

医療・社会保障問題	(%)
外国語の通じる医療機関の充実	33.0
外国人のための医療に関する情報サービス体制の整備	25.5
日本の年金と母国の年金との通算制度の確立	53.2
教育関係	
外国人生徒を受け入れる学校の拡大	43.6
公的な教育相談機関の整備	18.1
外国語のできる先生の増加	34.0
外国人生徒のための日本語補習体制の整備	22.3
外国人のための公的な日本語研修施設の整備	41.5
住宅関係	
企業の住宅政策の整備・充実	23.4
日本人並みの公的住宅への入居	46.8
外国人のための住宅情報サービス体制の整備	50.0
住宅紹介行政サービスの充実	34.0
行政サービス関係等	
外国語の資料・パンフレットの作成	46.8
相談サービス体制の整備・充実	45.7
外国語の分かる職員の増加	38.3
地域社会における国際交流活動の拡大	31.9
日本の文化・社会の海外への広報活動の充実	36.2
その他	9.6

言葉の障害の解消に関するものと、情報サービス体制などの総合的な体制作りとに2分される。

2.4 外国人グループインタビュー要約

外国人が日本に来て、「何に困っているか」「必要な情報は何か」について、外国人留学および在福岡外国婦人のグループにインタビューを行って、彼等の経験を話してもらった。

①外国人留学生の声

◎日本への留学、日本・福岡・大学の情報について

- ・韓国では日本の最新情報を得ることはむずかしい。
- ・「福岡」はどこにあるか知らなかった。
- ・日本に来てから福岡へ行くことがわかった。
- ・タイでは日本の情報は豊富。

◎住宅問題について

- ・大学の先生は勉強のことだけで、住居の相談には乗らない。
- ・市営住宅を申し込んで3年後に抽選に当たった。
- ・韓国人の先輩に「市政だより」を見るように教えられた。
- ・市営住宅に優先的に入れるし、留学生会館も充実しつつある。

◎人間関係

- ・「仲間」に入れないし、社会的に軽くみられる。
- ・月1回皆で清掃する。
- ・仲間になるまで人間関係に時間がかかる。
- ・日本の大学生はわがまま。
- ・忙しく近所付き合いの暇はない。

◎病気・病院・緊急連絡

- ・病院は親切だが余分な治療をすすめる。
- ・治療費が高い病院と安い病院がある。
- ・「104」で日祭日の当番医院を調べる。

◎コンサート・催物

- ・日本の伝統的なイベントやコンサートがない。
- ・高くて行けない。
- ・イベントの詳しい内容のデータベースがほしい。

◎買物について

- ・食料品は近くのスーパーで、デパートは見るだけ。
- ・安い店の情報は友達に聞く。
- ・食料品も衣料品も安い時に買う。

◎アルバイトについて

- ・‘AN’で探したが、日本語があまりできないので辞めた。
- ・日本人学生は家庭教師などがあるが、留学生にふさわしいアルバイトがない。

◎悩みを相談する人

- ・大学内にはいるが、大学外では福岡にはいない。
- ・留学生を1つにまとめ、代表者を選んで世話係を作る。
- ・個々の国の留学生会長の連絡会が必要。
- ・学生課は留学生に不親切。

◎情報提供の方法

- ・英語、中国語、韓国語、日本語の4カ国語による情報が必要。
- ・情報提供端末が留学生会館と市の情報サービス・センター（レインボープラザ）に必要。

②在福岡外国婦人の声

◎福岡の印象

- ・東京より住みやすく、きれいな街。
- ・東京より人情味があり暖かい。
- ・街を行く人々の表情は忙しそうで、余裕がない。
- ・デパートや地下鉄の暖冷房が効きすぎ、エネルギーの無駄使い。
- ・福岡は他の土地より物価も安い。
- ・近所の人とはあまり親しくなれない。
- ・物価が高い。
- ・アメリカと比べると家が狭く、物価が高い。

◎困ったこと、知りたい情報

- ・引っ越しの時にのみやげをもっていかなければならない。
- ・物価が高いので住宅を借りる時に困る。
- ・肉体労働以外のオフィスなどのアルバイトをしたい。
- ・住宅やアパートのことが知りたい。
- ・物を安く買える店を知りたい。
- ・バスの番号が複雑でわかりにくい。
- ・病院その他の案内が英語表示であればよい。
- ・昼の上での生活が困った。
- ・安い外国料理レストランが知りたい。
- ・電話帳を調べることができない人への電話番号の問い合わせ。
- ・24時間ヘルプラインの英語の電話案内がほしい。

2.5 国際化に対する認識の不足

このような状況をひきおこしている原因としてはわが国の種々のレベルの背景や事情があるが、最も重大な点は、「国際化への必要性に対する認識の不足」であろう。なぜ国際化が求められるかについて、言いかえれば、国際化することの重要性を明確に認識している日本人はまだまだ少ないようである。国際化推進はそこから始めなければならない。

国際交流調査によれば海外旅行経験者は37%になっているが、「観光」85%、「視察」10%、「国際交流等の海外出張」7%であり、「外国人の友人がいる」と答えた人は10%足らずで、国際交流は始まったばかりと言える。

国際化には種々のレベルがあり、またそのアプローチにも多様性がある。しかしながら、その根底になくてはならないのが、「交流を通じ相互の理解を深めること、そして相互利益を追求すること、ひいては世界の平和に貢献すること」という理念である。

この点についての認識をどの程度もっているかは市民ひとりひとりで異なる。職業や年齢、性別によっても異なるだろうし、地域差によっても違うことが予想される。

今述べたような認識の差が市民の中にあることに加えて、国際化を推進し、リーダーシップをとるべき立場にある行政において、国際化の必要性に対する認識が充分とは言えない点も大きな問題である。

国際化の推進について、福岡県の行政における国際交流の意識調査によると、「田舎では外国人とはめったに会わないので別にそう必要とは思わない」「市民にどう言って必要ですよと説明してよいかわからない」という回答もあり未だ模索中といったところが正直な現状ではないだろうか。もちろん、早くから国際化推進にとりくみ、また、熱心に種々のイベントや地道な研究会、学習会を開いている地方自治体もある。しかしながら、大都市でない大半の小さな自治体では、「なぜ国際化をすすめるべきか」について認識するところから始めるであろう。

2.6 求められる受け入れ体制づくり

外国人を暖かく迎え入れ、友好的な国際交流を保つためには受け入れ体制の整備が必要となる。

そのためには外国人が何を必要としているかを把握し、それを満足させるハード面（種々の設備など）とソフト面（サービス体制や情報提供を含む）の充実が大切であろう。

具体的には種々のレベルで多様な受け入れ体制がとられることになるが、最も基本的かつオールラウンドのサービスのひとつに、外国人のための情報データベースの整備がある。

3. データベースの必要性

3.1 データベースの主要な役割

データベースは日本へ来る外国人に対して大きく次のような内容の情報提供を考える。

研究会の中でも情報提供対象者と情報内容については論議を読んだが対象者については観光客、留学生、研修生、就労目的の在留者など短・中・長期の滞在者をカバーすることで進むことにした。

- ①九州各県の紹介
- ②観光情報（できるだけ所在源情報を利用）
- ③官公庁等案内（特に国際交流関係を中心に）
- ④医療情報
- ⑤住居情報
- ⑥日常生活関連情報
- ⑦教育情報
- ⑧法的手続き

などを提供するのもデータベースの役割といえよう。

3.2 データベースのもうひとつの効果

データベースの必要性は上述のように明確であるが、さらにデータベースにはその構築過程や運営の過程において、次のような広範囲の効果を生じるという利点がある。第一に挙げられるのが市民や市民グループに協力をしてもらうこと自体による市民の国際化意識の深まりを促せる点である。

データベースに盛りこむ内容の網羅性、多様性といった性格上の特徴を満たすためには専門家のみならず、種々の市民レベルからの協力をあおぐ方が内容のよいものになる。また必ず外国人（可能な限り多様で種々の来日目的を持つ外国の方）の協力も不可欠である。

こういった多くの方々の相互の情報交換や討論、検討といった共同作業を通じることにより真に役立つデータベースが作り上がるだろう。

データベースの構築に関する研究・検討過程における協力体制としては、市民各層（およびグループ）と外国人各層（やグループ）が中心となり、専門家や行政からの関連する人々、そしてデータベースの技術的開発スタッフ等がサポートする形が望ましい。こうすることで、市民ひとりひとりによる密着した暖かみのあるデータベース作りを目指すことができる。

ここでのポイントは次の3点である。

- ① 専門家主導形にしない。
- ② 外国人と市民の協力体制を固める。
- ③ 単発アドバイスや一方向的なヒアリングでなく、継続的で双方向の事情聴取と意見交換が必要である。

以上のようなデータベースの効果をまとめると下のようになる。

- ① 市民の国際化意識の啓蒙
（市民団体、グループによる協力）
- ② 構築過程に関与することによる国際交流
新ネットワークづくり
新リーダー育成

4. データベースの情報内容

4.1 在日目的からみた必要情報

在日目的は大きく（１）学習、（２）就労、（３）観光に分けられ、それぞれの３つの必要情報と生活関連情報がある。

（１）学習

これには留学・就学といった長期のものから、観光をかねたホームステイでごく短期というものも入る。いずれにせよ何かを「学習」することが主目的にすえられた在日形態をいう。

当然、その学習する環境を得るため情報、具体的な入学届け、履修届けなどの諸手続き、また学習環境としての図書館や資料館などの案内、利用の仕方など、また寮の暮らし方。

これらの微細でかつ大切な、そして日本人には当然すぎて意識できないような情報はそのような体験を既に経て困った覚えのある外国人から協力を得て、できるだけたくさんを網羅するのが望ましい。

そしてそれと同時に日本人スタッフや受け入れ側の関連する人に聞かせ、相互に話し合っこそよいい完成情報となる。

○教育情報

- | | |
|--------------|--|
| ①日本の教育システム | 学校制度、小学校、中学校、高等学校、
大学、その他 |
| ②外国人子弟が学べる学校 | インターナショナルスクール
(International School)
市立学校 (Municipal School)
……小・中学校
市立高等学校と県立高等学校
小・中学校への新入学及び転入方法、
問い合わせ先
教育費、学童クラブ |
| ③幼児を対象としたもの | 保育園、幼稚園、児童館、問い合わせ先 |
| ④日本語学校 | 大学 (大学名、所在地、授業日)
Y M C A 等その他
(学校名、所在地、TEL) など |

(2) 就労

年々日本で働く外国人が増えている状況は前にみた。その受け入れ時に当然発生する諸々の必要な世話やカルチャーギャップについては、個々の企業にその対応を押しつけているのが現状であろうし、またその対応が充分であるとは言えない状態である。

これについても学習目的と同様にできるだけ多くの在日就業者（各層、各業態……）から協力をあおぎ、その経験を分析し、情報化する作業が必要である。

これも雇用者としての日本人にも同時に協力いただき、双方向の検討スタイルでより密度の高い情報につくりあげていくことが重要である。

○就労関係

- ①外国人登録 外国人登録……申請場所、必要書類
再交付申請
・氏名、国籍、職業、在留資格、在留期間、
勤務先の名称及び所在地に変更が生じた時
……届出期間、必要書類
・外国人登録証明書の記載の確認（切替）
外国人登録済証明書、印鑑登録及び証明書
問い合わせ先
- ②年金法 国民年金法（適用範囲、手続き、支払い方法、
種類、特別な場合）
雇用者の年金保険（適用範囲、支払い方法、種類）
共済保険、問い合わせ先
- ③銀行 窓口営業時間、口座の開き方、通帳
一般的な預金の種類（普通預金、当座預金、通知
預金、納税準備預金、定期
預金、期日指定定期預金、
積立定期預金）
総合窓口、キャッシュカード、外貨預金、国内送
金、海外送金、外貨両替、公共料金の支払い、解
約、銀行一覧リスト
- ④郵便局 窓口営業時間、口座の開き方、総合通帳
預金の種類（通常預金、定額預金、定期預金）
キャッシュカード、国内送金、海外送金

○税金

税の負担について

国税（所得税、法人税、相続税、贈与税、酒税、物品税）

地方税（住民税、事業税、タバコ消費税、自動車税、自動車取得税）

市町村税、固定資産税、軽自動車税

納税通知書、納税方法、納税証明書、賦課決定前に出国するときの処置

○交通規則と運転免許

交通規則（運転するとき、違反通知、違反点数、交通標識）

免許証（国際運転免許、日本での運転免許を獲得する方法、自動車免許取得試験と発行、問い合わせ）

（3）観光

基本的には日本人に対する観光案内と同じものであるが、それ以上に次のような角度からみて外国人にだけ必要な情報というものもある。

1. 乗り物の乗り方、切符の買い方、切符の種類……

改札の出方……などの日本人なら知っているが外国人には詳しく知らせる必要のあるもの。

2. 日本人に対し特に求められている“日本的なもの”“オリエンタルムードのするもの”に対しての詳しい案内
3. 伝統産業、伝統芸術の案内

○観光情報（福岡市周辺を例にとった場合）

1. 名所旧蹟（海の中道シーサイドパーク、大濠公園など）
2. 行事・催事（博多どんたく、博多祇園山笠など）
3. 伝統工芸（博多織、博多人形など）
4. 博多の珍味（ふぐ、おきゅうと、博多ラーメンなど）
5. 観光コース

福岡市近郊コース、定期観光バスによるコース
タクシー観光ツアー、長期滞在観光ツアー、
バス観光ツアー
最寄りバス停、地下鉄駅名、所用時間
バス・地下鉄料金、観光コースごとの主要地名

(4) 生活関連情報

在日目的に関連して必要なのが生活関連情報である。

知らない土地で“暮らす”事はなかなかやさしいことではない。住むところを探したり、決めるにはいろいろな手続きが必要である。

また、住む環境を整えるには家具をそろえたり、生活必需品を安く用意したり、電気・ガス・水道などの申し込みなど大変な手続きが必要であり、外国人留学生や外国人婦人のグループ・インタビューでも苦労話が次から次へと出されている。

隣近所とのつき合い、赤ん坊の泣き声がうるさいとか子供の教育など、新しい環境で新しい体験をすることになる。

数えあげればきりが無い程多様な情報が必要とされるが、以下に研究会で論議した項目を並べてみる。

○日常生活の重要情報

1. 水道 申し込み、取り止め、支払い方法、ご使用水量等のお知らせ
水道料金等領収書、サービス事務所、修理
2. 下水 使用開始、取り止め、計算法、支払い、移転の時、問い合わせ先
3. ごみ処理 普通ごみ、分別ごみ、粗大ごみ、収集日、収集ごみを出す時の注意、電気製品を出すとき、危険物、動物の死体
4. 電気 使用申し込み、取り止め、料金計算、支払い方法、電気使用料のお知らせ、領収書（口座振替払用）の内容、事故防止法、停電した時、使用上の注意、移転の時、問い合わせ先
5. ガス 申し込み、取り止め、料金計算、支払い方法、ガス使用料のお知らせ（兼）料金口座振替のお知らせ内容、安全チェック・使用法、移転の時、問い合わせ先
6. 電話 自宅取り付け、かけ方、料金計算、支払い方法、移転・取り決め、明細書の内容、公衆電話、テレホンカード、国際電話、夜間及び土・日・祝日割引制度、問い合わせ先
7. 郵便 郵便局の立地場所、取扱時間、各種サービス
国内便の種類・サイズ・重量、国際便の種類・サイズ・重量、料金表（国内、海外）、不在通知
8. 遺失・拾得 発生場所による連絡先、警察署、派出所
9. ペット 犬の予防接種と登録、動物管理センター、
不要の時交換したいとき、特殊動物の許可、
外へ連れ出すとき

10. 役に立つ情報 靴、服などのサイズ、度量衡、商品マーク（JIS等）
食品の保存（賞味期限等）、不要品交換情報、
生鮮食品安売りデー、消費者相談所、銭湯、
コインシャワー、コインランドリー、クリーニング店、
美容院、美容院、自転車の路上放置禁止
11. 引っ越し 転居先の区役所で住所変更（外国人登録・国民健康保険・
印鑑登録などの関わり）
電気・ガス・水道・電話・郵便届先の変更手続き
小・中学生の学校手続き
12. 災害予防対策 災害、風雨、地震
13. 緊急事態 犯罪、交通事故での応急処置、火災での消火器の使い方
急病、各連絡先

○医療情報

1. 健康保険 目的、公的機関・組合・加入範囲（強制、任意）
被保険者（適格者、適用期間）、扶養家族について
保険金負担について、保険給付、手続き
2. 国民健康保険 加入する時、やめる時、住所や世帯人数に変更が生じた
時、保険料の収め方、国民健康保険被保険者証対象者、
保険給付（自己負担金と支払い）
高額医療養費の支給、その他の給付、問い合わせ先
国民健康保険に関する必要な手続き一覧
留学生の場合、国民健康保険で適用されない場合、
その他の注意事項
3. 出産と検診等 妊娠届、母子健康手帳、妊娠健康診査受診票、
B型肝炎検査受診票、入院助産の助成
乳児健康診査、幼児健康診査、
予防接種（BCG、M・M・R、三種混合、日本脳炎
インフルエンザ、小児マヒ生ワクチン）と実施時期
問い合わせ機関
4. 労働者災害
補償保険 医療補償救済、義務でない補償救済、
傷害・病気年金掛金、傷害者補償救済、
家族を失った人の年金掛金、葬儀費用、
問い合わせ先

- | | |
|-----------|--|
| 5. 健康センター | 健康についての指導
(母と子の健康、保健婦の活動、精神面での健康法、
栄養の改善、老人の健康、伝染病の予防、性病の予
防、結核の予防)
地域環境における健康についての指導
公共健康センターの問い合わせ先 |
| 6. 公共病院 | 住所、電話番号 |

○賃貸住宅情報

- | | |
|------------|---|
| 1. 市営住宅 | 申し込み資格と住所の形式、募集、申し込み方法、
抽選、問い合わせ先 |
| 2. 県営住宅 | 問い合わせ先 |
| 3. 住宅公団の住宅 | 申し込みと契約、申し込み場所、問い合わせ先
空室予定の応募(タイプ、申し込み方法、応募資格)
留学生の場合(資格、必要書類、抽選、当選後の手
続き) |
| 4. 民間の住宅 | 住宅の探し方
契約(手続き方法、手付金、敷金、仲介手数料、共
益費、連帯保証人)解約、不動産情報、問い合わせ先 |

4.2 日本人のための情報

迎え入れる日本人のためとしてのデータベースの視点もある。

例えば、姉妹都市提携先の地域、国の情報が欲しい。また、接遇の方法、注意点が知りたい。対外国人との交渉の仕方のアドバイスが受けたい。交流活動をやりたいので人を紹介して欲しいなどなど、日本人からのアプローチも多種あると思われる。

これらもふまえてこそ異文化、異経済ということを前提とした相互理解のための双方向のデータベース作りとなる。

4.3 利用できる他情報

① 自前で集める情報と他情報を使い分ける。

そのためには所在源情報の範囲内に留め、詳細情報は所在源にまかせる。例えばデータベース内容としては旅館組合案内所に留め、地方の旅館の料金やあき情報は地方の旅館案内組合にまかせる。またゲートウェイにより他の利用できるデータベース情報とも結ぶ。

② 他情報の利用

利用上の制約は以下のとおりとなっている。

情報利用の相手先と利用上の制約

	要折衝相手先	情報利用上の制約
公 的 機 関	国の機関	法律で認める情報以外は利用不可 例 個人情報の目的外使用は不可
	地方公共団体	条例で認める情報以外は不可
	大学	教員、大学院学生、文部省・文化庁の研究職員 科学研究費補助金を受ける研究者等のみ利用可
	地域情報センター	事業目的に合致すれば可能
	公的試験研究機関	場合による
	組合・団体	事業目的に合致すれば可能
	第三セクター	事業目的に合致すれば可能（現実には、 所管官庁の考え方による）
	全国的広域情報センター	事業目的に合致すれば可能
民間企業	データベース事業者	契約次第で可能
	一般企業	契約次第で可能

九州山口経済連合会「九州データベースセンター構想」調査より

今回とくに関係が深いのは国の機関、地方公共団体、地方情報センターと民間企業と言える。

ただし情報利用の際、知的財産権、著作権とプライバシーの問題は充分検討しなくてはならない。

③ゲートウェイの可能性

日本科学技術情報 センター J I C S T	現在	○日経テレコンから
	将来	○もうすぐキャプテンから
日本貿易振興協会 J E T R O	現在	○NEC, 富士通パソコン通信
	将来	—
日本特許情報機構 J A P I O	現在	×実績も計画もなし
	将来	?考える必要があるが分らない
中小企業事業団 S M I R S	現在	×難しい
	将来	?分らない
九州大学 大型計算機センター	現在	×全国の組織なので九州 だけで決められない。
	将来	
九州経済調査協会 REQUEST 九州	現在	?ユーザーから要望あり。 未決定 他センターの状況みる。
	将来	

- 実施可能 ? 未決定
× 実施不可能 — 意見を得られず

九州山口経済連合会「九州データベースセンター構想」調査より

現在商用データベースとして利用度の多いのは、データベース白書によれば
①日本科学情報センターの「JOIS」②日本特許情報機構の「PATOLIS」
③日本経済新聞の「日経テレコン」などが多い。

④西日本新聞の情報ネットの利用

西日本新聞社では毎日約8万行を超える記事データベースが蓄積され、20数年に渡る情報システムの構築では独自の教育情報、人材情報、信用情報、など幅広い情報がたくわえられている。この外TVネットワークによる映像情報の提供やローカル・キャプテン会社、パソコン通信ネットを使って多角的な情報提供サービスを行ってきた。こうした幅広い多量・多種の情報を目的別に整理加工すれば利用可能となり、強力な情報源となりえるであろう。

○西日本新聞記事データベース（NIネット）

一日平均記事出稿量は、本社・支社・総支局・海外特派員や提携社・通信社から8万行に上り、約1/3が紙面に掲載される。掲載された紙面記事ファイルから必要なものを取捨選択して毎日200件前後の記事をパソコン3台を使い、日経テレコンと共同連動に送り出している。

情報内容の特色は、九州・山口の全域ニュース、各県ごとのデータ、市町村、それぞれの政治、経済、社会、文化など幅広い動きがきめ細かに網羅された地域情報が柱になっている点である。

平成2年1月、商用開始して以来丸1年以上が過ぎ、平成3年5月頃には蓄積量は日経テレコンが約10万件を超え、共同連動9万5千件となり、順調に増加している。商用化のねらいの外に編集支援という社内活用については、従来の切り抜きに変わって欠かせない道具となっている。九州・山口で初めての本格的な記事データベースとして、着実な前進をしている。

○パソコン通信（西日本新聞局N-NET）

新聞読者との即時、双方向の交流を目的として、'89年7月に開局したが、現在（'91年7月）で会員総数1,500人を数えている。

当初4回線からスタートし、一日250回を超えるアクセス数の増加にともない8回線に増設をした。

会員は、福岡市（48%）を中心に県内外から利用があり九州有数の人気局に成長した。

人気ボードは「フリートーク」だが、「新聞を考える」等の新聞社らしいテーマを持った掲示板もある。この会員の意見は新聞記事にも定期的に掲載され、「湾岸戦争を考える」として社会面にも登場した。

○ローカルキャプテン（福岡ニューメディア・サービス）

福岡地域キャプテンとして、福岡県、福岡市、NTT、新聞社、九電、地元の銀行・デパートなどの出資をつのり第3セクター方式で'86年に設立した。

サービスエリアは福岡都市圏とその周辺だが、全国キャプテンにも接続するので、全国のキャプテン端末からも利用できる。

現在、家庭会員数は3,000台で、公衆用端末もエリア内のJR、私鉄駅、空港、県庁、区役所などに200台設置されている。

提供情報はニュース、レジャー、観光などの総合情報の他に、福岡市のスポーツ施設の予約システムやマーケティング・システムなど社会システムとしての活用もされている。

月200万のアクセス数でローカルキャプテンとしては日本でも有数のキャプテン局として活動している。

4.4 アジア太平洋データベースのメンテナンス

研究会の中ではデータメンテナンスが大きな問題点として取り上げられた。

「リアルタイムの情報がDBの価値を高める」

「関係各所に情報の収集とメンテナンスの協力体制を整える」

「公的な税金を使って作成されたデータはできるだけ民間に提供しようという行政管理庁の指導がある」

など沢山の意見が出された。

必要な情報とは最新のデータであり、例えば飛行機やホテルの空情報のようなリアルタイムでメンテナンスされなければならない情報である。

メンテナンスの頻度が高ければ高い程、必要度が増加することも考えられる。そこで自動的にメンテナンスされる仕組みを作ることがアジア太平洋交流データベース情報センターを成功させる要因となる。

メンテナンスさせることでメリットをもたらす工夫が必要であろう。

そのためには情報源とはパソコンネットで結び、メンテナンスをしてくれた情報源には有料情報を格安でサービスしてやるなどの工夫をしたり、特に情報源に近い所でメンテナンス部門をもうける必要がある。

5.2 概要設計の前提条件

各コンピュータ・メーカーそれぞれ汎用の情報検索ソフトを提供している。
ここでは、日立のシステム例を一つのモデルケースとして取り上げる。

1. データベース検索ソフト

コンピュータは中型上位機種M640-20E(32MB)を想定し、VOS3のTSS環境で検索ソフト「ORION」を使って処理する。

2. 画像処理

外国人向けに分かりやすく提供するために、地図などの図形情報の画像処理が必要である。

①入力としては、画像OCRとHITFILE(光ディスク)の2つの方法を考えているが画像OCRの方がコストが安く、メンテナンスしやすい。

一方光ディスク方式は記憶容量が多く画像が鮮明であるが、メンテナンスに問題がある。

②出力はFAX出力・端末への表示・センターの漢字プリンタを考える。

3. ネットワーク

ネットワークはオンライン検索用端末の他に、普及の進んでいるパソコン通信用の端末(無手順端末)の利用が不可欠であり、ホストコンピュータに受け入れのための通信装置を準備する必要がある。

4. ディスク

①OSで約2.5GB(ギガバイト)

②データ・ベース約2.5GB

③ワーク・ファイルとして約2.5GB

④残り2.5GBは画像OCR導入時に画像用として、光ディスク導入時はバックアップ用

5. 画像容量

1画像につき120mm×180mmで約30KB(キロバイト)とすれば、2.5GBで約8万枚の画像が収納可能。

6. 入力データの翻訳、キーワード抽出システム

A. HICATS (日立翻訳支援システム)

外国人向けデータベースなので和英の翻訳システムが必要である。

入力は日本語データをセンターで一括自動翻訳し、その結果英訳のおかしな部分是对話形式で補い英文のデータベースを作成する方法が考えられる。

B. キーワード切り出し

日本語・英語ともに自動切り出しはせずに、人の判断によるものとする。

理由 (1) 辞書作成の工数がかなり必要となる。

(2) 日本語・英語キーワードの整合性が一致しなくなる。

[日本語から検索可能で英語からは不可能(また逆もある)という事が発生する。]

7. ORIONのデータ・ベース容量

文字情報データを1件あたり5,000バイト(2,500字相当)として10万件の情報量を想定して容量を計算すると約750MB(メガバイト)必要である。

前提条件：

① レコード長	= 5,000バイト
② レコード件数	= 10万件
③ 1レコード中のキーの数	= 100個
④ 1レコード中のフィールドの数	= 100個
⑤ ユニークなキーの数	= 200万件
⑥ 全キーの数(レコード件数×1レコード中のキーの数)	= 1,000万件
⑦ キー長	= 50バイト

(1) インデクスファイルの容量

$$\begin{aligned} & \text{インデクス部} + \text{データ部} \\ & = 166\text{MB} + 27\text{MB} \approx 200\text{MB} \end{aligned}$$

(2) ヘッドファイルの容量

$$\begin{aligned} & \text{インデクス部} + \text{データ部} \\ & = 1.2\text{MB} + 528.5\text{MB} \approx 530\text{MB} \end{aligned}$$

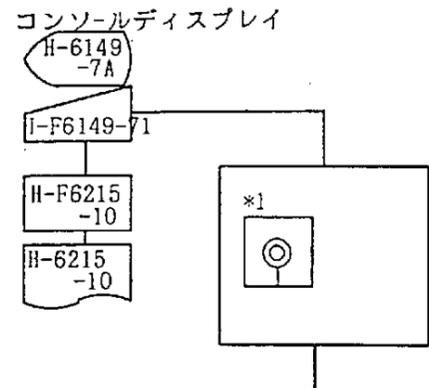
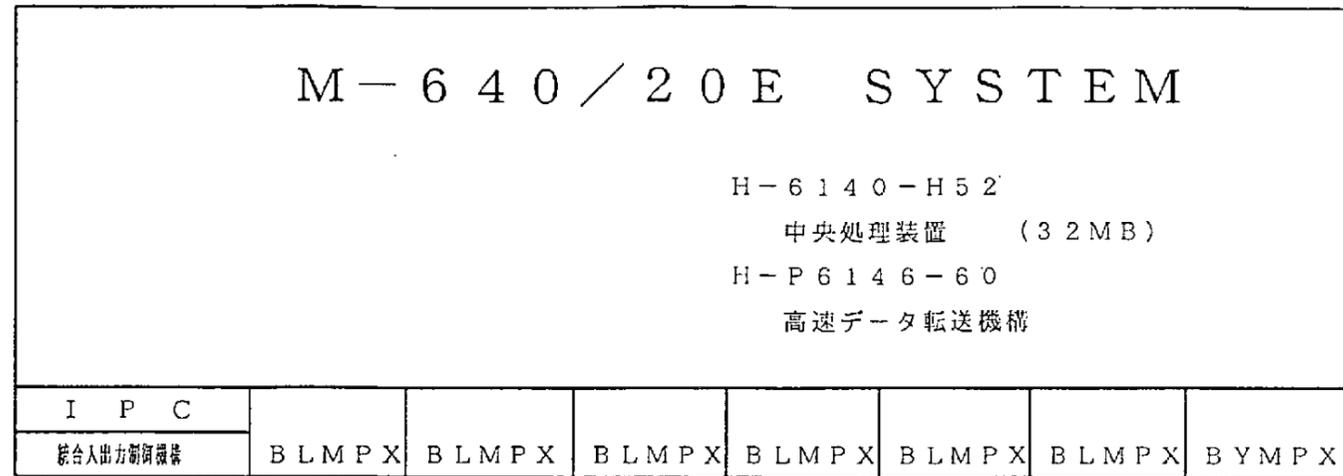
(2) その他

$$20\text{MB}$$

ハードウェア構成

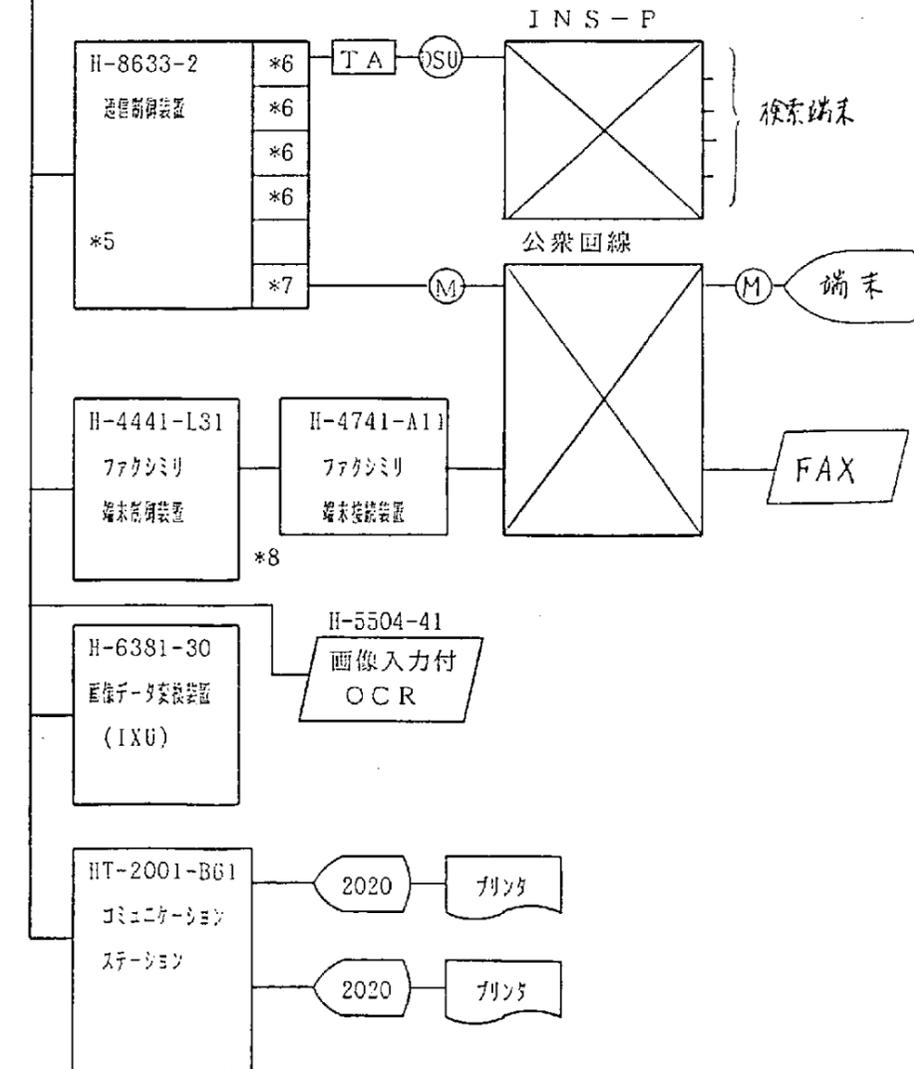
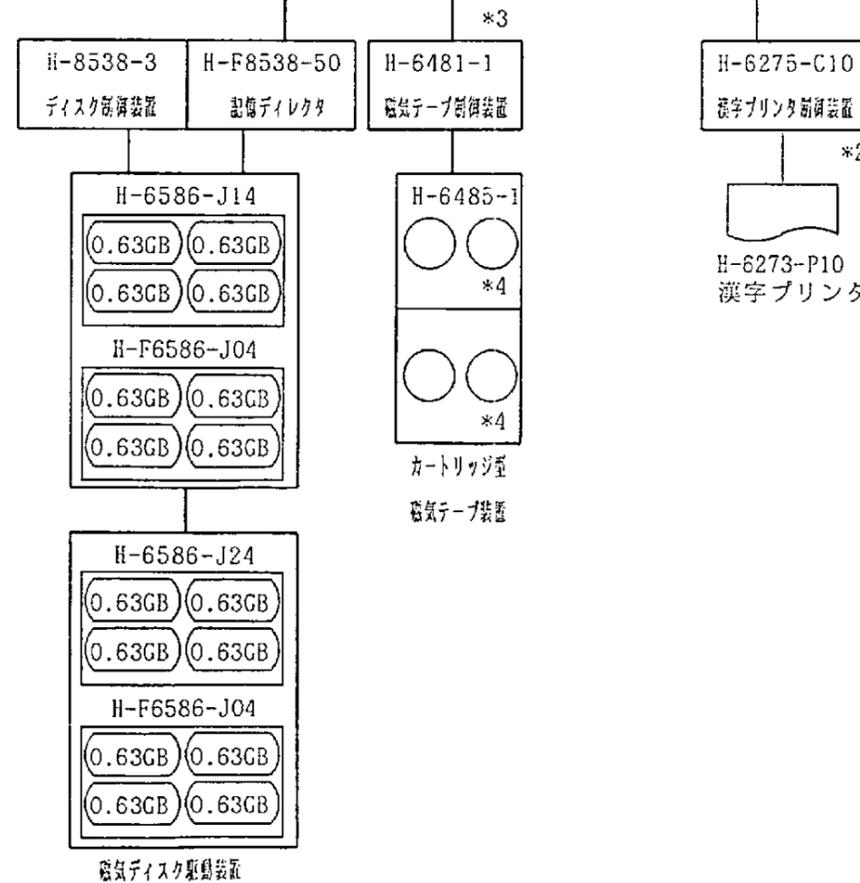
(画像OCR使用時)

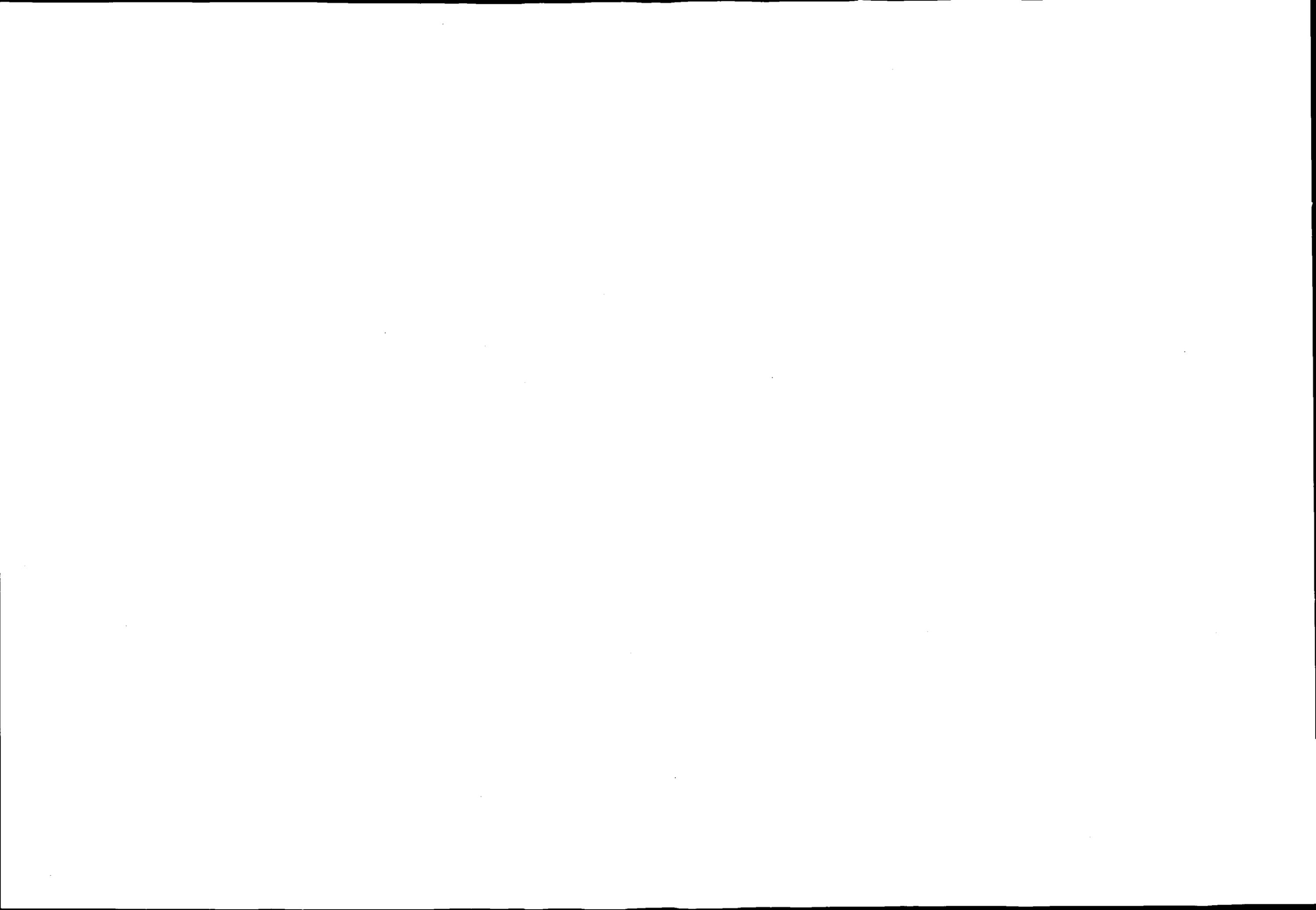
SYSTEM 機器構成図



- * 5 H-F8634-40 × 2
高速メモリ(128KB)
H-F8634-4
高速メモリ(256KB)
H-F8637-31
コミュニケーションスキャナ
H-F8635-1
回線インタフェース機構
- * 6 H-8716-4
ラインセットH2
- * 7 H-8719-1
ラインセットJ1
- * 8 H-F4741-983
漢字文字パターン

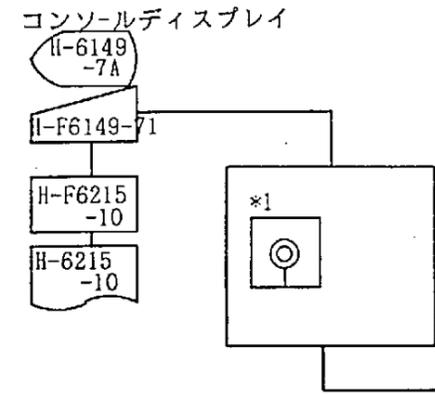
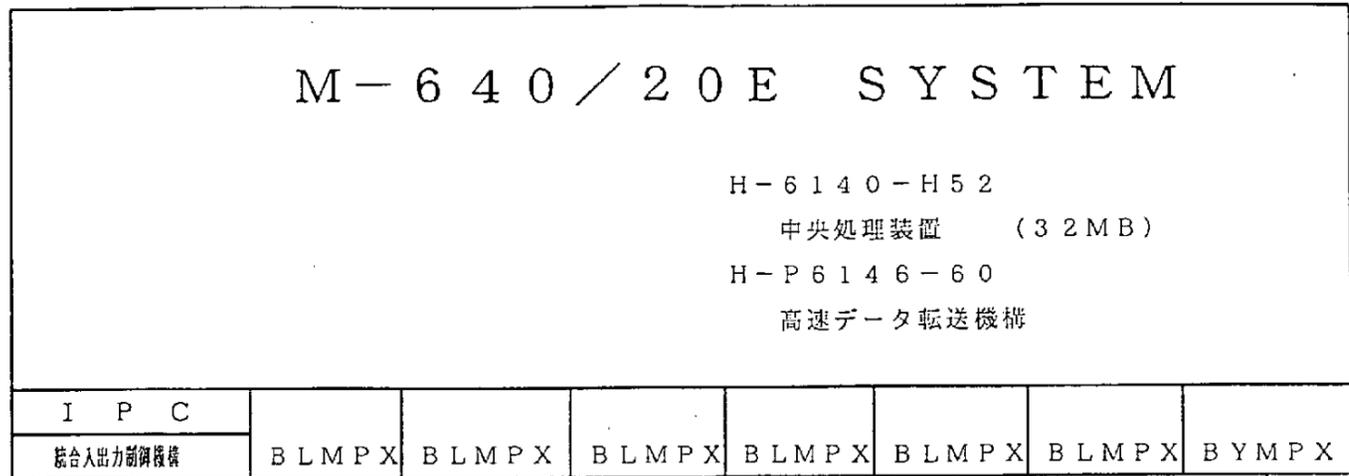
- * 1 H-6519-80/81 (8インチ)
フロッピーディスク駆動装置
- * 2 H-F6273-C11
書式オーバーレイ機構
H-F6273-C21 × 2
増設文字発生機構
H-F6273-C41
印刷データ拡張機構
H-F6273-C42
増設印刷データ拡張機構
H-F6273-C955
漢字文字パターン
H-F6273-P12
用紙拡張機構
- * 3 H-F6481-500
データ圧縮制御機構
- * 4 H-F6485-50
データ圧縮機構
H-F6485-60
カートリッジ自動交換機構





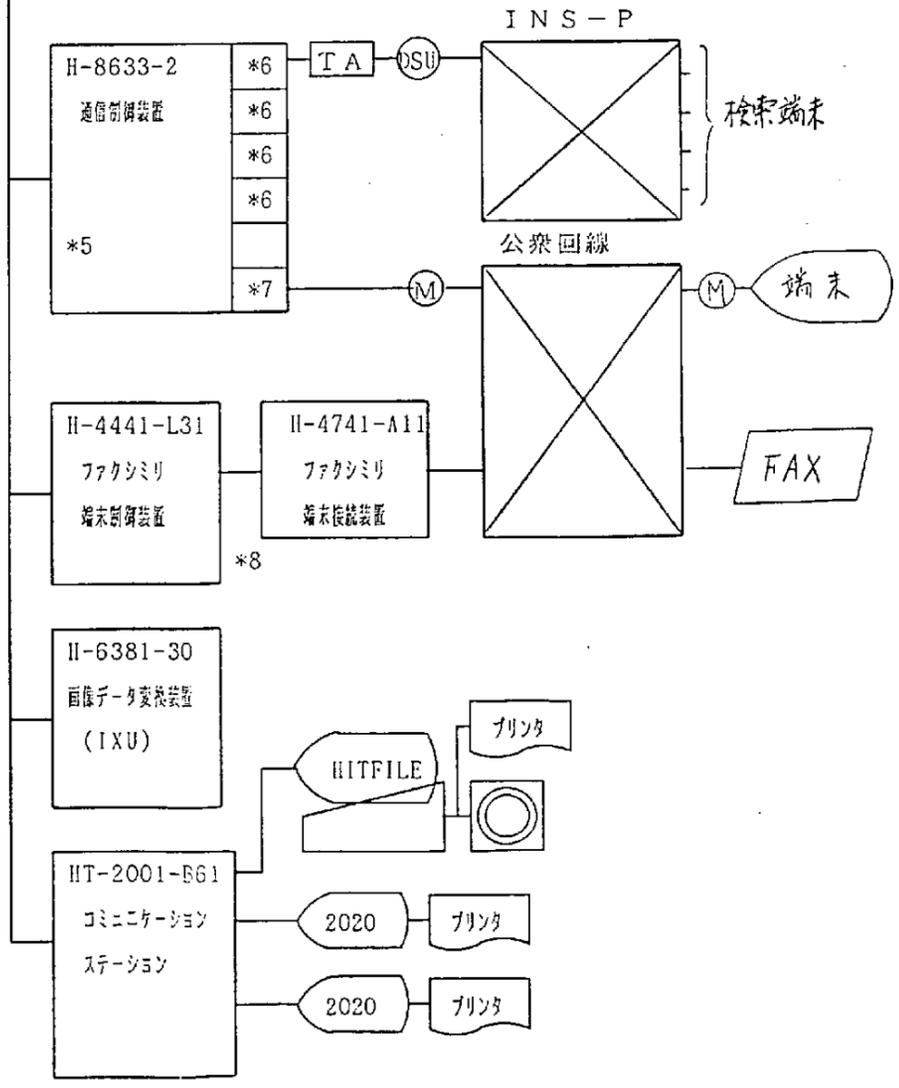
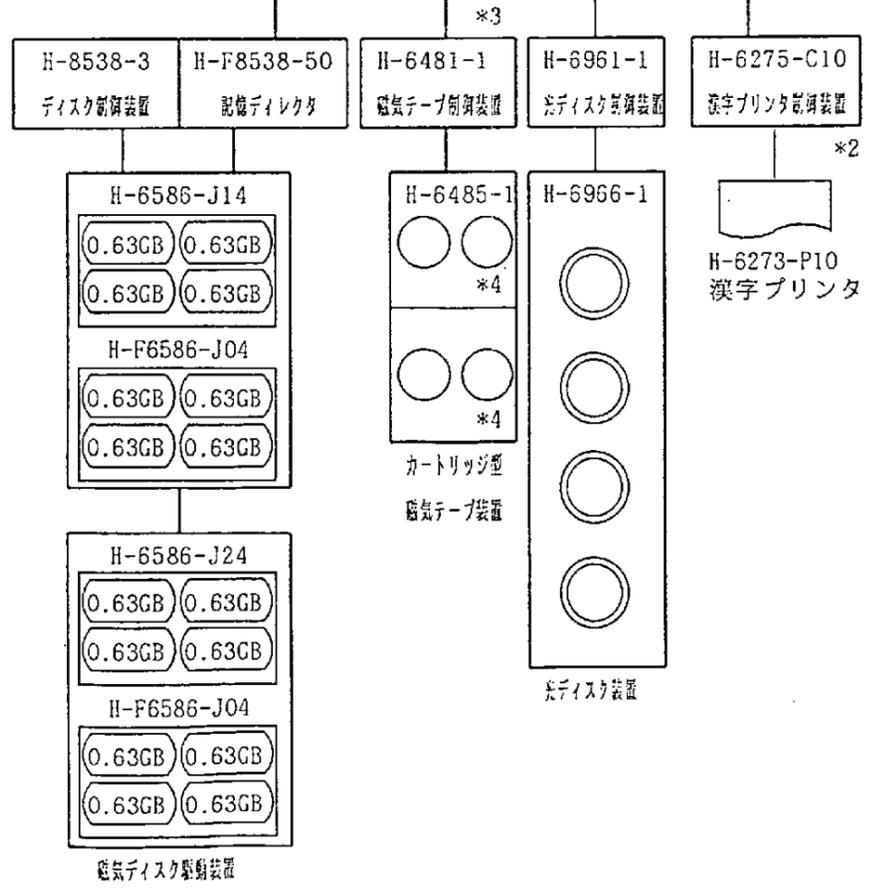
ハードウェア構成
(HITFILE使用時)

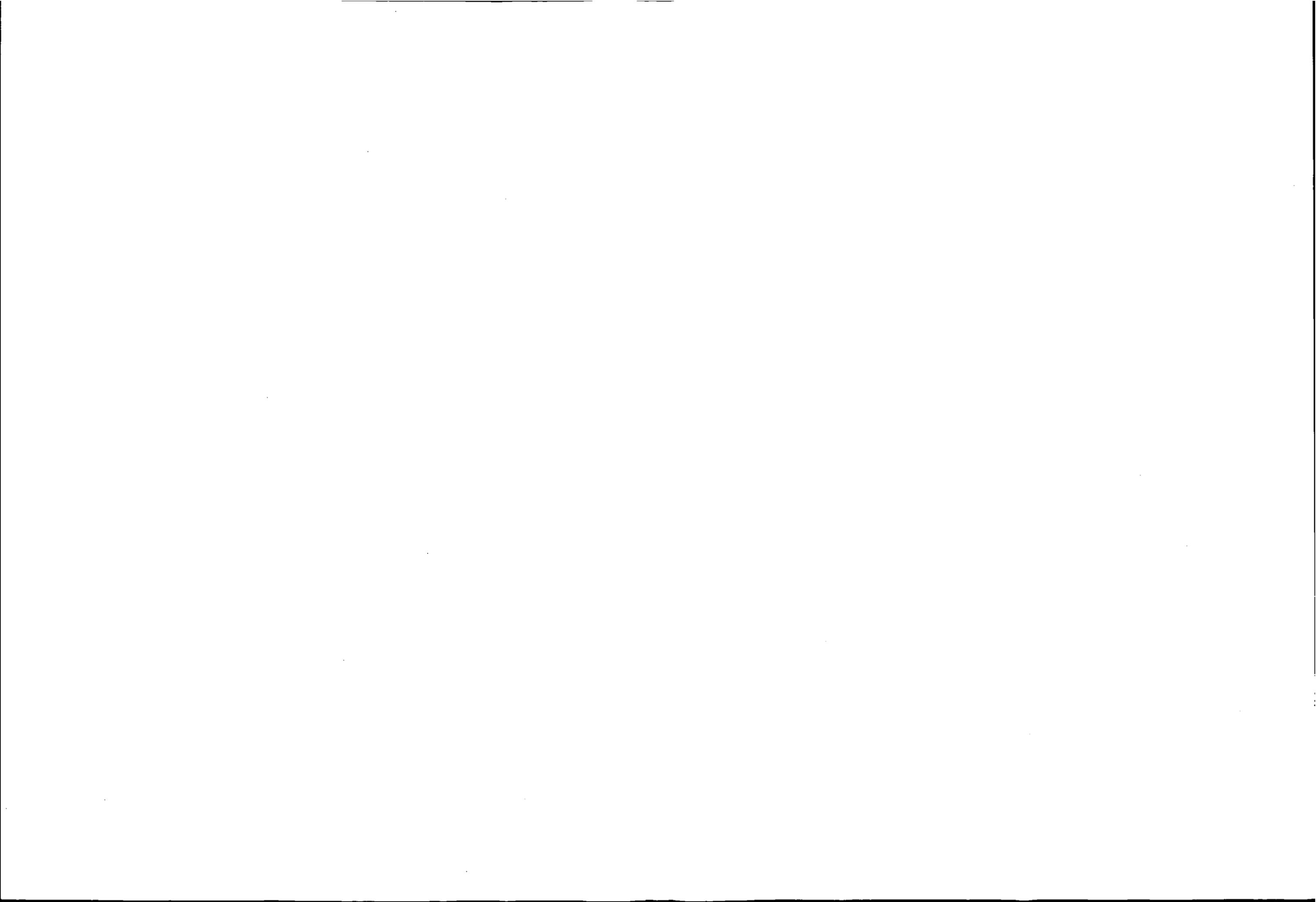
SYSTEM 機器構成図



- * 5 H-F8634-40 × 2
高速メモリ(128KB)
H-F8634-4
高速メモリ(256KB)
H-F8637-31
コミュニケーションスキャナ
H-F8635-1
回線インタフェース機構
- * 6 H-8716-4
ラインセットH2
- * 7 H-8719-1
ラインセットJ1
- * 8 H-F4741-983
漢字文字パターン

- * 1 H-6519-80/81 (8インチ)
フロッピーディスク駆動装置
- * 2 H-F6273-C11
書式オーバーレイ機構
H-F6273-C21 × 2
増設文字発生機構
H-F6273-C41
印刷データ拡張機構
H-F6273-C42
増設印刷データ拡張機構
H-F6273-C955
漢字文字パターン
H-F6273-P12
用紙拡張機構
- * 3 H-F6481-500
データ圧縮制御機構
- * 4 H-F6485-50
データ圧縮機構
H-F6485-60
カートリッジ自動交換機構



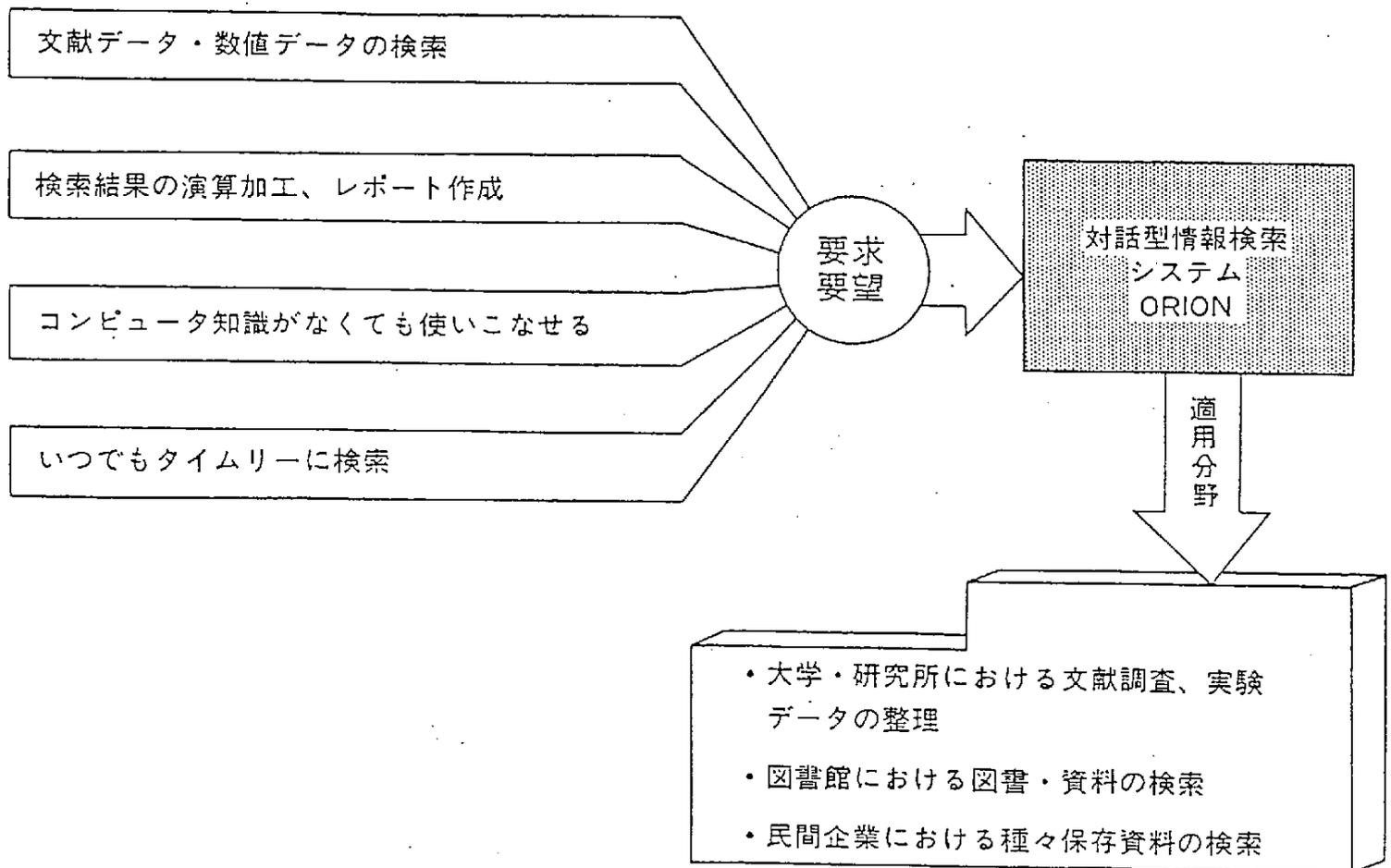


5.3 汎用検索ソフト「ORION」 (Online Retriever of Information)

ここでは、メーカー提供の検索汎用ソフトORIONを利用する。

1. ORIONの適用業務

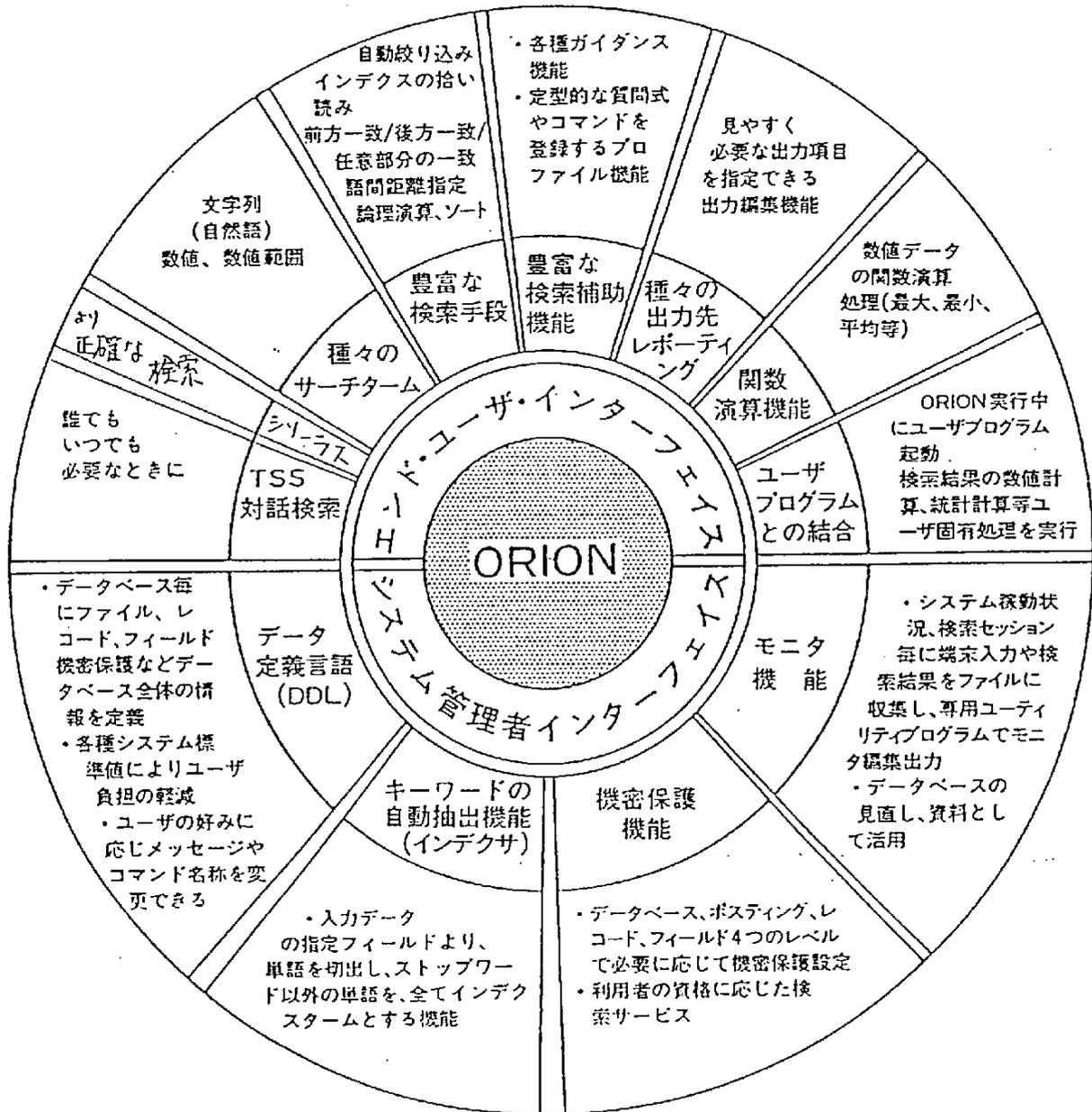
現在ORIONは種々の文献か資料の整理検索に使われている対話型情報検索ソフトである。



2. ORIONの特長

ORIONは以下に示すような幅広く柔軟な機能を持っている。

エンド・ユーザー・インターフェイスとシステム管理者インターフェイスの2つに分けられる。



4. データ作成及び更新

①新規作成（翻訳を含む）

データの収集が一段落すれば、DBの作成を同時進行で進める。

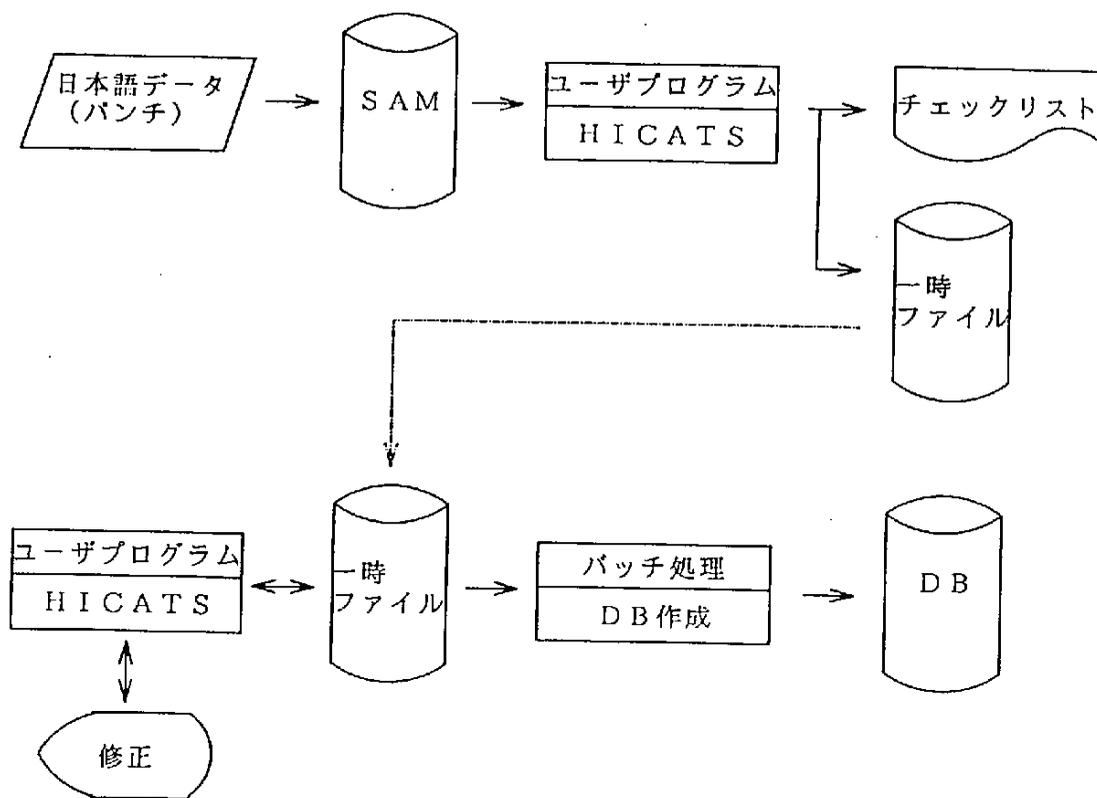
まず、集めたデータを分類し各項目ごとに分類する。

データエントリー用のツールを用い、データレコードレイアウトに従って日本語で入力する。それをSAMファイルに保存する。

日本語で入力されたSAMファイルを日英翻訳システムHICATSにかけ、データレコードレイアウト英語部を追加する。このときチェックリストを出力する。

チェックリストより英訳のおかしな部分是对話形式で修正する。

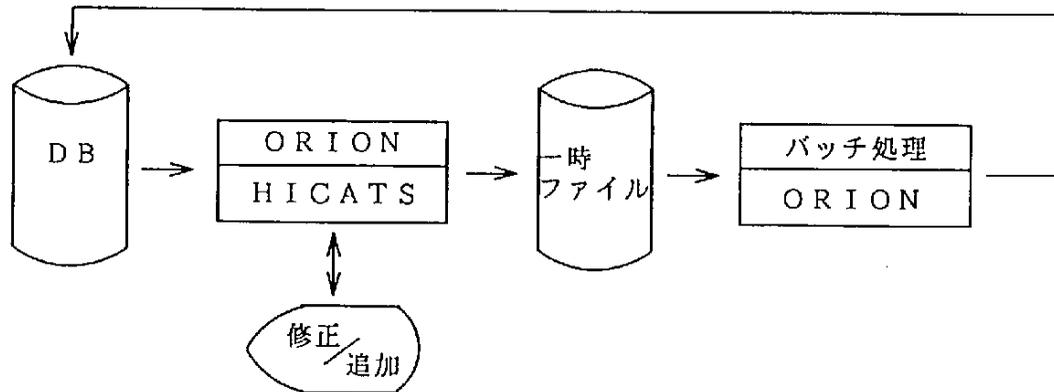
このようにして作られた一時ファイルをORIONを使ってデータ・ベース構造ファイルを作る。



②修正および追加

データには常に更新・追加が必要であるが、それについては、センターで一括処理とする。

ORIONとHICATSを用い追加/修正を行い、一時ファイルよりDB化する。



5.4 データベースの構造と検索手順

1. データベース構造

ORIONで作成されたデータベースの構造としては次のようになっている。
データベースはインデクスファイルとヘッドファイルの2つのファイルから構成されている。

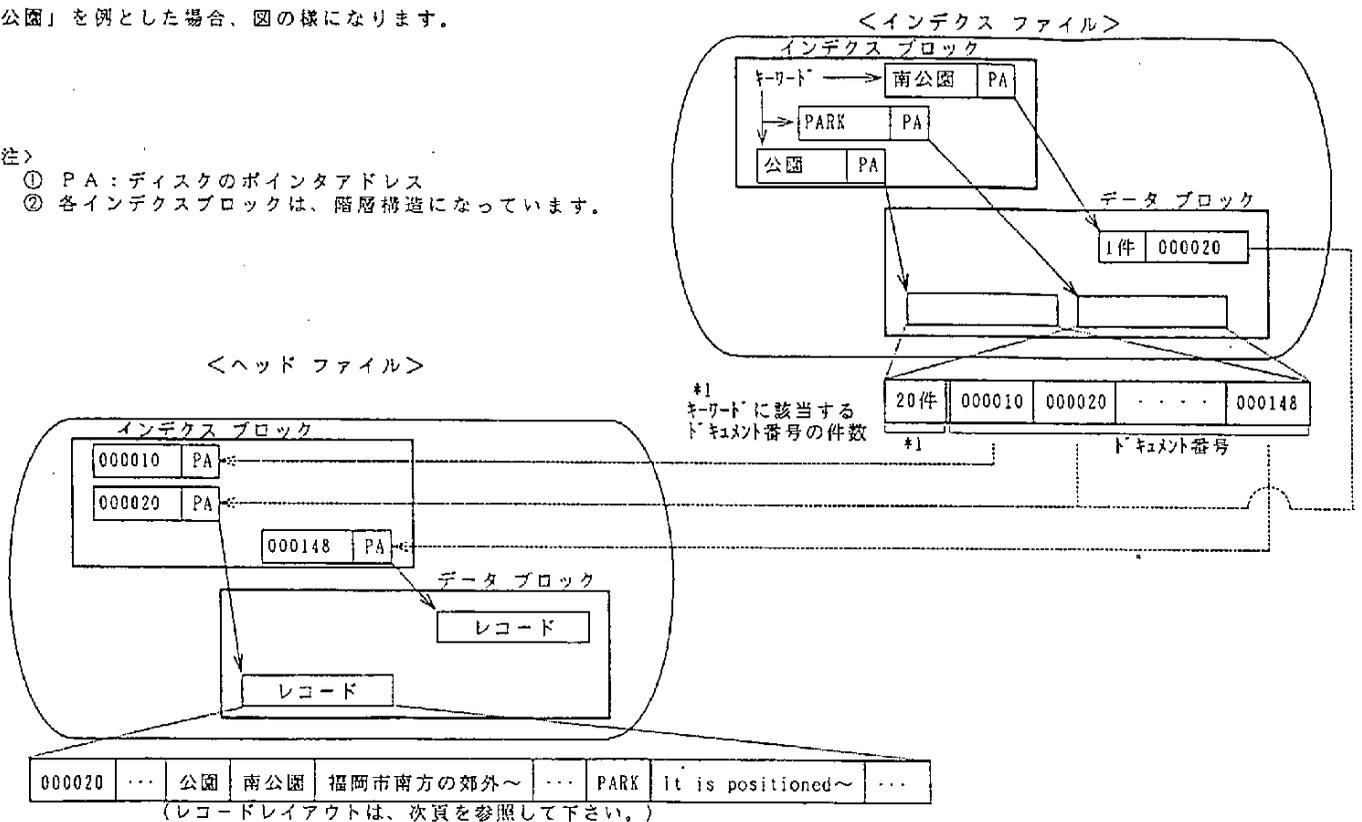
インデクスファイルの中にはキーワードのはいるインデクスブロックとそれに対応するドキュメント番号を格納するデータブロックとから構成されている。

ヘッドファイルの中にはドキュメント番号に対応する5000バイトのレコード内容が格納されている。

「公園」を例とした場合、図のようになります。

<注>

- ① PA: ディスクのポインタアドレス
- ② 各インデクスブロックは、階層構造になっています。



2. レコードレイアウト

データとしては、次のようなレイアウトを考えている。

共通部・日本語部・英語部の3つに分けられ、共通部・日本語部を入力する。

英語部については、Hicatsにより自動翻訳し付加するものとする。

キーワードについては、日本語文から手動で切り出し、それを英訳することにする。

項番	項 目		デ - タ 例
1	共 通 部	ドキュメント番号(登録番号)	000020
2		作成年月日	910111
3		作成元	西日本新聞社
4		情報元	郷土資料
5		更新日	910114
6		画像キ-情報	IKM00005
7	日 本 語 部	区分1 (大項目)	観光
8		区分2 (中項目)	名所
9		区分3 (小項目)	公園
10		資料名	南公園
11		説明	福岡市南方の郊外に位置する。平尾の丘陵期待を利用～
12		主題キーワード	福岡市, 平尾, 桜, 動物園
13	英 語 部	区分1 (大項目)	SIGHTSEEING
14		区分2 (中項目)	SIGHT SPOT
15		区分3 (小項目)	PARK
16		資料名	SOUTH PARK
17		説明	It is positioned in a suburb to the Fukuoka city south. It is ~
18		主題キーワード	FUKUOKA CITY, HIRAO, CHERRY TREE, ZOO

<注> 主題キーワード以外の項目も、キーワードとして設定可能です。

3. 検索事例

① 検索事例を示してみる。

画面は日本語で入力した項目を日英翻訳システムHICATSを使って英訳して作ったもので、実際の画面とは少し異なる。

データベースとしてキーワードからの直接検索も可能であるが、ここではメニューからの番号検索を紹介してみる。

日本語と英語の画面は切り替えて表示する。

ここで「10. 観光」を選んでみる。

		属性	登録	77ル	印刷	格納	回復	閉じる	
英頁	領字	置	Hicats短文仕様		英頁	領字	HICATS例文(e)		
始頁	前頁	次頁	終頁	頁呼	1頁		B5縦		
アジア太平洋交流データベース					Asia Pacific Ocean alternating current data base				
メニュー画面					Menu screen				
1. 各県紹介					1. Each prefecture introduction				
2. 住居					2. House				
3. 日常生活					3. Everyday life				
4. 行政諸手続き					4. Administrative various procedures				
5. 医療					5. Medical treatment				
6. 賃貸住宅					6. Lease house				
7. 教育					7. Education				
8. 経済					8. Economy				
9. マスメディア					9. The mass media				
10. 観光					10. Sightseeing				
11. 官公庁					11. Government and municipal office				
12. その他					12. And so on				
かな		ローマ字							

②次に前のメニューの中から10観光を選ぶとその下位の検索メニューが表示される。その中から(1. 名所・旧跡)を選ぶと次の検索メニューが表示され、そのメニューの中から(4. 南公園)を選んでみる。

		属性			登録	ファイル		印刷	格納	回復	閉じる				
文	頁	領	字	野	Ilicats短文仕様		文	頁	領	字	野	IICATS例文(e)		B5縦	
始	前	次	終	呼	1頁		始	前	次	終	呼	1頁			
例として、 (10. 観光)を選んだら、						For example, You will select (10.Sightseeing),then									
<ol style="list-style-type: none"> 1. 名所・旧跡 2. 行事・祭事 3. 伝統工芸 4. 食べ物 5. 定期観光コース 						<ol style="list-style-type: none"> 1. Sights and historic spot. 2. Thing of event and endrinement 3. Tradition industrial art 4. Food 5. Periodic sightseeing course 									

		属性			登録	ファイル		印刷	格納	回復	閉じる						
文	頁	領	字	野	Ilicats短文仕様		上	書	文	頁	領	字	野	IICATS例文(e)		B5縦	
始	前	次	終	呼	2頁		1	行	始	前	次	終	呼	2頁			
例として、 (1. 名所・旧跡)を選んだら、						For example, You will select (1. Sight and histric spot),then											
<ol style="list-style-type: none"> 1. 福岡城跡 2. 大濠公園 3. 西公園 4. 南公園 5. 東公園 6. 海の中道海浜公園 7. 香椎花園 8. 玄海国定公園 9. 磐固神社 10. 柿田神社 11. 住吉神社 12. 筥崎宮 						<ol style="list-style-type: none"> 1. Fukuoka castle trace 2. Oohori park 3. West park 4. South park 5. East park 6. Uminonakamiti sea shore park 7. Kashii flower garden 8. Genkai national installation park 9. Guard shinto shrine 10. Rushida shinto shrine 11. Sumiyoshi shinto shrine 12. Hakozaiki shrine 											

an ローマ字

③南公園についての説明が表示される。

この日本文は日英自動翻訳Hicatsシステムの効率の良い運営を考えた上で短文形式となっている。

これにより、自動翻訳の精度が著しく向上する。

			属性	登録	ファイル	印刷	格納	回復	閉じる
文頁	領字	野	Hicats短文仕様		B 5 縦				
始頁	前頁	次頁	終頁	頁呼	5頁				

例として、
 (4. 南公園) を選んだら、

南公園

福岡市南方の郊外に位置する。
 平尾の丘陵地帯を利用した自然公園である。
 桜の名所として多くの人に知られている。
 椎・松・楠などの木々も多い。
 園内には動物園や展望台も設けられている。
 ここからは福岡市街地や博多湾方面を見渡せる。
 園内ほぼ中央部には、福岡市動物園がある。
 そこは面積約9万5千平方メートルである。
 そこは自然の起伏を巧みに利用した自然動物園である。
 動物園の中の一部は、柵の無い放し飼いである。

			属性	複写	追加	削除	入力	行形式	サチ	差込	移動
かな	ローマ字	システム	取消	繰返	上書	Δ 4 縦	交換	補正			
文頁	領字	野	HICATS例文(e)	4頁	17行	1桁	1段				
始頁	前頁	次頁	終頁	頁呼							

For example,
 You will select (4. south park), then

South park

It is positioned in a suburb to the Fukuoka city south.
 It is a natural park using the hill zone of a Hirao.
 Many persons know it as sights of a cherry tree.
 There is many trees such as a chinquapin, a pine and a camphor tree, too.
 A zoo and a view base are provided in the garden.
 A Fukuoka street ground and a Hakata bay direction can be surveyed here.
 There is a Fukuoka city zoo in the central part of a park.
 That place is area about 95,000 m2.
 That place is a natural zoo using natural undulation skillfully.
 Part in the zoo is pasturage without fence.

			属性	複写	追加	削除	入力	行形式	サチ	差込	移動
an	ローマ字										

5.5 画像処理

画像DBの設計の前提

観光情報や建物・所在情報では、イラストマップや交通地図情報とのドッキングは日常的となっている。

そこで、画像処理としては2案を考えた。

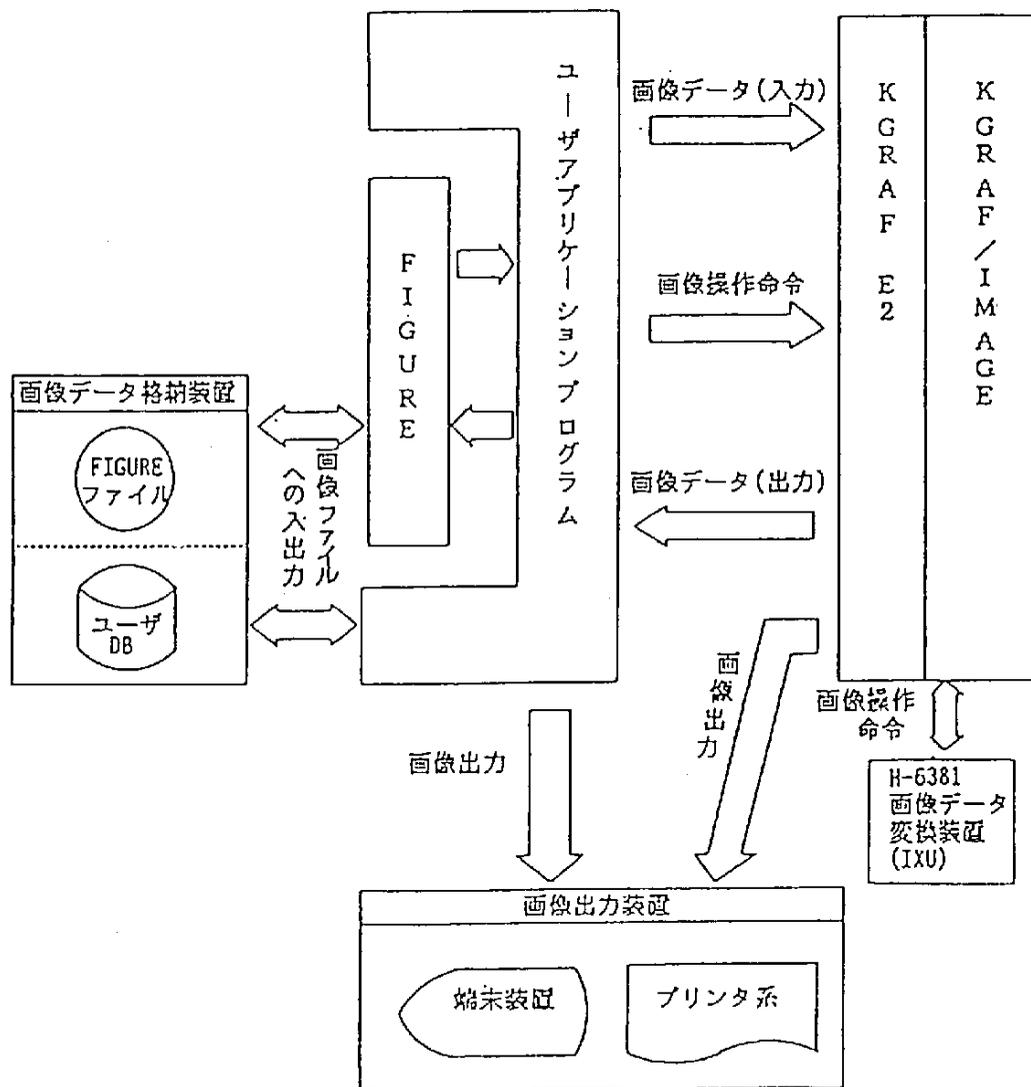
1. 画像OCRからDISKに記憶させて画像処理を行う。
画像DISK処理はドットに分解するため、図形情報が少し不鮮明になり、記憶容量を大量に消費するがメンテナンスが楽であり、できたらこの方式を使うべきだろう。
2. HITFILEを使用して光ディスクで画像処理を行う。
これは、地図や図形情報が鮮明で画像データの記憶容量も大きい。ただし、光ディスクが追記しかできないのでメンテナンスが大変である。

4. 画像データの処理

① 画像処理

KGRAF画像処理プログラム (KGRAF/IMAGE) は画像データ変換装置 (IXU) を利用した画像操作 (綿密度変換・回転等) を行いデータ変換後の画像を各装置に出力することを目的としたプログラムである。

画像処理とプログラムの位置付けは以下のとおり。



② 画像データの入力方法

画像OCRを使って一般DISKに入力する方法とHITFILE
を使って光DISKに入力する方法がある。次にOCR方式の例を示す。

(1) チャンネル接続画像OCRからの入力

(A) 画像OCRと入力シート

表 3.1-1 画像OCRの機能

項 目	機 能 概 要
入力シートの大きさ	A 8~B 4サイズ (長さ74~305mm, 幅52~364mm)
画像データの個数	0~20個
画像データの総面積	最大A4サイズ相当の大きさ
線 密 度	240ドット/インチ(9.4ドット/mm)
縮 小 方 式	線密度9.4ドット/mmで入力する方式のほかに、これを縦横1/2に単純に間引いてから入力する方法がある。

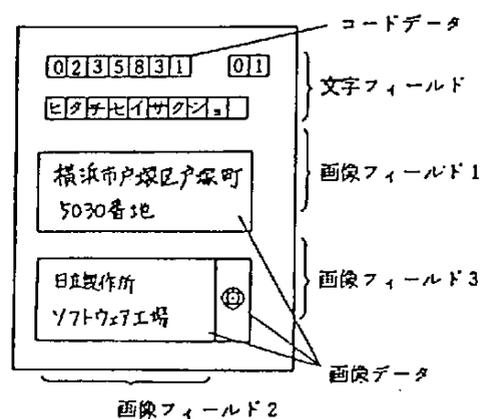


図 3.1-2 画像OCRの入力シート

(B) 画像データの入力

前処理

1.

入力シートの作成

2.

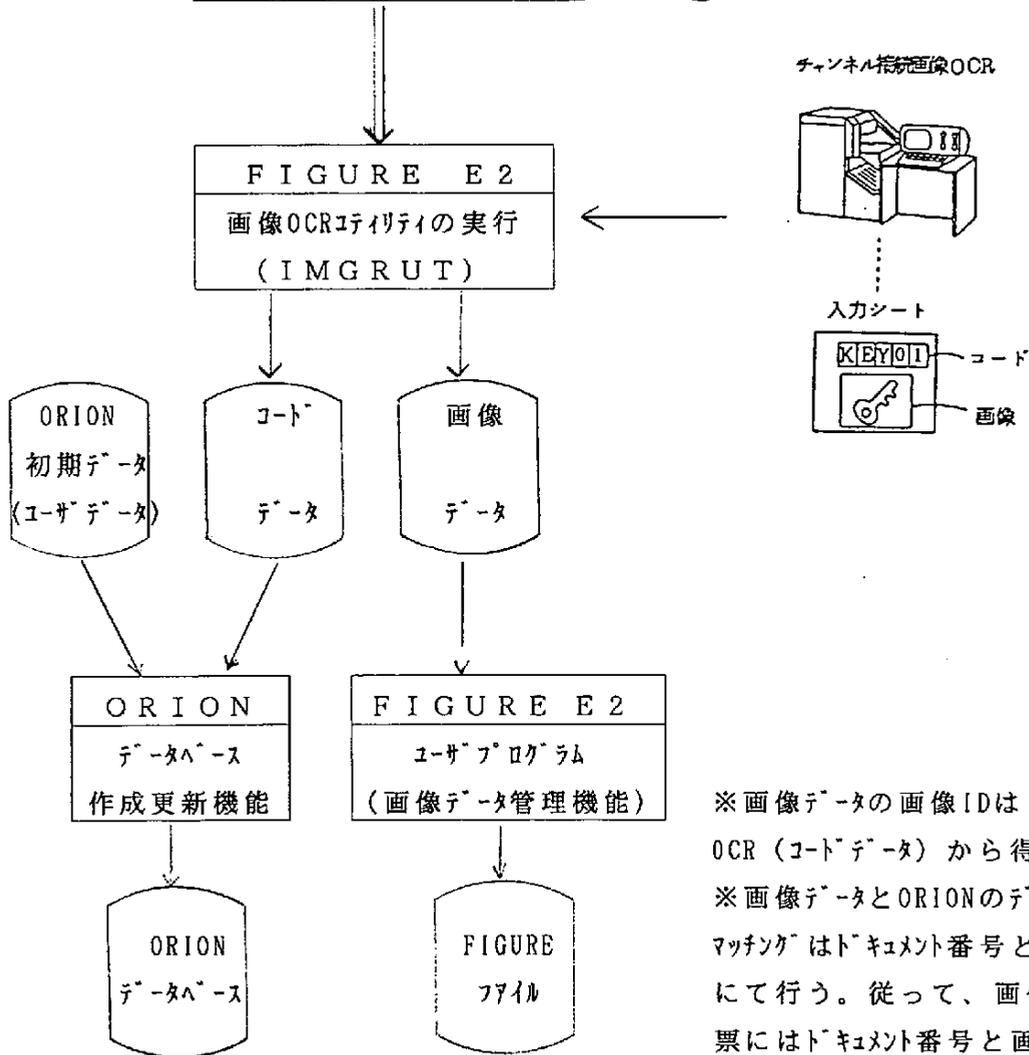
フォーマットプログラムの作成
 ・入力シートの形成定義
 ・読み取りモード

画像OCRのオフライン
 処理で行う

3.

FCP定義ブロックの作成
 ・イメージデータセットに
 FCP1xxxxメンバー名で
 登録

OCR/AMプログラムSETOCRを
 使ってコーディングしアセンブ
 する



※画像データの画像IDは
 OCR (コードデータ) から得る。
 ※画像データとORIONのデータの
 マッチングはトキメント番号と画像ID
 にて行う。従って、画像OCR伝
 票にはトキメント番号と画像IDを
 コードデータとして指定する。

5.6 翻訳支援システム HICATS

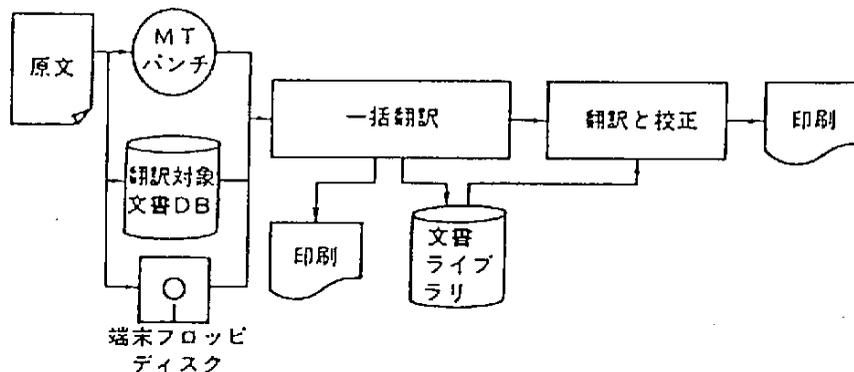
今回のアジア太平洋DBでは外国人を対象にしているため、日本語だけでなく英語をペアで表示するように考えている。

そのためには、正確な翻訳を効率よく行うための使い勝手のよい翻訳支援システム HICATS (Hitaci Computer Aided Translation System) を使うことを考えた。

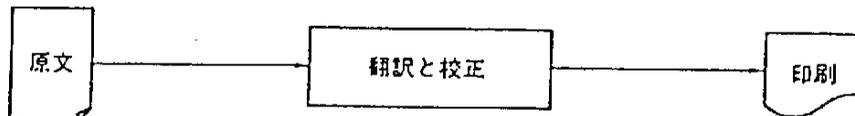
現状では日本語データを一括して翻訳する方式と対話で不完全な部分を補う併用方式が実用的である。

HICATSの特長は以下の通りである。

- (1) 大量文書の一括翻訳処理をホストマシンで行う



- (2) 少量文書の対話翻訳処理をワークステーションで行う



- (3) メニュー方式による対話処理

- (4) 翻訳と校正の同一画面処理

文書語別名 (SAMLE) ページ (1)	段落 (1) 文 (1)
(1) 計算機科学と言語学の発展は、言語の仕組みを解明することによって、翻訳システムの実現への道を拓きました。	(1) Development of computer science and linguistics opened a way to the realization of a translation system by resolving mechanism of language.
(2) 貿易摩擦を解消するため、機械語訳システムの早期実用化が望まれています。	(2) It is expected to put a machine translation system to practical use early for dissolving trade friction.
(3) 機械語訳システムを導入することによって、語訳コストが著しく低下するでしょう。	(3) Introduction of a machine translation system will reduce translation cost remarkably.
解番号[] 訳訳要[] 文種[]	

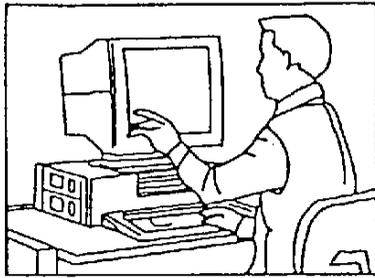
[E]

PF: 1=ヘルプ 2=文校正 3=繰り返す 4=文分割 5=文結合
6=移動 7=多義 8=別解 9=上 10=下 11=終了 12=処理選択

- (5) 用語辞書の作成支援

現在の翻訳能力には限界があるため後で人間の目によるチェックが必要である。

(1) 入力



翻訳文入力 (バッチ、対話)

入力文編集 (プリエディット)

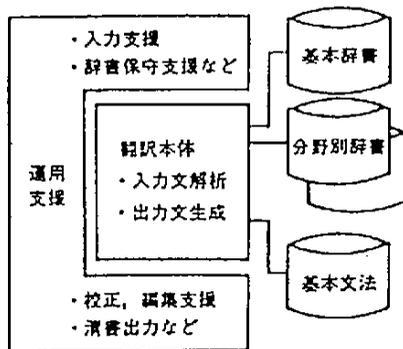
(原文) 日立、日英翻訳システムを開発。

Hitachi and Japanese-English translation system are developed.

(編集後) 日立は日英翻訳システムを開発。

Hitachi develops Japanese-English translation system.

(2) 翻訳



(3) 編集、出力



ポストエディット

翻訳出力の校正、編集 (ポストエディット)

- 未知語処理
- 部分訳
- 誤りの修正
- 不適切な訳語の修正
訳語の選択機能
- 不適切な文型の修正
(受け身文→能動文)
別解の選択機能

6. 国際交流調査

6. 1 調査企画

1. 調査の目的

福岡市に住居を構える方に対して、「国際化」についてその意識を探るために、以下の点を明らかにする。

- A. 海外旅行経験及びその目的
- B. 外国との交流について

2. 調査設計

- ・調査対象者 : 福岡市7区に住む20才以上の男女
- ・調査地域 : 福岡市全域
- ・調査期間 : 1/15(火)~1/21(月)
- ・サンプル数 : 520サンプル
東区:128、博多区:80、中央区:80、南区:128、城南区:64、
早良区:96、西区:64
- ・標本抽出 : 選挙人名簿より無作為抽出
- ・調査方法 : 調査票を郵送し、回収は調査員が行う郵送留め置き法

3. 回収状況

有効回収:462票 回収率:88.8%

福岡市7区の分布

区分	選挙人名簿登録人員	調査対象者	有効サンプル
東区	170,326人(19.4)	128人(24.6)	99人(21.4)
博多区	121,897人(13.9)	80人(15.4)	54人(11.7)
中央区	102,987人(11.7)	80人(15.4)	59人(12.8)
南区	166,615人(19.0)	128人(24.6)	88人(19.0)
城南区	84,988人(9.7)	64人(12.3)	45人(9.7)
早良区	131,957人(15.0)	96人(18.5)	72人(15.6)
西区	99,008人(11.3)	64人(12.3)	45人(9.7)
計	877,778人(100.0)	520人(100.0)	462人(100.0)

注:()内は構成比(%)

4. 調査機関

西日本新聞社 情報開発センター

6. 2 調査要約

1. 海外旅行経験の状況

(1) 旅行経験の有無

- ・海外旅行経験者は462名中36.6%であり、残り63.2%が「行ったことがない」と回答している。
- ・男性の海外旅行経験者は、190名中47.9%であり、女性では272名中28.7%と男性の方が19.2ポイント上回っている。
- ・若い年代程海外旅行経験者が多く、特に20歳代では49.0%が海外へ行ったことがあると回答している。次に多いのが、30歳代の40.4%である。
- ・職業別では、勤労者の海外旅行経験者が多く、「公務員」52.6%、「自営業」51.9%、「会社員」46.6%の順である。
- ・福岡市の区別で見ると、「中央区」に住んでいる人の中での海外旅行経験者が49.2%を占め、他の区より突出している。

(2) 旅行の用件

- ・「観光」目的での海外旅行が圧倒的に多く、全体の85.2%を占める。また、「視察」は10.1%、「国際交流等の海外出張」は7.1%である。
- ・性別で見ても、「観光」がトップでほとんどを占める。しかしながら、男性では「視察」で16.5%、「国際交流等の海外出張」で13.2%の人が海外へ行っている。

(3) 旅行の行先

- ・全体では、「北アメリカ、ハワイ」がトップに挙げられており49.1%を占める。次いで、「中国、韓国、台湾、香港」46.7%、「東南アジア」21.3%、「ヨーロッパ」20.1%の順である。
- ・男性では、「中国、韓国、台湾、香港」51.6%がトップに挙げられているが、女性では、「北アメリカ、ハワイ」53.8%が最も多い。
- ・20歳代及び30歳代の若い年齢層は、「北アメリカ、ハワイ」へ行っている人が多く、40歳代以降の高年齢層は、「中国、韓国、台湾、香港」への旅行者が多い。

2. 外国人の友人の有無

- ・「外国人の友人がいる」と回答した人は、462名中9.5%を占め、1割に満たない。
- ・男性で「外国人の友人がいる」人の割合は12.6%と、女性より5.2ポイント多い。
- ・中央区に住んでいる人の中で、28.8%が「外国人の友人がいる」と回答しており、他の区に比べ突出している。

3. 外国人に道を聞かれた時の対応

- ・462名中63.3%の人が「カタコトの英語で教える」、4.8%の人が「英語で教える」と回答している。
- ・男性で、カタコトも含めて「英語で対応する」回答えた人は74.2%、女性では64.7%であり、男性が1割程多い。
- ・年代が高くなるにつれて、「英語で対応する」と回答した人の割合は減少し、60歳以上になると「知らないふりをして通りすぎる」人が2割を超えている。

4. 外国との交流について

(1) 交流先として最も関心のある国

- ・最大関心国でトップに挙げられているのが「アメリカ」で、462名中40.7%を占める。次いで、「中国」16.9%、「韓国」7.1%、「オーストラリア」6.9%、「ソ連」6.7%の順である。
- ・男女とも、「アメリカ」、「中国」を上位に挙げている人が多いが、男性では「ソ連」7.9%が3位に挙げられているのに対して、女性では「オーストラリア」9.6%が挙げられている。
- ・若い年代、特に20歳代は「アメリカ」だけでなく、最近観光地として人気のある「オーストラリア」や、統一で注目を浴びた「ドイツ」を挙げている人が、他の年齢層に比べて多い。

(2) 交流先として選んだ理由

- ・ 全体462名の内、「産業貿易の面で深く関わっている」と回答した人が35.7%を占め、最も多い。次いで、「歴史的に深い関わりを持っている」21.0%、「文化、伝統に魅力がある」17.1%の順である。
- ・ 性別で見ても、全体とほぼ同様である。

5. 国際化の進め方について

- ・ 最も多いのが「留学生の交換、青少年の海外派遣等」であり、462名中57.4%を占める。次いで、「国際色豊かな大会や行事の誘致開催」49.8%、「外国人が魅力を感じる観光拠点や街づくり」34.8%の順である。
また、「外国人のための情報サービスセンターづくり」は22.1%の人が挙げている。
- ・ 性別で見ても、上位に挙げられている項目は全体と変わらないが、「外国人のための情報サービスセンターづくり」は、男性では下位に挙げられているのに対し、女性では比較的上位に挙げられている。

7. 採算性の考え方

アジアDB提供サービスの必要性と有効性については、研究会や外国人グループインタビューなどで共通の認識を得た。

しかし、現実的にはこうした情報サービスシステムの構築と運営には経費が発生していく。

そうした経費をどこで負担し、アジアDB提供サービスをどう実現するか検討してみたい。

7.1 初期投資の軽減

- ① 現在、各県の行政レベルでは国際交流の必要性から、ハード作りの構想が相次いで発表されている。

例えば、福岡県では県庁跡地に平成6～7年完成予定で『国際会館』の建設、福岡市では、シーサイドももち(ツインドーム予定地)に平成12年完成予定で『アジア太平洋センター』の建設、北九州市では、小倉駅北口に平成4年完成予定で『インポートマート九州』の建設などが計画されている。

こうしたハード構想は福岡県だけでなく各県に共通の目玉事業として推進されており、ハードをさらに生かすソフトの中核機能として「アジアDB情報サービスセンター」を加えるべきであろう。

こうした情報サービスセンターは行政体の省力化とサービス向上に役立ち、国際交流事業を真の意味で支える道具になりえると思われる。

そうすれば、初期投資をハードと一緒に包括して考えることも可能であろう。

- ② 次に、初期投資を軽減する意味で公共性の強い既存の情報センターに委託することを考える。

そうすれば、ハード構成の増設・検索ソフト・翻訳ソフト・画像ソフトなどの増強で初期負担は軽減することができる。

また、メンテナンスの繁雑性を考えると専門の情報センターにまかせた方がより効率的で質の高い情報サービスが期待できる。

- ③ 初期費用は、初期の設備費とデータ収集・DB作成費に分けられるが、全く新規の情報センターの場合は既存の情報センターのサブ・システムとして構築する場合に較べて2.5倍以上の経費が発生する。

7.2 情報センターの位置付け

国際交流が、行政サイド主導で組織だって始められてまだ間がない。民間でも単発の文化交流などは行われているが、恒常的に情報センターとしては外国人対象に無料の情報提供サービスすることは非常に公共的色彩が強いと考えられる。

そうした理由からも情報センター構想は行政サイドと一体となって進めるべきであろう。

理想的には九州各県・各市が強調して九州の国際交流情報センターとして位置付け、利用すべきであるが、そのためには、九州知事会や市町村の首長会の総意が必要だろうし、各地方公共団体個別の路線もあり長い調整時間が必要となる。

そこで、日頃から国際交流組織間の連絡を密接に持っている福岡県・福岡市・北九州市3団体の協議の中で具体的に検討して頂くことから始めたい。そして次の2段階で福岡県内、3段階で九州各県へと進めたい。

7.3 運営方法

- ① アジアDB情報センターの運営費については、各行政体が端末機を設置して利用料として負担する形が考えられる。

各行政体の関係窓口は、端末機から即座に必要な情報を取り出し、効率的な情報サービス提供によって国際交流に寄与する。

また、端末機を必要とする所には有料で配置し利用料を取ることを原則とするが、領事館などには無料設置する。

ある行政体の管理責任者は『アジアDBの内容さえ良くて、利用率が上がれば年間の運営費については協力できると思うし、各県や政令都市あるいは有力都市でも「端末設置費+情報センター利用費」として年間予算に組み込むことが可能だろう』と発言している。

- ② 運営費用は運営要員費、コンピュータ使用料（既存の情報センター利用の場合のみ）データ・メンテナンス費などに分かれるが、これについても既存の情報センター利用の方がコストとしては安くなる。

8. 今後の課題

8. 1 情報内容の質の向上

情報内容の質をあげるため、他のDBとのゲートウェイをできる限り考える。公共機関の情報は知的財産権、著作権、プライバシーをクリアした上で積極的に利用する。

次の段階で公共機関の情報や民間情報（日本交通公社の観光情報DBなど）でアジア太平洋DBに使える情報がどの程度あるか具体的に探してみたい。

8. 2 システム技術のテスト

今回、アジア太平洋DBとしての概要設計の見通しができ、現在使用されているソフトとハードについての内容把握に努めた。

次の段階では、より具体的なテスト環境下で地図情報と観光情報を一緒に出力したり、端末からの英文による検索手順の実験を志向したい。

8. 3 アジアDBの利用

公共的なアジアDB情報提供サービスは公共機関、行政サイドによる離陸時負担をお願いし、その間に有効な情報収集提供ネットワークを作り上げ、民間にも需要を喚起し、情報に応じた代価を利用料として徴収する。

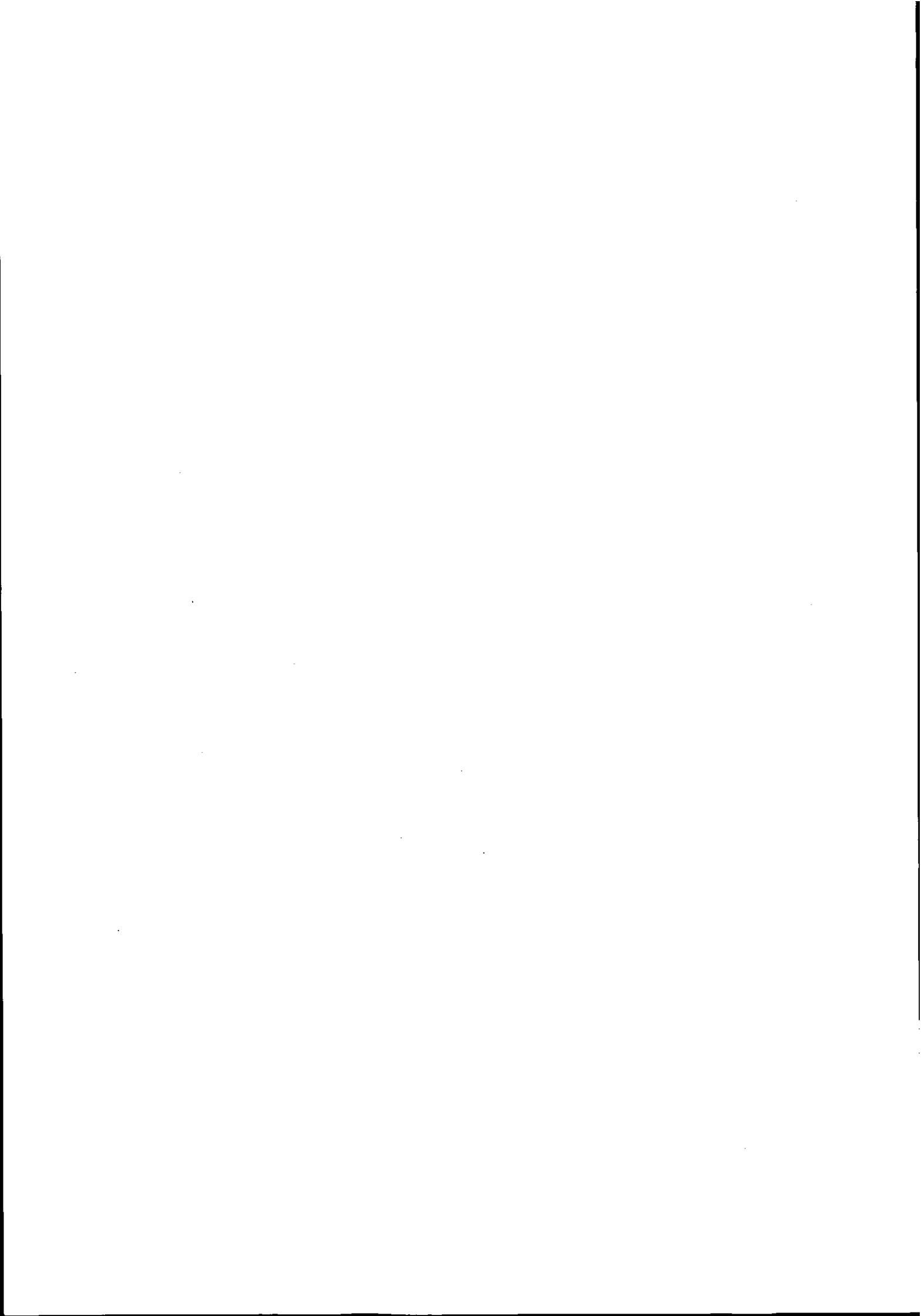
次の段階では九州全域の地方公共団体中でアジアDBを必要としている団体がいくつ位あるか、また、どのくらいの利用料が適当なのかアジアDBを必要とする民間企業の数と利用料などを調査したい。

8. 4 今後の国際交流

今後、九州や日本には大韓民国、中華人民共和国、台湾、香港、シンガポールなどN I E S 諸国からは一般観光旅行者や留学生、技術研修生が急増し、また、インド、パキスタン、バングラディッシュ、インドネシアなど東アジアの諸国やメキシコ、ブラジルなど中南米諸国から就労目的の入国者が増えてくるであろう。

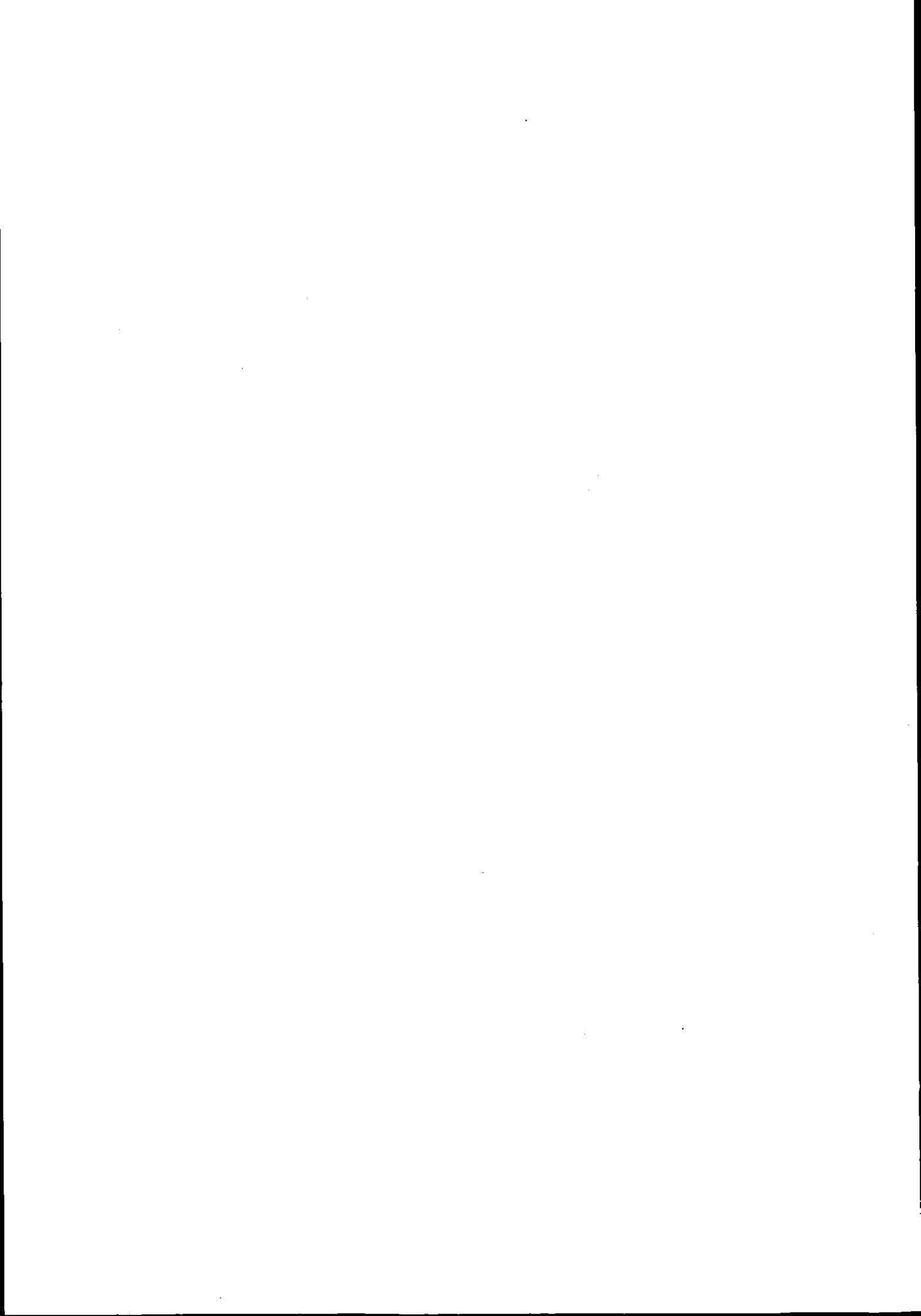
そうした場合、言語の問題をはじめいろいろな問題点がでてくることが予想される。また、当然市民がアジアDB情報サービスを知って、使う習慣を持ち、そうしたDB使用を通じて外国人と生きた国際交流を体験することが重要となる。

次の段階でそうした市民の中の国際交流意識もについて詳細に探ってみたい。



9. 資料編

- 9. 1 第1回アジア太平洋交流データベース研究会議事録
- 9. 2 第2回アジア太平洋交流データベース研究会議事録
- 9. 3 第3回アジア太平洋交流データベース研究会議事録
- 9. 4 第4回アジア太平洋交流データベース研究会議事録
- 9. 5 第5回アジア太平洋交流データベース研究会議事録
- 9. 6 外国人留学生グループインタビュー
- 9. 7 外国婦人グループインタビュー
- 9. 8 国際交流調査詳細報告



9.1 第 1 回

アジア太平洋交流データベース研究会

議 事 録

○ 日時 10月19日 10:00 ~ 13:00

○ 場所 福岡国際ホール「九重の間」

○ 討議内容

1. 野村情報開発センター長代行あいさつ

①アジア太平洋交流データベース研究のいきさつ

②研究会メンバーの紹介

③事務局メンバーの紹介

2. 伊藤寛道先生あいさつ

①自己紹介

②アジア太平洋交流データベースへの取り組みについて

3. 研究会メンバーの自己紹介

①担当業務での国際化との係わりについて

②国際化に対する考え方

4. ディスカッション

①外国人が困っていることは何か

②外国人が欲しがっている情報は何か

③情報提供サービスはどのようにしたらよいか

○ 出席者

伊藤 寛道 九州造形短期大学 教授
藤本 敏樹 九州通商産業局商工部中小企業第一課長
松尾 泰次 福岡入国管理局総務課渉外調整官
中原 幸一郎 (財)福岡県国際交流センター交流課長
三浦 政輝 (財)福岡国際交流協会総務課長
坂梨 正雄 九州山口経済連合会企画課長
三宅 誠一 日本交通公社海外旅行九州支店海外旅行担当課長
武村 丞治 福岡商工会議所国際部長

野村 武 西日本新聞社 情報開発センター長代行
伊藤 朗人 データベース部長
高浜 正興 調査部次長
波多江 修 システム開発部次長
伊東 純一 システム開発部
小西 晋 ”

伊藤(寛) 九州造形短期大学

私はこの道の専門家ではないが、戦後40年にわたって外国との関わりを続けてきたこともあって、今回司会の大役を仰せつかったと思っている。

委員の皆さんはそれぞれいろんな形で国際的な係わりをもっていらっしゃる。お仕事上の体験を通じてのいろいろなご意見をお聞きしたい。

結論的にはアジア太平洋交流データベースということで、九州、特に福岡に来ている外国の方々が福岡に早く馴染み、目的を達成してもらうために役立つ情報を集めることと思うが、まず、アジア太平洋交流データベース研究会の主旨、あるいはデータベース自体のアイデアについて野村情報開発センター長代行から説明をいただく。

野村 西日本新聞社情報開発センター

西日本新聞社では情報関連の部門を集めて情報開発センターを発足させた。そのセンター長代行を務めている。

この研究会のいきさつについてお話したい。

東京にデータベースの振興を図る(財)データベース振興センターがあって、国内のいろいろなデータベースに関する情報の交流を行い、資金面の援助をし、発展を促進している。

このセンターから、2年前に九州地区で新しいデータベースを開発しないかという呼びかけがあり、内部で検討してみたが格好のテーマが見つからず悩んでいた。最近になって、アジア太平洋博覧会が開かれ、アジア太平洋地域との交流が盛んになり、それらに伴い情報面、資料面などでの交流に問題が出ていろいろな要望も強まってきた。これをテーマに研究をしようと絞ってきた。そしてこの研究を、(財)データベース振興センターの資金援助を受けて進めようと考えた。

センターが進めるデータベースの事業には4つの分類がある。

- ①構築調査
- ②プロトタイプ作成
- ③データベースの構築
- ④データベースに関する技術開発

各先生には何を、どうやるのか漠然としたままご出席いただいたが、今回の研究会は①の構築調査をやっていただく。

西日本新聞社は種々のデータベースをもっているが、その一つに新聞記事データベースがある。昨年の秋から記事の蓄積を開始し、1年で6万件強のデータベースができあがっている。最初から自前のデータベースという訳にはいかず、現在は日経ニューステレコンのシステムおよび共同通信の共同連動システムに参加している。

国の調査研究にはいろいろな制約があり、このテーマは平成2年度の事業ということで受けている。正味6~7カ月の期間しかないので研究会も年内という制約を受けており、早いテンポで進めたい。また、非公式にも事務局から先生方を訪問し、作業を進めさせていただくことも出てこよう。よろしくお願ひしたい。

(研究会委員の紹介)

プリントに記載のとおり地元の各界からテーマ開発に相応しいと思われる方々を選ばせていただいた。あとで自己紹介をしていただく。今後は外国人にも加わってもらう。

(事務局メンバーの紹介)

社内で、コンピューター、市場調査、データベース、社内の情報化立案などを担当する情報開発センターのスタッフが6名、事務局メンバーとして参加する。

データベース振興センターへの報告の議事録を作成する為、録音を取りたいのでご理解を賜りたい。

伊藤(寛) 私は大正10年生まれの69才、ロータリークラブ会員。

私は戦中ある商社に入社していたが貿易という時代ではなく、戦後すぐ福岡の軍制部(現アメリカンセンター)に入り、以来アメリカとの係わりができた。昭和60年にアメリカンセンターを退き、(財)集団力学研究所が国際研究センターを作るということでその責任者となり国際的な経営心理学を担当した。その後、中村学園の依頼で3年前より九州造形短期大学で教鞭を取っており、自称、国際社会学と呼んでいる。

日本の国際的な対応について悲観的な印象を持ち続けている。外国人への対応が鈍く内向きで相手のことを考えない、かといって自分の立場も相手にはっきり言えない。自己主張もすることはあるがけんかごしになる。

これからは、けんかをせずに自己主張をする習慣をつけないと、うまくやっていけないのではないかと。異文化間のコミュニケーションが一番大事である。

今盛んに国際化が叫ばれ、特に福岡はアジアの拠点都市であるといわれている。国際化は対外的な国際化と内なる国際化に大別される。対外的国際化とは、日本は外国から見れば経済大国であり、それにふさわしい国際的な役割、責任を果たすことが期待されているが、日本人はまだ10~20年前の先進工業国に追いつけ、追い越せという気持ちが強く、最近まで世界に対しリーダーシップを発揮するという気持ちはなかった。こういうことから日本人は何を考えているのかわからない、自分の考え方を言ってくれないとアメリカでさえも不信感を持つようになる。

貿易摩擦にしても、日本は自由貿易主義の恩恵を受けてここまで経済大国になったと外国は認識しているので、日本はもっと市場を開放していくべきである。“米”についてもアメリカは貿易赤字を解消しようとしている訳ではなく、もっと心理的、政治的な含みをもっている。ウルグアイラウンドに対してのアメリカの立場を強くする、あるいは非常に閉鎖的だと思っている日本の象徴としての市場開放を目的としているのである。

こういう意味で内なる国際化、心の国際化が日本人は非常に遅れていると思われる。外国に対して心の中に壁を作っている。

現在、福岡県の各大学には700~800人近くの留学生がおり、その80%はアジア、アフリカの人々である。3、4年前の九経調の留学生へのアンケートの中で福岡の印象を問う設問があり、回答した留学生の80%が福岡を嫌いだと答えている。なぜかという項目では、福岡の人々は心を開かず何を考えているかわからない。自分達に対し軽蔑の気持ちを持っているのではと思っている。福岡の国際化について、これは大きな問題である。

日本語弁論大会でも同じようなことで、5年経っても意識はあまり変わっていないのではないか。

地方自治体、経済団体、マスコミが国際化を図ろうと最大の努力をしているにもかかわらずそういう結果が出ている。市民に命令を下すことはできないにしても何らかの形で啓蒙運動をしていくべきではないだろうか。

アジアの人達は、日本人は英語を話す外国人には優しく、アジア人には冷たいという。また欧米人に言わせると、日本人の妻を持ち日本人と同じように生活しているにもかかわらず妻の家族でさえもが、依然として外国人扱いをするのが寂しい。

内なる国際化にもハード面とソフト面がある。

国際空港を初め、ウォーターフロントの開発、観光資源の開発、国際会議場・国際会館の建設等ハード面では充実し、進んでいるので心配はいらない。ソフト面では遅れている。福岡の人に対して悪い感情をもった留学生が国へ帰り、役所・企業等のリーダーとなるということは大変なことである。心の壁を取りはらうことにより、外国人の福岡での生活を違和感の少ないものにすることが福岡の国際化に大きなプラスになるであろう。

それから福岡・九州の情報が入ってこないということも一つの大きな問題である。

福岡・九州の情報を一カ所に集める。文化的特徴、祭り、伝説、コンサート、物産等、九州各県の特徴がわかる資料を揃え、文化的グループ（例えば、書道、華道、墨絵等）の事務局を設置し、ここへ来れば適当な場所を紹介してくれたり、そこで実際に経験できる。国際的会合、地元グループの会合などが気軽に使用できる会議場を備え、50名位の人が安く宿泊できる場所。さまざまな人種の人々や、地元の人々が自由に入出りできる場所ができたらうまく交流できるのではないかと思っている。

具体的な資料をもって福岡・九州を知ってもらうことが必要である。

その資料、データがないために福岡や日本に間違っただけの印象を持たれることが多いので、我々が積極的に外国人に対して語りかけるデータベースは是非必要ではないだろうか。

これから各会員に自己紹介をしていただくが、それぞれ仕事上でどういう国際観をお持ちか、あるいは体験を通じて日本人として考える必要のある点はなにかを聞かせていただきたい。

藤 本 九州通商産業局商工部中小企業第一課

S47年末、各通産局に端末機導入の際、OJTで2年間研修を受けて以来、各部署で機械化にたずさわっている。数年前、東京データベースセンターより、データベースの構築の募集があったが、地域はなかなか手を上げなかった。全国で100テーマ助成したうち、東京以外は20あまりであった。地域振興の為の情報化がこれから必要となってくるので、いろいろなニーズを捉えて利用するようにしてくれということでPRをしたりしている。

九州は今回のアジア太平洋交流データベースを含め6件ほど指定されている。

私の肩書は中小企業第一課長で国際化に関してはあまり知識はないが、今回は情報化という面で参加させていただいている。

国際化というテーマには敬意を表している。というのは日本が外国へ出ることを国際化という場合が多いが、今回は外国人の為のデータベースということに主眼が置かれている

のでユニークな取り組みだ。

外国人が一番困っていることは、風俗・習慣の違いだと思う。オランダ村の会長が韓国へ行った際日本の中では九州は全く知られていない、あえて知られているとすれば、別府だということだった。

外国人は最初日本人を親切だと感じるが、その後は心を開かないと思っている。その先の心の交流が大切なのではないか。

UCR都市科学研究所が2年前に行った福岡市の国際化についての調査に参加した経験があるが、その調査は国内～東南アジア数カ国におよんでおり、今回の資料として役立つと思う。

伊藤(寛) 観光客として来る時、日本はとても良い所だが、住み着いて長く居れば居るほど壁を感じると言われている。

松 尾 福岡入国管理局総務課

入国管理局は昨年の中国人の偽装難民事件で名を知られたが、実際の業務でウェイトを占めているのは、外国から企業あるいは学校が人を呼びたい時の処理、また既に在留中の外国人のビザの延長、留学生が卒業後、日本の企業に就職する時の手続きなどである。

私自身はS62年より今年3月まで在留外国人のビザの手続きを担当していた。窓口でいた関係で外国人から色々な相談を受けたり、あるいは関係者から照会を受けたりした。

入管の組織自体が戦後できた役所である為、予算的にも弱く、ことにインフォメーションにまで手が回っていない。以前は広報担当がおらず、4年程前から、東京、大阪、名古屋そしてこの福岡と渉外調整官というポストが作られた。相談者は色々な相談をもちかけるが、たらいまわしのあげくやっとたどり着くといった状況である。どこの役所の窓口が担当しているのか知られていない。

今年3月から東京に外国人の相互インフォメーションセンターを設けた。運用を外部に委託し専従職員を7名ほど(在日外国人を含む)置いている。大阪も来年度の予算要求をしたと聞いており、全国的に広まっていくと思うが、福岡はまだ先のような感触だ。

相談の電話の中にはレインボープラザのような所があれば助かると思われる内容もあった。この企画を聞いて個人的にも興味を持ったので、行政の部分で手伝いできることがあれば協力したいと思っている。

伊藤(寛) アメリカンセンターにいる時、入国管理局を外国人の方に紹介したりしてお世話になりました。

中 原 (財)福岡県国際交流センター交流課

(財)福岡県国際交流センターは昨年7月、県の全面出資により設立された。福岡市中心で作られたのが(財)福岡国際交流協会、いずれも自治省が地域の国際化の為に民間の中心的な役割を果たすようにと認定している団体である。

大きな仕事として情報の提供がある。私は当初人事を担当し、国際化にはあまり詳しく

なく、いま勉強中である。英語、中国語、ハングル語の相談を受け付ける用意があるが、知られていないせいか、あまり利用がない。昨日は、佐賀に住む外国人からもう少し日本にいたいという電話があり、東京情報センターを紹介した。

現在は博多駅近くに所在しているが、県庁跡地に建設予定の国際会館（仮称）に入ることになっており、情報センターのようなものになると思われ、県民に対する情報提供と外国人に対する情報提供の役割ということで、情報専門委員会を内部に置き検討中である。

しかしながら、それほど資金をかけてもニーズがあるかどうか不安である。県民の外国に対する興味(留学等)はある。しかし日本に来ている外国人、特に福岡に来る人は留学、就労の目的がほとんどで必要な情報は限られてくる。じっくり研究しないと費用ばかりかかり、利用されないという結果になる。

伊藤(寛) ニーズあるかどうかということだが、アメリカの場合はニーズが沸き起こり施設ができるが、日本人の場合は前もって場所があるということが必要である。場所→ニーズである。地元の人と外国人が無意識にアポイントメントなしに出入りし、自然な形で知り合いになることが必要ではないか。

坂 梨 九州山口経済連合会企画課

今回のテーマは情報化と国際化という2つのキーワードをもっている。

九経連の情報化対策委員会で九州の情報化の問題を研究の際、情報発信機能を充実させる意味で九州の地場企業が活用できるようなデータベースの振興方策の普及啓発を促進させる中心的な組織が必要なのではということで九州山口データベース振興センター構想というものを5年前に出している。通産局でもこれと似たような構想を出し、九経連と協調しながら、九州データベース懇話会という組織を作り、勉強した経緯がある。(西日本新聞社データベース関係者も参加)

その後、データベースセンター構想は具体的に検討する必要があるということで、九州産業活性化センターで九州データベースセンターに関する可能性調査を昨年行い、今春報告書が提出された。そこでは、既存のデータのベース所在源の情報提供、クリアリング情報を提供するようなセンターがあればいいのではということで、そのF S調査的なものをやっていた。

その九州産業活性化センターの調査結果を受け、九州産業技術センターでデータベースの振興について現実的に動かす為には何をすべきかということ今年調査されており、私も作業部会のメンバーとして参加している。

アジア太平洋交流データベースセンターが実際にできた場合に、地域のユニークなデータベースとして、中央へ紹介、また九州の他の地域から何か知りたいという要望があった時などの交通整理をする組織としてデータベースセンター若しくは振興センターというものが必要なものであろうかという関連性を感じている。

もう一つ、国際化の動きに関して九経連としては国際問題委員会があり、その下部組織として、アジアとの交流を重視したアジア部会を今春設置した。ここでは、九州としてアジアの為にどのような支援が可能なのかを、具体的にアジア各国の領事館の方々等をゲス

トに迎えヒアリングを行っている。その中で、留学生に経済界として何か支援できないかを重点的に検討している。

また4年前より九州アセアンユースフォーラムを開きJICAの外国人招聘事業の予算を受け九州各県と九経連の共済事業ということで行っている。

九州アセアンユースフォーラムとは、アセアン各国5名ずつ計30名の国家公務員と九州各県5名ずつの県職員又は民間の青年を招いてフォーラムを開き、ディスカッションの後ホームステイを経て福岡市でプログラムの反省会をやり、東京へ戻るという日程で進めている。

九経連自体、国際部を作りながらも自らの国際化は進まず、今年やっと英文の九経連紹介のパンフレットを作成した。また外国に調査団を出す時や外国からお客様を迎えた時に、言葉で九州を説明するのは分かりにくく、ビデオでアウトラインを説明する方が分かりやすいということで、30周年記念事業として20分程のビデオを作成中である。(日本語、中国語、韓国語、英語の4ヶ国語版)

九経調で現在、「九州としてアジアの為に何をやれるか」という調査中で長期的な調査ではあるが、アジア太平洋交流データベースに参考になるのではないだろうか。

伊藤(寛) 九電のパンフレットは見やすく好評である。

三 宅 日本交通公社海外旅行九州支店

海外旅行を担当している。社内には外国から来る方の為に外人旅行部があり、相当数の外国人旅行客を扱っている。(日本国内の観光)

福岡にはアジアツーリストセンターを置き、アジアの方に日本国内旅行を誘致している。トリップスフォー(日本国内、宿泊、祭り、イベント、海外の情報)というのがあり、在留、旅行者への観光情報の提供をしている。

(財)日本交通公社で調査研究を行っているので、観光資料は入手可能である。

個人としての外国人との係わりはほとんど少なく、ライオンズの交換留学生を受け入れたくらいである。

①鹿児島県庁に出向してきているアメリカ人が県在住の外国人を呼び、安い会費で懇親会を開き好評

②からいも交流

南日本新聞が協力し東南アジアとの交流を促進する為、鹿屋市に国際村のようなものを作るなど、草の根交流が盛んに行われた。実際、福岡に住む外国人は生活が苦しいと予想される。安い宿泊先等の援助を要望しているのではないか。

伊藤(寛) 九州には鹿屋市(加藤さん)、佐賀、柳川、筑豊、大分などの各地で、若い人が自発的に作っている援助グループが多く、心強い。全国的にも独特で、このボランティアグループの活躍が日本の悪い印象を解消するのに役立っている。

武 村 福岡商工会議所国際部

商工会議所は国内、海外の企業を対象としたサービス業務を行っており、国内の留学生や一般市民へのサービスという点では遅れて、どういことをやればよいか模索中である。

例えば、一括した情報を置いた「アジア情報交流センター」といったものがあれば情報収集が速やかに行われるのではないか。現在は情報があっても、活かされていないのではないかと思う。またそこにたどりつくまでに時間のロスが多い。

8割の留学生の不満は衣食住から発生していると思われる。外国人専用のマーケットを作るなどの特権があれば不満は少なくなるのではないか。

もう一つ、日本のコミュニティ活動の遅れも原因にある。企業も利益追求ばかりをせず社会に還元することが必要である。

伊藤(寛) 西洋社会は商業主義に徹している反面、企業の社会的責任も果たしている。ボランティア活動はあたりまえで生活の一部になっている。日本はそういう面で非常に遅れている。

フリーディスカッション

伊藤(朗) 昨年9月中旬から新聞記事をデータベース化し、今年1月から商用化している。現在6.4万件くらいの記事データベースができています。記事データベースを始めた目的は社内の編集支援、また地域振興及び全国的に役立たせるという二つである。

東京飯田橋に本の無い図書館(電子図書館)というユニークな図書館がある。福岡にもこういうものがあればと思う。

福岡の留学生、短期就労者等の外国人が情報を探す場所が分からないという悩みをアジア太平洋交流データベースで克服できればと思っている。どういう情報が必要なのか分からないので具体的な事を皆様からお聞きしたい。

伊藤(寛) どういった情報が必要であり、より重要であるかを知ることが大切である。新聞社の資料を見ると既に答えが出ている気がするが、毎日の生活習慣そのものに関するものが必要である。

日本人が外国に行った時も同様であるが、知らないが故に相手に不快感を与えたりすることがあるのでそういう情報を積極的に提供したい。

法的手続き(出入国、滞在延長)も大切。通貨、レートの問題は旅行者にも大きな関心事である。ホームステイも安い宿泊施設やホームステイに関心のある家庭のリスト(連絡先)があれば便利だ。

中 原 情報提供は和文、英文となっているが、実際に九州、福岡に来ている外国人は韓国人や中国人で、そのほとんどは英語ができない。中国語・韓国語でニュース紙を発行しているが、業者に依頼している翻訳は間違いが多く困っている。

- 伊藤(寛) 翻訳に関しては、英語でも問題がある。熊本県で観光用のパンフレットを作成の際、素朴で田園的な熊本の性格を強調するために使われた“土の匂いのする”という表現を“soil”として問題となった。
正確なニュアンスで翻訳の必要があるが、アジア太平洋交流データベースの場合、中国語・韓国語も考えなければならない。
- 波多江 中国語・韓国語のわかる人が少なく、データベースの検索技術にも問題があるので、まずは英語と日本語で始めて、将来は中国語・韓国語も入れなければならないと考えている。
- 伊藤(寛) 国際化＝欧米化になっているとの批判もあろうが、世界で44ヶ国が英語を公用語としており、英国・米国の言葉ということではなく国際語としての英語と位置づけて優先させてよいのではないか。
- 伊藤(朗) 中国語、ハンガルのキーワードソフトは、莫大な費用と年月をかけて開発しなければならず、今の段階では無理と思われる。
- 中原 必要なのは「本当の情報」である。「うまいものの店」などの最近の本では、お金ももらい掲載しているようで、こういうものとの区別が必要である。
- 武村 商工会議所の場合は企業が対象であるが、最近は外国人の就労の相談もある。留学生も、留学が終わって日本の企業に就職を希望しているケースがあるので、就労の情報サービスができたらいと思う。
- 伊藤(寛) 知り合いのマレーシアの留学生(MBA)が就職先のことで相談に来たことがある。留学後、帰国しても国情が不安定であったり、就職口がないなどで日本に就職を希望するケースは増えてくる。
- 伊藤(朗) 就職情報とは具体的にはどんな内容か。
- 武村 受け入れ企業、海外進出企業の情報です。就労に伴う規制について相談する外国人弁護士、外国人専用の行政書士などを紹介することも重要です。
- 伊藤(寛) ヨーロッパでは現在、日本語熱が高い。日本語を好きだからではなく経済大国日本の企業への就職や日本語を職業にする目的であり、当然就労情報も必要となる。これからは、日本人は日本で就職、外国人は日本で就職しないという考え方は弱くなっていく傾向にある。これが国際化ということだ。
そういう将来の可能性を頭に置きながら情報というものを考えなければならない。

(食事を取りながらの懇談に入る)

- 伊藤(寛) 中国北京でも福岡の知名度は低く、よい意味でもっと知ってもらう必要がある。昔から地図は長崎、北九州、鹿児島は出ていて割合知られている。
- 伊藤(朗) ツーリストセンターの情報サービスは、データベース化されたものなのか。
- 三宅 全国支店と代理店を結ぶネットワークで、日本語のみである。
- 波多江 (松尾氏へ) いろいろな場所から入ってくる外国人を、正確にとらえることはできるのか。
- 松尾 とらえられない。外国人自身、あるいは宿泊先に届け出義務を科せるとかしなければ無理である。ビザが切れた場合は通知する。
- 野村 情報提供の方法は本がいいのかパンフレットがいいのか、それとも会話方式がいいのか。レインボープラザの情報(本)を見たが、電気、水道、ガスなどの申し込み方法や使い方などの具体的な説明は文字が一番いいのではという気がした。
本で済む情報もあろうし、また人でなければできないコンサルテーション的な情報提供もあろう。それらの中間にコンピューターを組み込んでデータベース手法を駆使するスマートな方法があるわけで、これにふさわしい情報を蓄積したい。
- 伊藤(寛) 情報提供というと活字や映像ということになるが、法律的な詳しい内容などになると本を読んだだけでは分かり難いので口答説明も必要になろう。とにかく、まずは活字であろう。
- 三宅 日本人が外国でホームステイする時、その国の風俗習慣のオリエンテーションを行うが、これからは外国人への日本の習慣の説明と日本人への東南アジア諸国の習慣の説明がデータに必要である。
- 伊藤(寛) 宗教上のことで、知らない為に失礼な行為をしてしまうこともあるので、外国の慣習を知ることは大切だと思う。
- 中原 実際の情報提供の方法はどう行うわれるのであろうか。県の構想と全く同じような内容なので、関連はどうなるのか。急いで県とのコンタクトを取る必要がある。
- 伊藤(寛) 県、市、九経連、九経調または各大学等、諸団体との調整を計り、無駄な労力を省くべきである。

伊藤(朗) 資料にある項目は、かなりの量で取材がたいへんと思われるので、項目ごとの優先順位を決めることも必要だ。

波多江 現在九経調で行われている留学生へのアンケート調査の結果を参考にしたい。

伊藤(寛) ロータリーのあるガバナーが留学生の集まりで「日本の悪い所は見ないで、良い所だけを持って帰ってください」と発言したがこれは非常に日本人的な発想であり、良い悪いの判断は留学生本人が下すことでこういうおしつけがましい態度はよくない。

坂 梨 アジア太平洋交流データベースの調査の範囲はどこまでなのか。技術的なものまでなのか、組織作り、あるいはメンテナンスまでやるのか。

波多江 まず、①調査段階（現在）

↓

②プロトタイプを作成—小さな実験モデル作りをやる

↓

③データベースの構築 事業化 3年目

内容がよければデータベース構築の為の資金援助（共同出資）を15億円までできるということである。

坂 梨 商用データベースということなのか。

波多江 データベース自体で採算がとれることになれば、商用データベースとなる。

坂 梨 採算に合うものなのか。パブリックなものとして採算は無視して構築すべきではないか。また、理想論だけで走ってよいのか。

波多江 それは第一段階のまとめで考えたい。非常に公共的な性格を持つものなので、県、市、その他企業（JTB等）との関連づけをしっかりと抑えたい。

中 原 県の国際交流センターは初めから自分達だけでは無理と諦め、いかにして既存のデータを寄せ集めて利用しようかと考えていたので、アジア太平洋交流データベースがあれば、これを買えばいいのではと思った。

坂 梨 逆にここでは中身を議論して、県や市に作成を依頼する方法もある。

野 村 有料で県や市の代行をするというパターンもあろう。

伊藤(寛) 理想的にはデータベースは世界どこでも利用できるということだ。

中 原 教育の部分で、学校の問い合わせやどこの学校にどんな先生がいるかという問い合わせも最近ありました。

伊藤(寛) 今日初回で総論的になりましたが、貴重なご意見を積極的に出していただき、有り難うございました。

以上

9.2 第 2 回

アジア太平洋交流データベース研究会

議 事 録

○ 日時 11月6日 13:30～15:30

○ 場所 福岡国際ホール「宝満の間」

○ 討議内容

1. 研究会新メンバー自己紹介

2. アジア太平洋交流データベース項目について

①重要項目は

②落ちている項目は

③外国人が困っていたり、欲しがっている情報は

3. その他

九州山口経済連合会のデータベース構想など

○ 出席者

伊藤 寛道	九州造形短期大学	教授
松尾 泰次	福岡入国管理局総務課	渉外調整官
二宮 純	(財)福岡県国際交流センター	主査
坂梨 正雄	九州山口経済連合会	企画課長
三宅 誠一	日本交通公社海外旅行九州支部	海外旅行担当課長
武村 丞治	福岡商工会議所	国際部長
和田 弘隆	国際協力事業団九州支部	参事
森山 日出夫	九州大学	講師 留学生教育担当
友成 克生	西日本新聞社	情報開発センター長
野村 武		情報開発センター次長
伊藤 朗人		データベース部部長
高浜 正興		調査部次長
波多江 修		システム開発部次長
小西 晋		システム開発部

伊藤(寛) 九州造形短期大学

今日は総論から各論の中間位のところをカバーしていきたい。

まず最初に新聞社で整理した項目リストに追加したい項目、必要でないと思われる項目またはもっとも重要であると思われる項目などをお聞きしたい。続いて坂梨氏より九州山口経済連合会のデータベース構想について、また森山先生より九州大学の留学生センターの設置計画についても説明していただく予定である。

その前に今回初めて出席された方と代理出席の方に自己紹介をお願いします。

友 成 西日本新聞社情報開発センター

病気の中野センター長に代わり情報開発センター長に就任した。東京支社外報部から事業局そして情報開発センターと移り、各部署での経験を通じかねてから国際化について考える機会も多かったが、ともすれば国際化というものは外に出ていくことが中心で、内に入ってくることの視野が欠けているという実感があり、国際化というのはワンウェイではなくツーウェイであるという考えを持っていた。そういう意味で今回のアジア太平洋交流データベースというのは重要なことで、すでに研究会において各々の専門の立場から意見を出していただき感謝している。

和 田 国際協力事業団九州支部

九州支部の業務は開発途上国からの研修員の受け入れなどだったが、この研修員受け入れについては昨年10月に北九州八幡に九州国際研修センターができたのでそちらの方に業務を移管し、現在は主に21世紀に向けてアジア地域からの青年招聘事業をやっている。それから逆にこちらから海外に行かれる青年海外協力隊あるいは専門の方々、そして最近は少なくなったが海外へ移住される方のお世話をしている。

私は広報と総務を担当している。職員は私を含め6名しかいないので研究会には私、または山口というものが出席させていただくことにしている。

森 山 九州大学

九州大学では1961年に全国で初めて「日本語日本事情」という講義科目(武藤キヨシ教授)を開講したという輝かしい歴史を持っている。1960年代は学部学生が中心で、それほど数が多くなく、1970年代は母国で学士号を取った方々の留学が増え100人の大台に乗った。1980年には留学生センターを設け就学上、生活上の諸問題に助言、指導に当たるための専任の講師を配置した。これは学内措置でなかば非公式でしかなかったが文部省が今年度から京都、東京、広島の大大学に留学生センターという名称の施設を設置することになった。九州大学はそのモデルというふうに言われてきたが、実際には1992年度に開設される予定だ。そうなれば受け入れ体制が変わってくると思う。私は1980年設置の時最初の講師として赴任し4年間程仕事をした。その後1984年に専門科目担当の教官という制度ができたので農学部へ戻り、留学生に専門科目を教える

役目をしている。

九州大学には現在400人位の留学生がおり、頭打ちの現象が見えてきたと思っている。福岡市内での九州大学の留学生の割合は年々下がり続けているが、県内800人の留学生のうち半分が九州大学で学んでいる。ある意味ではかなりの留学生がいろんな問題を引き起こし、多くの方々の援助を得ながら、一つの目的を達成して帰国している。その評価自体についてはこれからいろいろ話をしていくが、地域社会で温かく迎え入れられているかどうかというのは大きな意味を持っていることではないか。そういった意味でこういう形のデータベースが作られて、活用できるようになれば大変心強い。

二 宮 (財)福岡県国際交流センター

センターについては前回の研究会で詳しく説明したと思うが平たく言えば県の全面出資で人材も県より派遣された財団である。仕事としては県民間の国際交流の促進で、民間で行われている国際交流の手伝いである。私はセンターの情報提供を担当しているのでいろいろ勉強させていただきたい。

伊藤(寛) 項目リストに従いメンバーの方にお話を伺いたい。

松 尾 福岡入国管理局総務課

直接関係のあるのは「IV 重要な手続きとシステム」で「1. 日本に滞在するための外国人登録・手続き」(p2)とあるが、ここに掲げてあるのは外国人登録に関する項目が中心になっている。外国人登録は日本人で言えば住民登録にあたる。これは適法に滞在している人、不適法の人を問わず全員登録しなければならない。重要であることには間違いない。むしろ外国人が日本に滞在するために絶対しなければならないといえば登録よりも在留期間の更新、ビザの在留資格を変えること、子供が生まれた時に在留資格を取得することなどで、これらの手続きの方が緊急の重要事になるわけである。登録は登録で案内するとして、今言った点をよりいっそう情報提供しなければならない。

「III 日常生活の重要情報」(p1)については御存じかと思うが北九州市の「Living in Kitakyusyu」、福岡市の「Living in Fukuoka」が参考になると思う。

二 宮 「IV 重要な手続きとシステム 2. 年金について」だが、外国人は短い滞在期間であると掛け損になるのでほとんど掛けられない。年金法が適用になるのか、また1年位掛けていて給付を受けるときは帰国しているなど問題がある。

「V 医療情報」は大切だと思う。国民健康保険は外国人も加入できる。

またわれわれのところによく、働きたいという問い合わせがある。しかし職安法の問題もあり、こちらでは斡旋できない。職業紹介のニーズは今多いが紹介する方法は難しい。

坂 梨 九州山口経済連合会企画課

「VIII 経済情報」(p 5)の欄に自国の企業が九州のどこにあるかなどを見れる外資系の企業のリストを入れておくと、おもしろいと思う。

「XI 主要な官公庁」(p 6)に領事館があるが、名誉領事館も入れたらよい。正式な領事館は数が少ないが名誉領事館は数も多く一部業務を代行しトラブルを処理できることもある。

国際交流機関というのがあがるが福岡には国際交流団体連絡会という組織が結成され、事務局がレインボープラザの中にある。そこでは福岡市と近郊の国際交流団体の連絡が行われている。

「XII その他」(p 6)か、もしくは名誉領事館関連の項目かどちらかになるであろうが、各国の友好協会も民間の交流の中心となっているのでリストアップしたらよい。こういった名簿については2、3年前に九経調が作っている。(国際交流団体組織名簿のようなもの)

三 宅 日本交通公社海外旅行九州支部

国際交流団体(p 6)の中に青少年交流をやっているボランティア団体を入れる。社会福祉団体(ロータリー、ライオンズなど)、ホームステイを受け入れる団体も必要である。

一番大事なのは、各国の習慣、日本の各地の習慣を入れると理解を深められる。

武 村 福岡商工会議所国際部

就労の希望が増えてきているのでリクルーティングを専門にやっている会社(市内に4社)をリストアップする。

外国人が来日時に現地で通訳を雇いたいという需要もかなり増えているので、高度なレベルの通訳を登録する。

最近はいろいろなコンベンションが行われているので、コンベンション情報も必要である。

国の行政機関、出先機関のリストアップも

和 田 国際研修センターで受け入れている研修員が、同じ国から来ている人と横の連絡を取りたいということがある。難しいようだが、どこかでまとめられればと思う。

国際協力事業団では外国へ行く人へその国の入国事情というものを出している。参考にしてください。ほとんど新聞社作成のリストで網羅されている内容と同じだが、その他では海外で家庭に人を雇ったりすることがあるが、そういう時の使用人について情報などが入っている。

森 山 「II 住居決定の情報」(p 1)について、九州大学でも留学生への手引きに書いているが、手付金、礼金、敷金などの説明を外国人に分かるように文章で書

くのは大変難しい。よほど気を使わないと、ただ載っているというだけになる。

「IV 重要な手続きとシステム 4. 税金」(p2) 留学生が講演をして謝礼金をもらう時、源泉徴収されているので確定申告をすれば戻ってくると思われるが、入国管理局が怖いからとやらない人がある。資格外活動との絡みではなく、きちんと雇用契約をすればその時に教えてくれるのだろうが、アルバイトの場合でも容赦なく取られている場合があるので説明が必要である。

「V 医療情報」(p3) については、レインボープラザに市内の外国語のわかる医者リストがあるが、留学生に聞くと医者の理解の範囲と留学生の語学力とはレベルの差があるようで中には役に立たない医者もいるようだ。

「VII 教育情報」(p5) 各大学が海外向けに情報を出している。

昨年度から日本国際協力協会(文部省)が「日本留学フェア」を始め、今年1月にタイ、マレーシア、インドネシアを廻っている。来年はそれに韓国を加えた4ヶ国(森山氏も参加)で行うことになっている。このような、外に提供する情報はそのまま利用できるのではないか。

「IX マスメディア」(p5)の英文ニューズレターは、月刊で英文の“KYUSYU”という雑誌が出ているはすで、レインボープラザも毎月出している。九州大学も定期的に出す予定だが留学生会の活動は停滞ぎみである。

福岡でのボランティア組織の団体連絡会があるにはあるが、2ヶ月に1回、集まるだけでその場限りである。参加すれば情報は得られるが、欠席団体へのケアが全くないので、その辺の情報も考えたい。

「XI 主要な官公庁」(p6)のところにレンタルショップがあり、このリスト自体は順番や重要度などメチャクチャで考えにくいので、もう少し要領よく整理したらどうか。

レインボープラザで留学生向けに「不要家具を譲ります。(扇風機)」と出したら、提供者の勤務先に70名くらいから電話がかかり、提供者も希望者も不愉快な思いをしたことがあったという。情報の提供しっぱなしで後のチェックがないのでこういうことが起きる。情報の提供の仕方、新しい情報への入れ替え、情報の有効期限など、しっかりしておかないといけない。

伊藤(寛) 言い忘れていたが、リストの優先順位についてもお聞きしたい。

皆さんの意見を順を追っていくと、出入国に関してはいろいろ問題があるようで、私も1、2年の滞在予定者から、延期したいという相談を受けたことがある。入国管理局へ行けばいいと一言で済む場合もあろうがそういう場合ばかりではない。クリアリングハウスといった一ヶ所、総合的に案内してくれる場所を設けたらよいのではないか。

伊藤(朗) 姉妹都市を結んでいる都市に、機関があり自分の出身地の機関に問い合わせればいろいろと応答してもらえるのか。

二 宮 東京に日本姉妹都市協会があり、日本のどこの町がどこと結んでいるかなど、総合的に把握している。市町村の窓口に関しては千差万別で、結んだ当初は良いが4、5年経つと全然交流はなされていない。自治体自体は国際交流の担当部門を設けておらずやっとなら県レベルで活動されている程度である。

伊藤(寛) 政府間のやりとりはくい違いが生じ、険悪になることがあるが、民間同士の交流 (people to people program) であれば特定の問題をめぐってケンカをすることも少ないという考えで、姉妹都市はアイゼンハワー大統領の頃に考えられた。

日本で一番最初にできた姉妹都市は長崎 (ミネソタ州セントポール) であったと思う。たまたま長崎に来ていた牧師がセントポールの出身だったということで姉妹都市関係ができ、今でも続いているようだ。福岡とオークランド間もうまくいっているのではないか。その後ニュージーランドのオークランド、広州、ボルドーとも姉妹都市関係ができている。

東京の姉妹都市協会まで問い合わせるのは大変なので、九州として情報を提供できればよい。総合的なインフォメーションセンターを設置していただきたい。県、市という考え方ではなく、九州全部という考えでインフォメーションする所が欲しい。今は九経連と九州沖縄県知事会くらいであろうか。具体的に動いていただけるのは九経連であろうか。九州は一つといいながらそこまでいっていない。データベースとなんらかの係わりを持った形で九州、山口、沖縄を含めた広域情報センターといったものをやりたい。

ボランティア団体の連絡についても総合的なインフォメーションセンターがあれば、そこで情報を取得して、的確に連絡し詳しい具体的な情報を入手することができる。そういう意味でレインボープラザは大成功ではないか。福岡市にとどまらず、九州全部あるいは西日本地区を対象にさせていただくとよいのではないか。

外国の人が福岡に来る時、福岡だけということは少ないはずでやはり九州ということで来るのであろう。かつてアメリカのある機関が出した日本紹介のパンフレットで福岡について、「長崎、熊本、鹿児島などに行く時、遠すぎるので福岡を中継にして行くところどい」とあり、憤慨したことがある。その当時は飛行機が今ほど発達しておらず、国鉄を利用するしかないような時代ではあった。

彼らは九州を一つの地域として見る傾向が強いので情報の提供についても、西日本地区 (九州、沖縄、山口) という次元で考えるのがより効果的で利用価値も高くなるのではないだろうか。

坂 梨 九経連と知事会では、毎年1回、意見交換会を行っている。

(知事会は春と秋の年2回行われており、その内の秋の会に合わせて行う) 今年で6回目だが2、3回目の時当時の永倉会長が国際交流の問題を取り上げられた。こちらから見れば各県単位でやるのだが、外から見れば九州は一つに見えるのだから問い合わせがあった時に受け答えができる窓口、例えば九州国際交流協会もしくは国際交流財団のような組織を作ったらいのではないかと提案をした

ことがある。その当時はまだ各県自前の国際交流財団を作っている最中で、必要ではあるが県にまたがった九州一つの組織造りは早すぎるということでその後は正式な議題としてあがっていない。

伊藤(寛) プロジェクトごとの横の繋がりは、九経連を通じてうまく行われているようだ。プロジェクト以外でも小さな情報ぐらいいつでも提供できるようなシステムは是非必要である。九州についての情報を即座に入手できる。簡単な宿泊施設を備え、小さな会議場を持ち、日本文化(生花、書道、謡曲、茶道など)のグループの事務所のある多目的な文化会館ができればいいと夢みていた。

伊藤(朗) (三宅氏へ) ホテルについてだが、九州全体の外国人向けホテルをデータベース化して案内できるであろうか。

また、ホテルのランク付けはあるのか。

三宅 データベース化しており、案内するのは可能であろう。

ホテルのランクはないが、実際は料金面である程度区別する。あとは旅館であるか、国際ホテルであるかというタイプでも区別がある。

伊藤(朗) 外国から来る人にホテルの情報は必要だろうか。ホテルは決めて来るのではないか。

三宅 団体の場合は決めて来られる。個人の場合は一泊だけ決めていて、その後は決めていないことがある。

大手の旅行代理店に行けばホテルのリストはある。主要なホテルをリストアップする方法もあるが、リストに入っている、入っていないで問題があるのであれば、旅行代理店にまかせてもよいのではないか。

伊藤(寛) 日本式の旅館に泊まりたいと希望する人もいるのではないか。

外国人は日本を勉強したいと思って来るのに、こちら側はお客様扱いをしてしまう。生の日本の生活を体験したいということであるから、普通の日常生活を体験してもらい経済大国の本当の姿を見てもらいたい。より日本に親近感を持たれると思う。

森山 議論の進め方として、参考目的で短期滞在の人を含めて話を細かくやるのか、またはそのような事は旅行会社にまかせておけばよいのではないか。市民レベルでの長期滞在者に的を絞った形で議論を進めていった方がいいのではないだろうか。

伊藤(寛) どちらもカバーすべきだと思うが、われわれとしては後者に重点を置くべきであろう。いかがでしょうか。

波多江 現在、外国人の旅行者が増えてきているのでそういう人々にも対応できるようにしておきたい。それと長期滞在者も考える。

松 尾 私も、どちらにウェイトを置くかべきかで提供する情報も違ってくると思う。福岡にそれほどの長期滞在者がいるのか。日本の入国者は今、300万人近くだが8割は短期である。長期滞在者はある程度情報を持っていて提供しなくても自分で探せる。むしろ短期滞在者の方が右も左もわからないので、初歩の情報を提供する必要があるのではないか。

短期というのは旅行者あるいは期間の決まっている研修生、留学生、3～5年で帰国する外国語教師などだ。

伊藤(寛) 3年以上になれば長期滞在者と呼べるだろう。

野 村 レインボープラザで問い合わせがもっとも多いのは、電話による観光情報だということだ。長期滞在者の生活に密着したものだけでなく、かなり両者にオーバーラップしたところで進めていきたい。

伊藤(寛) おっしゃるとおり長期滞在者は、一度体験すればいろいろなことを覚えて日本人と同じ様に知っている。

また、観光で1～2週間日本にいと、とても良い所だが長く居れば居るほど住みにくくなるという人がいる。旅行者については悪評はなく、住んでいる外国人の方が日本人が心を開かないことを不満に思っている。情報は持っているが、あとは日本人の心の問題だということになる。国際的な相互理解を深める上でつきまとう、そのような問題をどうするかも考える必要がある。

二 宮 データベース化はアルファベットでやるのか。

波多江 この問題はこれからの研究課題だ。日本語はすでにできていて、英語についてもプログラムがある。日本語と英語をペアでどちらからでも検索できるようにしたい。

二 宮 国際交流センターでも英語のガイドブックを出したが、中国人、韓国人がほとんどで役に立たなかった。短期滞在者ならばなおさら日本語はできず、中国人だと英語も殆どわからない。中国語、ハングルのワープロさえない。あってもデータ入力する人がいるのかどうか非常に大きな問題である。データベースを作ったはいいが一番利用したい人が読めない。ニーズのある人はどういう人なのか、どういう字を読める人なのか重要である。

伊藤(朗) ほんとうに情報の必要な人は中国人、韓国人なのであろうが、データベース化

しても中国語、ハングル語で検索する手立ては今のところない。印刷物の場合はできやすいだろうがデータベースの場合は現時点では無理である。

森 山 中国、韓国の電子産業がどれくらいのレベルに達しているかわからないが、九州大学の留学生に聞くところによると、中国にも「一太郎」レベルの漢体字を入力できる技術はあるということだ。前回の研究会でも、翻訳で誤訳が多く正確な情報まで達しないということがあったが、優秀な留学生を高給でアルバイトに雇えばできないことではない。

二 宮 国際交流センターにもハングルと漢字のワープロを置いているが、入力に日本語の2～3倍の時間がかかる。項目を議論する以前の問題としてデータの表示の仕方がある。

森 山 2～3倍の問題であるのなら、大勢の留学生は短時間で効率のいいアルバイトを探しているのだから皆に役立つ形で働けるのであれば、相当な人材を確保できる。(現在は、入管法の改正で1日4時間しかアルバイトができないようになっている。)

伊藤(朗) 入力は、確かに中国語であろうが韓国語であろうが簡単にできるが、コンピューターで検索する場合にキーワードをどうするのか、キーワード切り出しのソフトをどうするか全く日本のコンピューター技術でも無理である。日本語の検索でもまだ完璧ではないので、ハングル、中国語でコンピューター検索をするとするとソフト開発だけでも莫大な資金と労力がかかる。

二 宮 日本語、英語でやるとしても外国人の質問を聞いて日本語、英語で検索してくれる人が必要である。

伊藤(朗) 一つの方法論でそこまで話は進んでいないのだが、データベース化するならどういうものが要かということをお話している訳で、作るとなると専門的に検討していかなければならない。

伊藤(寛) とりあえず、日本語と英語という枠内でということだ。

波多江 当然、将来的には中国語、ハングルの翻訳は考えてみたいと思っている。

三 宅 行政関係の人は、海外からきたお客様をどこに案内したらよいかとよく聞かれる。自分の県にはパターンがあって、見学する施設などはよくわかるであろうが、他県になるとわからない。九州内の見学(産業視察)可能な場所がわかれば有難い。

姉妹都市・姉妹クラブ・姉妹港湾・姉妹校などのリストや研修体験のできる施設の所在も必要だ。

ホテルの他に、公的機関の運営する施設（志賀島、グリーンピアなど）も。

松 尾 アジアの方にはあてはまらないかもしれないが、欧米の方々が茶道、華道、剣道、柔道をやりたいが適当なところはないかと相談に来られることが多い。変わったところでは、久留米絃を弟子入りしてやっていたり、禪、尺八をやっている方もいらっしゃる。こういう事は意外に日本人は知らない。外国人を受け入れてやっている所も多いので情報提供ができればよい。（文化サークル、文化センターなど）

伊藤(寛) 八女の和紙、焼物なども希望者は多い。

森 山 外国人がある題材について話したい、紹介したいということがけっこうある。九大だと外から依頼されることも多く、人気のあるものは講義のじやまになる程だが、他校にはやりたくても機会のない人もいると思うので、人材バンクのようなものがあればよい。

伊藤(朗) 例えば、留学生名簿（大学、国、特技）があるのか。留学生の人材バンクを日本人向けに出すことは考えられるか。

森 山 留学生の場合は11月1日付で名簿を確認しているが、大学が持っているものはそこまで、特技その他は全くわからない。本人の申し出で登録する形であれば、積極的に日本を知りたいと思っている人には良いチャンスだと思う。申し出なしに名簿を出すことはプライバシーにかかわることなので、できない。

二 宮 情報として握ることはいいが、プライバシーにかかわることなので外国人の場合は特に配慮しておく必要がある。

伊藤(寛) 留学先でいろんな勉強をすると同時に自国のことを紹介したいという学生もいると思うし、学校や派遣組織からも言われて来ているであろうから、あくまでもボランティアという形でだがリストアップしておくのもいいのではないか。大多数は短期であるので、リストを新しくすることも必要で、手間はかかるが面白いと思う。

武 村 （二宮氏へ）国際交流センターのパンフレットはいつ頃できたものですか。

（二宮氏 2ヶ月前位です。）

ミスインフォメーションがありますので指摘させていただく。

まず、福岡商工会議所が掲載されていない。外資系の銀行でオランダ銀行は閉鎖

されており、香港上海銀行は移転してその場所にはない。また、小倉商工会議所ではなく北九州商工会議所だ。

二 宮 閉鎖などがあるのでやはり情報にはメンテナンスが必要である。

武 村 次回、新しく作られるときには是非福岡商工会議所を掲載ください。

伊藤(寛) 日本でもそうだが、外国では商工会議所は非常に重要な所であるので正確に掲載されたほうがよい。抜けていればなおさらだが。

和 田 ある意味では触れない方がいいという人もいるようだが、宗教関係も入れた方がよいのではないか。

問い合わせがあるので食べ物屋を掲載したが、実際行ってみるともうその店はなくなっていたということがある。また、どこまで入れるのか。

意図的ではないかもしれないがこの研究会のメンバーに女性がいないが、日常生活のことなどは女性の意見を聞いた方がよいのではないか。また、外国人の方に直接聞いてみることも必要ではないか。国際協力事業団の研修センターには年間500人の研修員が来るし、森山先生の所の留学生などにも聞くと、いい意見が出るのではないか。

伊藤(寛) 12月に外国人の方に話を聞くことになっているようです。

女性のメンバーについては、なんらかの形で入ってもらうことも必要でしょう。

宗教については非常に微妙で日本人は白人を見ると皆クリスチャンだと思うが、そうではない。ユダヤ教の場合は特に微妙で、オーソドックスなユダヤ教信者であれば、そのことを誇りに思っているが、中には自分がユダヤ人であることを知られたくなく、アングロサクソン系の名前に変えている人もいる。

和 田 寺院のある場所の紹介などという意味の宗教だ。礼拝に行きたいが、場所がわからないという人などに答えるためだ。

二 宮 宗教といえばレストランの紹介もあれば便利である。

伊藤(寛) 情報を提供するという立場からすると、あまりタブーということを感じない方がよいのかもしれない。

武 村 是非、外国の方のお話をお聞きしたい。

波多江 留学生、長期滞在者だけのグループインタビューと、こういった席に領事館の方々を入れて話を聞くとかを考えている。外国人の困っていることを直接聞きた

い。

伊藤(寛) 領事館の方々も相談を受けるケースが多いと思われるのでいいことではないか。

武 村 在福岡の奥さんの会(アメリカ人)があり、翻訳をやっている組織があると聞いたことがある。そういう方々でもよいのではないか。

坂梨氏より九州山口経済連合会のデータベース構想についての説明

(別紙 参照)

伊藤(寛) 九州大学の留学生センターについてももう少し詳しく森山先生からお聞きしたい。

森 山 今までの単なる日本語教育でなく生活面を重視した型で留学生に対応しようと、文部省がようやく腰を上げた形で東京大学、京都大学、広島大学にカウンセリング担当の教授、助教授を置いた。来年度の予算では東北大学、筑波大学ともう一ヶ所があがっており、その次の年度には九州大学に本格的に留学生センター(現在は留学生教育センター)を作る予定だ。

同時に歩調を合わせ、来年の九州大学創立80周年記念事業として3年計画で国際学術交流基金を集めている。学内では、もう実際に使い始めており、同窓生並びに同窓生の所属する団体・企業にまで手を延ばし、目標額20億円の事業としてスタートする予定だ。そこでは、現在ある留学生会館の隣の敷地に学者、研究者用の宿舎を作ると同時に財団法人を設立し、地域との交流通信、学術情報の交流・公開などの業務を主たる仕事となる予定である。

なにしろお金のからむことなので来年からスタートしてもうまく集まるかどうか不安である。というのは前回の研究会で話が出ているようだが、九経連で金額も同じ20億円でアジア交流の為に資金作りをやり、具体的に留学生についても相当額の奨学金を出すということで、九大としては大変困ると断っているようだ。大学の都合だけでそういうものを左右するのはおかしいと思うのだが。

1992年以降大学の18歳人口が急激に減ってくるのでその対応策といった形で国際化というものが迫られると思う。

21世紀初頭には国全体で10万人の留学生を受け入れるという方針が打ち出されているが1992年の予想数字が4万人であり、入国管理局の外国人登録者数から割り出した昨年12月末の留学生の在籍者数が3万6千を超えているので、たぶん今年5月現在で4万人はオーバーしていると思われる。計画より2年早い

ペースで国際化が進んでいるということになるが、だからといって21世紀に10万人受け入れることが可能かどうか私自身はあやしく思う。流れとしては、かなり急な流れを見せているのでそれに対応する努力を怠らないと、今はなんとなく問題がかたづいているが、あやふやな対応をしていると留学生達に悪い印象を残す事になるだろう。

以上

9.3 第3回

アジア太平洋交流データベース研究会

議事録

○ 日時 11月19日 14:00～16:00

○ 場所 福岡国際ホール「宝満の間」

○ 討議内容

1. レインボープラザの活動について

(財)福岡国際交流協会 総務課長 三浦 政輝

2. 九州大学留学生の悩みについて

九州大学講師 留学生教育担当 森山 日出夫

①住居について

②生活について

③留学の目的など

3. その他

○ 出席者

伊藤 寛道	九州造形短期大学 教授
松尾 泰次	福岡入国管理局総務課渉外調整官
三浦 政輝	(財)福岡国際交流協会総務課長
坂梨 正雄	九州山口経済連合会企画課長
満留 省吾	日本交通公社海外旅行九州支店長
武村 丞治	福岡商工会議所国際部長
和田 弘隆	国際協力事業団九州支部参事
森山日出夫	九州大学 講師 留学生教育担当
野村 武	西日本新聞社情報開発センター次長
伊藤 朗人	データベース部長
高浜 正興	調査部次長
波多江 修	システム開発部次長
小西 晋	システム開発部

伊藤(寛) 九州造形短期大学

今回は、外国の方々や留学生の置かれている立場をご存じで、また海外との交流を通じいろいろ国際的なお仕事をなさっているお二人の方に特にお話を伺い、その後で質問をしていくという具体的な勉強をする機会にしたい。

まず最初に全国でもユニークな場所と内容で貴重な国際化の立場から仕事をなさっている、「レインボープラザ」の活動について三浦課長から話を伺い、次に九州大学の森山先生から多くの留学生が勉強している九州大学の留学生センターについてお聞きする。九大だけではなく日本に来ている留学生に共通する面があるろうが、特に九州の場合について留学生の勉学・研究はもちろん住宅や日常生活、あるいは本来の留学の目的がどの程度達成されているのか話していただく。

三 浦 (財)福岡国際交流協会

今年4月にレインボープラザに配属になり、活動内容を詳しく承知している訳ではないが実際の活動について説明する。

福岡国際交流センターは福岡市の行政組織の一部として、昭和59年に発足した。その後国際化の流れの中で行政だけでは対応しきれないのではないかとということで、昭和62年に外務大臣の認可を得て経済界・学界の協力のもとに財団法人が設立された。協会はリーフレットに記載のように4つの目的のために活動している。

まず平成2年の事業体系を説明する。

事務局は専務理事以下15名で事業にあたっている。内訳は市の出向が9名で、協会が直接採用したのが6名である。民間の知恵や活力を導入するといいつながら、市の職員が主要ポストを占める関係で理想の組織になっているかは疑問である。

事業は次の6本の柱から成り立っている。1. 情報サービス事業、2. 人物交流事業、3. 研究、啓発事業、4. 留学生への援助、5. 民間国際交流団体の連絡調整、育成、6. 姉妹友好都市交流事業である。その内の主なものを説明する。

まず情報サービスについて説明する。

センターがサンパレスにあった時は(平成元年4月にイムズに移った)電話での問い合わせを含めて1日20件程度の利用であったが、イムズに移り平成元年度は1日当り約600名の利用と増えた。現在は1日400件程である。利用状況の中でイムズの立地条件によるものか95%は来訪者で、残り5%が電話での利用者である。平成元年度663人の利用者のうち日本人が574人、外国人が89人である。

英文情報紙として月1回、外国人向けにイベント情報を出し、日本の伝統(山笠の由来、どんたくなど時期にあったもの)や情報を入れ、外国人には好評を得ている。

外国人が日常生活をする上で必要な基礎知識(電話の設置方法、支払い方法、電気・ガス水道関係、ゴミの出し方など)を説明した「生活の手引き」を発行している。これは、今まで英語だけであったが留学生の80%が漢字圏から来てい

るので来年の2月には日本語版も発行の予定である。

人物交流事業について、まずホームステイは滞在1週間以内、滞在2～3時間だとホームビジットと区別している。ホストファミリーの登録はホームステイが228家庭、ホームビジットが102家庭である。その利用者（本年度実績）はホームステイが15カ国53名、ホームビジットが4カ国5名になっている。昨年はアジア太平洋博覧会開催の関係で160強の利用があった。

外国人施設見学会というのは外国の方が行政施設その他（下水処理場、清掃工場など）を見学する機会がないというので始めた。初めは留学生を対象としていたが今年度からは在福外国人も見学させて欲しいということで1回行った。在福外国人については11月11日、留学生については8月に実施し、好評であった。

研究、啓発事業の語学ボランティアは、外国から来た人が通訳を必要とした場合にボランティアとして案内するため、現在15言語275名が登録されている。本年度の利用状況は通訳と翻訳が多いが13件で、50人がボランティアとして活動した。あとの研究、啓発事業に関してはシンポジウムを開いたり、講演をしたりしている。

国際化講演会は12月の4日（14：00～15：30）に実施予定で、これは元ソ連大使、中国大使を歴任された香取国際交流基金理事長を呼んで行う。テーマは「国際情勢、ソ連・東欧の動向」である。

私達が一番力を入れているのは情報サービスと留学生への援助であるが、その一つ留学生への援助について説明する。

留学生資金貸付というのは、急病になったり、民間アパートを借りる時の敷金など一時的に多額の出費を要する場合に10万円を限度に無利子で貸し付ける2カ月据え置き、10カ月償還の制度である。

レインボー留学生基金については、現時点では平成4年をめどに10億円の基金を積み上げる予定である。福岡市が5億円、民間から5億円積み上げ、奨学金として留学生に給付する制度であるが、積み上げ状況については、福岡市は平成2年度までに3億円を積み上げており、来年1億円、再来年5千万円を予定しているが、民間の寄付は努力不足でまだ4千万円程しか集まっておらず、現時点の基金は3億4千万円程度ということになる。

本年度60名に月額2万円を給付することになっている。（応募は130名であった。）平成元年度は110名強の応募があり、54名に対し給付している。まだ2倍位の競争率があるので、民間の寄付をお願いしていきたい。来年度からは60名より若干上回ると思うが、その時の金利状況に左右されるのではっきり言えないが10名以上のプラスアルファがあるのではないかと考えている。

住宅、中古家具情報提供について・・・留学生は短期間の滞在であるため新品はどうかということで市民の情報をもとに斡旋（電気製品が多い）している。本年度は市民の方から246件程の情報があり86件が成立した。

「留学生生活実態調査」は、内外学生センター福岡支部、北九州国際交流協会、福岡県国際交流センター、レインボープラザの4社で協力して実施している。ア

ンケートは800の内400強の回収ができており、分析に入るところだがこれについては九大の先生方（森山先生他2名）にお願いしており、2月上旬位までに結果が出るようにしたいと考えている。

福岡都市圏には約100程度の民間の交流団体があるが、それらの横の連絡がスムーズにいくようにとレイボープラザが事務局になり福岡国際関係団体連絡会が作られた。現在の加入団体は57である。

民間団体の行う有意義な事業について30万円を限度として助成している。（国際交流活動助成）

福岡市は6つの姉妹都市、友好都市を行政交流として持っているが、それらの都市との派遣事業、受け入れ事業をやっている。市民団体についてはレイボープラザが受け持つことになっており、本年度は、US交換留学生派遣というもので15名の高校生、大学生をアメリカのオークランドに、また8月には中学生、高校生をニュージーランドのオークランドに派遣した。本年度は受け入れを行うことになっている。

レイボープラザは以上の6つの柱で事業展開をしている。

伊藤(寛) イムズという福岡ではハイカラな場所にあるということもあろうが、内容が大変充実しており、私自信もできるだけ立寄ることにしている。統計的に見ると日本人の利用者の方が圧倒的に多いが、それは用事の有無にかかわらずイムズに行くと外国人に会えるという期待感があり、それ自体が国際化の立場から言うと非常に有意義で、九州の国際化に大きな役割を演じている。

伊藤(朗) 西日本新聞社データベース部部长
情報サービス事業の中の「相談」の具体的な内容を教えて頂きたい。

三 浦 統計は取っていないが、外国人の相談内容で一番多いのは観光地での安い宿泊所と、行政関係その他の施設に行く方法（バス停留所の場所、バス番号）である。日本人の場合は留学の方法についての相談が多い。

伊藤(寛) 日本人でイムズに行く人は、なんらかの形で留学のきっかけにしたいというのが多いのだろうが、国により事情は違うであろうし、例えばアメリカならば、アメリカンセンターに行けば2千校以上の大学についての詳しい資料があり、そこへ導くインフォメーションセンターとしての役割もレイボープラザは果たしておられる。

武 村 福岡商工会議所
外国人の専属スタッフはいらっしゃるのか。

三 浦 専属スタッフはいないが、英文「レインボー」や、「生活の手引き」の和英対

訳版を出すために日本人の英語では外国人の方が理解しにくいということで、福岡市の国際部にいらっしゃる国際交流員（女性1名、男性1名）に、週1回来ていただき手伝っていただいている。職員の中にも英語のできる人を3人採用している。

武 村 英語の堪能な方がいらっしゃればいいが、福岡在住の外国人が専任でいらっしゃればコミュニケーションもうまくいき、問い合わせにもスムーズに答えられるのではないか。

三 浦 イムズにレインボープラザが入って2年になるが、高い家賃の場所に管理部門があるのはもったいなく、外国人に開放すべきだということで来年4月に管理部門のみ福岡市役所の北別館に移動することになっている。イムズの方はオープンスペースでサロンのような雰囲気にしたいが、現在の営業時間・営業日の問題に伴い、人員の問題もでてくると思う。

営業時間	10:00～18:00	(イムズは10:00～20:00)
休 み	毎週火曜日	(イムズは第3火曜日)

来年度とはいかないが、外国人スタッフも入れる方向で考えて行かなければならず、それも英語だけでなく、中国語、韓国語も視野に入れておかなければならない。また、専任ではないが現在は英語のできる外国人3名と韓国人の福岡工業大学生が毎週日曜日に窓口ボランティアとして来ている。

伊藤(寛) 国際交流員が週2回レインボープラザにきていらっしゃるということだが、逆に週2回国際交流部に出向きあとはレインボープラザに常駐するというのが可能ではないのか。

三 浦 国際交流員（アメリカ、ニュージーランド）は、窓口には出ていない。参考までに窓口ボランティアはアメリカ、カメルーンなどの方がいる。

伊藤(寛) 国際交流員は通常どのような仕事をなさっているのか。

三 浦 福岡市各局の国際化に向けた事業展開の中で手紙の翻訳、コンベンションの会報の英訳など引く手あまたで忙しい。

伊藤(寛) 地元の人には外国人に接したいという願望が強いと思うが、そういう気持ちは外国人に対しての違和感を持つ度合いを薄めることができる。せっかく二人がお見えになっているのなら地元の高校生、大学生など留学希望者を含めて自分の習った英語を試せるような機会を増やしていただきたい。

三 浦 オープンスペースを作るというのは、そういった意味も含めていているが予算と

の絡みもあり、決定ではない。

武 村 国際交流員の方は自治省、文部省と外務省のゲストで来られており、英語指導助手で来られている人と2タイプある。基本的には自治体に入ることになっていて財団に直属というのは、制限があって難しいのではないだろうか。

伊藤(朗) 「生活の手引き」の中で外国人に一番喜ばれる項目はなにか。

三 浦 30項目くらいあるが、福岡市で生活するのに基礎的な項目、で、具体的に何が喜ばれているかはわからない。

伊藤(朗) 相談があった時に渡すのか。

三 浦 初は留学生のためにつくったものだ。現在は留学生には無料で、日本人には有料で渡している。改定版は2月に出る。

伊藤(朗) 改定版については項目の入れ換えはやるのか。

三 浦 内容はわからないが4～5項目の改定があるようで、今国際交流員が入れ換え作業中である。

伊藤(朗) 外国人利用者89人の内訳は、観光客なのかあるいは1～2年滞在する外国人なのか。

三 浦 内訳はわからないが以前スイス人で毎日来ている人もいた。
初めころは外国人のいる風景を写したいというテレビ局の希望があった時は手配して外国人を集めていたが、現在はそういうことが必要がなく、いつ来てもだれかがいるので英語で話をしたい日本人がかなり来ている。

伊藤(寛) 英語のネイティブスピーカーに会えるということだろうが、将来的には福岡の国際化の対象がアジア諸国ということで、そういう国々の人も出入りしてくれるようになると本当の意味での国際化に役立つことになるだろう。

波多江 貸付制度で、返済されなかったというような事故は起こらないか。

三 浦 平成元年度は5件の貸付で、その内4件は返済済みで、1件は返済中である。貸し倒れというのは現在のところはない。あったとしても連帯保証人を立てており返済義務がある。ただ外国人が連帯保証人を見つけることは難しく、貸し付け件数がかなり少なくなっているのだからこれについてはなにか対策を考えるべきでは

ないかと内部で検討中である。

伊藤(寛) 奨学金の人選の場合に、あの人が受かったのに自分は落ちたのはなぜかというようなクレームはないか。

三 浦 先週の土曜日に留学生との懇談会を開き2つの問題について聞いたが、一つは奨学金の給付、もうひとつは資金貸付だった。その時に選考基準について聞かれた。日本人の場合と違い所得証明、成績証明を要求することは難しく、できるだけ公平に近づけたいが、誰が見ても完全というようにはならない。

伊藤(朗) 留学生への援助で「住宅、中古家具情報提供」とあるが、情報のメンテナンスはどうされているか。

三 浦 「市政だより」に応募をかけ情報を集め、留学生に流している。

伊藤(朗) 留学生が実際それを希望した時にはすでに無いということはなかったか。

三 浦 留学生が自分で取りに行かなければならず、その時に思っていたよりも古くて使い物にならなかったということは聞いたことがある。重複の斡旋にはならないように気をつけている。

また、住宅情報については現時点ではあまりやっていない。

去年までは、寮や宿舎を開放して欲しいと経済同友会や商工会議所を通じて企業に呼びかけを行っていたが、かなりの企業から提供を受けた。(KBCから長浜の宿舎を10戸、ある建設会社からは20~30戸など)

伊藤(寛) 次に森山先生に留学生の悩みについてお話していただく。

森 山 新聞社から短期滞在者の代表としての留学生に関する悩みや問題点を話してほしいということであったが、私は「短期」というのにひっかかる。皆さんは3~5年以上を長期とお考えのようだが、ツーリストで来る出入国管理および難民認定上の短期という概念しか使えないのではないか。留学生というのは、れっきとした長期滞在者であると考えたい。また「留学生」というのが法律上の解釈で定義が決まっているが、これは逆により広義の意味でとらえるべきではないか。問題の局面によって違うが今ここで問題にしようとしている生活情報を中心に考えればそうであろう。法律上の身分がどうであれ、留学生というのは自国で得られる以上の期待をもって高度な水準の教育技術を身につけるために外国へ出かけるわけで、受け入れ側の都合で、ある人は留学生、ある人は就学生や訪問学者、訪問教授と言うような格付けをすることは留学生本人にとってはどうでもいいことではないか。生活という面から考えれば一般の市民を同じような生活をする中で

同じように外国人であるが故の困っている問題がある。それをいかに小さくするかというのが情報提供する側の課題ではないか。実際は国民健康保険もかかるし、少数であるが市民税も払う、町内会費も取られる人達もいるのだからもう少し緩やかに考えられないか。

まず、日本に来る前の状態だが、日本側から言えば留学生を受け入れる準備が整っていることをどう伝えるか、逆に留学したいと思っている人達の情報をいかに的確につかむかということが重要な問題になる。留学大国といわれる欧米の大学ではかなりはっきりしており、外国に出かけて行き実際に現地で面接を行い入学決定までするというところまで踏み込んでやっている。日本の場合はまだほとんどない。前回紹介した日本留学生フェアで大学関係者が外国で自分の大学の売り込みをしたのは昨年度が初めてであった。インドネシア、マレーシア、タイの3カ国で14大学に行ったが各地で2日間ずつの日程であった。半日は日本の留学の一般的な話、あと1日半は個別の相談といった形で対応したが3カ所いずれも、会場に来た人が1000人位いたということだ。日本に来る留学生の90%がアジア諸国からということを考えればここを中心に考えなければならないだろう。去年の3カ国に中国、韓国、台湾を加えて回ると言う話があったが、政治的な配慮が働き、国と地域を同一扱いすることはできないということで平成3年以降に中国が加わると聞いている。この留学生フェアを除けば、大学の出しているカタログが各大学の図書館または日本大使館や領事館にあるくらいで具体的な募集要項、入試要項などは外国には出していない。

大学院レベルで考えると書類審査で入学を決めるシステムではなく、指導教官の印鑑が書類の最初の通過点になっているのでこれがもらえればどういう身分であれ入学できる。これをもっと明朗な形でやるべきではないかと全国の大学で少しずつ改善されつつあるように聞いている。

留学生というのは学生定員の枠外にあり、取っても取らなくてもいいという状態で、日本人の教育さえ満足にできていないのに外国人の教育ができるのかという問題もある。

現在、日本人学生で大学院に残る人がおらず、留学生は研究の担い手として貴重になってきている分野もある。

日本語を勉強している就学生が滞在期間を延長するために専門学校に入学して資格を変更することが非常に多くなっているが、その場合でも教育上の配慮を含めて際限なく増やすというのもおかしいもので、文部省では定員の半分以上という指導をしている。

また今年度の浪人生が非常に多くマスコミでも文部省の姿勢が批判されているので、従前の定員の20%増くらいの入学者が適正規模としていたのを、来年度は枠を広げ私立大学でいえばその2倍取ってもよいといっているが、私自身はまずい政策であると思う。「ただし、留学生を多く取れ」と言う一項目を入れ、21世紀に10万人の留学生を受け入れるという政策の一貫としてやれば計画は瞬く間に達成できたであろう。

1992年に18才人口が最高になりその後だんだん減っていく。(最高時250万人が150万人くらいになる)それにより、進学率など変わっていくが、おそらく大学、専門学校、専修学校の生き残り競争が激しくなるだろう。

しかしこれは日本に限ったことではなく、現在100万人くらい留学生として全世界を動いているといわれているがその内約35万人がアメリカにいるといわれている。1960年代のアメリカの留学生受け入れ数は正確ではないが10万人代であろう。1970年代にかけて増え現在も海外で募集する形できている。この間つぶれた大学がかなりあると聞いており、逆に新設校もある。

各大学がどれだけ留学生を受け入れるか、また留学生に何を期待し、どういう対応をするかという情報がなかなか伝わらない。正直な話をすれば、明確な指針が大学自身にないというところに一番の問題点があるのではないか。具体的な受験手続き、直接入学を認めるのか、書類審査だけなのかまた特別入学試験があるのか、いつ申し込むのか、必要書類は何か、いつ入れるのかなどが、伝わっていない。9月新学期と思いついでいる人もいるし1年2学期どちらから入学しても卒業できると思っている留学生もたくさんいる。大学設置基準では4月と10月に新しい学期を開きそこから所定の期間、所定の過程を経れば卒業できるとなっているが、一部の大学を除いては4月入学が原則となっている。ただ、全国の国立大学の13のコースで10月入学、9月卒業で教育手段としては英語という方向を打ち出している。

保証人を取り、書類が揃って指導教官がはんを押せば教授会を経て本人に入学許可書が送られる。

入学許可書を受け取った留学希望者はそれぞれの国でビザを申請するが、日本にいる人に代理申請してもらうほうが簡単だという助言を受けているようだ。私も代理申請をしたことがあるが、提出書類が多い。その書類の中に本人が留学期間に耐えるだけの経済力を証明をする書類が必要であるが、ほとんどないので保証人が学費及び生活費は毎月、月額〇万円を現金で支給するというものを書かざるを得ない。指導教官としては荷が重く裏保証が欲しいというのが本音である。

ビザを取り日本に来るわけであるが、出迎えがあるかないかはっきりしていない場合がある。志を持った大人だからそんなものはなくてよいという人もいるが、第一印象が後まで響くことを考えればボランティアなどで行けたらいいと考えている。ボランティアも情熱はあるが事情を知らず、それを伝える語学力がない。また交通費くらいは出して欲しいなどで善意が小さなことから無駄になる例も沢山ある。

その夜の宿泊先も問題になる場合が多い。国費留学生は旅行会社がホテルに泊めて、福岡まで送ってくれたり、九大から迎えに行ったりするが、機内で少し食べた後、福岡まで何も食べていない人がいる。ホテルでも新幹線でも高くても買わず福岡まで来たらなんとかなるだろうとがまんしていたのである。極端な例だが、この時点でお金を持っていない人もいる。寝具も来たらあるだろうと思っている人や、来てから買おうと思っていたが高くて買えないので貰えないかという人が

いる。受け入れ側が寝る場所だけは準備している場合があるが、決定権はない。しかし、家主や大家さんには決めた日からの日割りの敷金、家賃また不動産屋には手数料を払わなければならないので、見てから嫌だと言われると困る。納得させようとするが語学が大変で留学生に通訳をたのむが、彼らも理不尽だと思っているので通じるはずがない。不動産屋泣かせの状態になっているが、内外情報センターが情報提供に対し謝礼を払うということがあるそうなので少しは変わるかもしれない。

問題なのは提供する情報と同時に留学生ががまんできる程度である。特に大学院レベルになると自国では大学の助手や講師であったりするのでプライドもあるから変な所は紹介できない。3～4人でルームステアリングをしてでも節約して国にお金を送りたいという希望もある。

一週間くらい泊まれるゲストハウスがあればありがたいと思う。九大では新入生優先で留学生会館に入れるが設備が良すぎて、次に移る所と比べてしまって罪づくりである。大学の都合とか、国の都合とかで最高の水準を与えるべきかどうか考える必要がある。

企業提供の寮、宿舎も二の足を踏むような事がかなりある。宿舎が遠かったり、きたないなどもあるが、会社の若い人が利用しないのでマスコミにでも取り上げられればいいという考えの所や英会話の教室を週2時間行うという条件を出す所もある。しかもネイティブスピーカーがいいと暗に米人か英人を希望する。西南大学と福岡大学にイギリスの交換留学生が来ているが、九大に英、米両国とオーストラリア、ニュージーランドを含めても2ヶタになることはない。

生活用品の提供があってもストックする場所がなく困っている。

次に住宅の事情であるが、内外学生センターに斡旋していただくが、安いというだけなら大学のまわりに沢山あるが共同トイレであったり台所がなかったりというもので留学生にとって満足のいくものではない。大家も改修・改築をしないままに、敷金なしで不動産屋も通さずに貸そうとするが、「敷金なし」の意味を留学生と大家では違うように取っている。次の人が入れないくらいに汚している人もおり、ちゃんとした説明が必要である。その対応策として来年から補修積立金を考えている。住宅の条件については留学生実態調査などで調査中であるが、現在の住居が不満な最大の理由は、狭い、家賃、騒音などで、探すとき重視する項目は家賃、近い、設備、敷金、交通の便である。一番困ったことは敷金など経済条件だといっている。これは留学生が国費であるか、私費であるかで内容が変わってくるが来年の始めに分析を終る予定なので参考にさせていただきたい。

一番基本は、大学での教育がうまくいってれば相当な覚悟をしてきている留学生であるので、生活の問題についてはあまり不平、不満はないのではないかとと思う。しかし肝心の大学がいいかげんな対応をしているので、せめて地域で暖かく受け入れてもらいたいのに差別されたり、日本人社会に溶け込めない。逆に言えば、日本人が外国人留学生を受け入れてくれないという摩擦の原因になっているのではないか。

何を目的に留学してくるかは受け入れ側は必ずしも的確に掴んでいる訳ではなく、研究生で入り半年から一年の期間を置いて試験をしてコースに入れるかどうか決定する。アメリカだとかなりシビアに試験をやり、入ってからも1~2回のチャンスを与えるが後は他の専門への変更や、レベルを落として別の大学への変更などの助言をしている。日本の場合は受け入れた以上はなんとか出さなければならないということで総力戦となる。

これが留学生にとってプラスになっているかどうかは疑問である。理科系で90%は学位を取得し、文化系では特に文学部、教育学部、法学部は一桁台しか学位を出しておらず文部省からクレームが出ている。大学によっては25%くらいまで上がってきている。九大も経済学部は3人続けて出し、法学部も3人、教育学部1人、文学部でも学位を出すようになってきた。世界の情勢を認識した上で学位制度そのものを考えなおさなければならない。

古い時代に留学していた先輩の情報たよりに日本に行けばどうかなるだろうと思って来ている留学生も問題である。最終的には、かなりの人が奨学金をもらっている。うまくいけば私費留学生でも文部省の奨学生になれる。(179,500円)

ロータリークラブが15万円程、国際交流財団が10万円、私費留学生のための学習奨励金(国際教育協会)が65,000円などがある。こういったものは奨学金なのか援助金なのか、留学生からは生活まで面倒を見るべきだという声があった。しかしそれは奨学金を出す団体の考え方であろう。一番悪いのは文部省が国内採用(特に優秀な人に限る)で17万~189,500円を出すことである。自国で決定された人は勿論奨学金を受ける権利があるが、それを拒否しあるいは選考に落ちた人が次の機会を待つよりも先に日本に来たほうがいいということになる。他に競争相手がいなければ初めてでも受けるチャンスがあり、次の年にくら困った人がいても順番は来ない。いろいろな奨学金の決定の過程では選考するほうも大変であるが、結果の受取方はかなりの問題を含んでいる。飲まず喰わずで頑張っている人が2万円喜び、その一方ではガソリン代や国際電話の料金になっている人など千差万別なのである。

外国人登録者数で去年の12月が3万6千人くらいになっているので現時点では4万人になっていると思われる。奨学金の額も少しずつ増えているが、件数としては増えていないので留学生は楽ではないと思う。

アルバイトが頼りの人が結構いるが、アンケートなどでは出てこない。法律改正を留学生自身が知っているのかどうか、法務省ももっと悪質な不法滞在者、不法労働者などへの対応に忙しく留学生やその家族に対しては面倒はないと思っているらしい。

将来、私費留学生が増え、学部学生を増やすということであれば思い切った考え方で対応すべきである。昭和57年の通達がそれまでの分を追認する形で「週20時間以内であれば届け出す必要がない」というものだったが、一步後退してしまい大変残念である。生活費は稼げても入学金や授業料をカバーするのは

難しいので休みの時に集中的に仕事をする人もいるがホストファミリーや地域交流の中で5～10万円出してくれるような人を沢山探さないかぎり問題は。そういうきっかけにもなるので地域との交流をもっとやってもらいたいが大学院レベルの人になると忙しくて出て行けない。行ったがおもしろくなかったと言う人もいる。面白くないのはどちらに原因があるのかわからないが、長続きするプログラムでなければいけないし、留学生自身も努力しなければならない。その場限りの交流事業が多すぎて、まじめにやろうとする企画が流れてしまう。ホームステイとホームビジットの定義も考え直して欲しい。長期がホームステイで、2～3日泊まるのはお客にすぎない。

福岡だけ見ても来年の春には日本語学校の就学生の数が留学生の数を上回ると思われるがこの人達に対するサービスは無いに等しい。日本語学校も授業料を取るのには熱心だが入った学生のケアには力を入れておらず市に頼るしかないが、全部をレインボープラザに持込まれると大変なことになるだろう。

また、留学生の年齢層が高いので、子供の教育の問題もある。

去年いろいろな問題を含みながらインターナショナルスクールができたがその後どのように動いているのか、地域の人々にどう役立っているのかわからない。私は留学生に限って言えば通学区域内の小学校に入るということは受け入れた側の学校、生徒、父兄にとっては大きなプラスだと思う。小学校だけでなく保育園にしても厳密に言えば資格外の入所であろうが目をつぶってでも積極的に入れるべきではないかと思う。逆に言えば留学生はそれを十分理解した上で彼らが地域に対して出来るサービスを考えて欲しい。

九大にはバラエティに富んだ国々の留学生がいるということでもいろいろな企画や情報が入ってくるがそこには「白人」とか「九大」といった部分が見えていて不快な思いもする。

研究教育の前に生活があるので言葉を勉強したい人には安い料金で学べるシステムを作らなければならない。

医療費補助制度や国民健康保険などは制度であり、我々がどうすることもできないが払っておかないと交通事故などで加害者になった時に大変なことになる。

三浦さん話で「生活の手引き」を国際交流員の方が見直していただいているということでありがたいが、もっと留学生をうまく使う方法はないか。ボランティアの韓国人以外にも積極的に手伝ってもらい、何かの時に高く評価していることを表してもらえれば留学生の意識はもっと変わってくる。

今度、内外学生センターと福岡市で福岡学生会館というのを作られるが、そこには交流のためのフロアが設けられている。どういう形で運営されるのかわからないが、入居する人の選び方、特に日本人が問題だ。そこでの企画などが一つのモデルになるのではないか。

公民館、小、中学校も留学生をもっと利用することはできないか。こういう提案は市の国際課なのか、レインボープラザなのか、または市長、助役にまでいかないと問題にならないのか、市民的なレベルでやれることがないのかを整理して

福岡らしいものを生み出す努力が必要ではないか。

伊藤(寛) 福岡の国際化というのが一番の窓口は留学生だ。教育・研究の分野では問題なく目的をある程度達成して帰っていくが、ささいな日常生活のことで反感を持って帰る留学生が多いと聞く。そうなると国際化どころではなく逆効果であるから、生活面でもある程度満足感を持って帰って欲しい。住宅問題でも東南アジア諸国からの留学生は歓迎されていないことを身を持って感じており、日本人に対する心象を悪くしている原因ではないか。

留学生はもっと日本文化、社会、日本人のことを知りたいが窓口がわからないのではないか。

草の根で交流をしているあるグループが留学生会館の近くで盆踊り大会をする時に、留学生を招待しようと会館の事務室へ行ったが良い返事をもらえなかったということだ。留学生と交流を持ちたいという地域の住民もいるのでそういう人達との接点を付けるのも大事である。

武 村 福岡市には市民相談室というような個人的な悩みを相談する場所があるが、留学生のそのような悩みを相談できる民間レベルのカウンセラーがいてくれたらと思う。

伊藤(寛) レインボープラザで答えられないものはここへ行きなさいというようなアドバイスはあるか。

三 浦 現在はボランティアでやっているが、それでは不足だということで予算が付けば来年度の事業としてカウンセリングを始めたい。

もう一つ、法律的な問題も発生するということで外国人に対する法律相談も福岡県の弁護士会と共同で実施しようと予算要求中である。

森 山 白土悟氏が書かれた「異国とは、学とは、交流とは……」は参考になる。

伊藤(寛) 留学生を甘やかすことはないと厳しい意見の人もあるが、それで日本の印象がよくなるのであれば、少し甘やかすくらいいいと思う。またそれが過ちであるというのなら過ちをおかしていいのではないか。

9.4 第4回

アジア太平洋交流データベース研究会

議事録

○ 日時 平成2年12月6日 16:00～18:00

○ 場所 西日本新聞社14階2号会議室

○ 討議内容

1. 情報提供内容

①重要と思われる情報項目はどんなものがあるか

生活関連 住宅・労働・健康・教育・食……

習慣など

法的手続きなど その他

②所在源情報で代用するもの

・外国人旅行者には、観光情報、交通情報などはどうか

③情報提供対象者をどう考えるべきか

外国人滞在者（留学生、外国人労働者……）

外国人旅行者

・対象者によって情報提供内容が変わるだろう

・福岡・九州での滞在者と旅行者の年間人数は何人か

2. 情報提供サービスの形態

①コンピュータの端末機をこんな所に設置したらよいか

②提供情報は日本語と英語を予定しているがどう考えるべきか

③コンピュータを使わない情報提供方法はどんなものがあるか

3. 情報の収集とメンテナンス

①情報収集をどんなにして、どうメンテナンスしていくか

②内容がすぐ変わる情報は取り上げるのが難しいがどうしたらよいか

料金、時間など

4. 採算性

情報提供サービスシステムは原則として有料性を考えたい。

外国人当事者から徴収するのは難しい。

採算に載せるにはどう考えればよいか

5. 予想される効果

具体的にどんな効果が考えられるか。

6. コンピュータ技術

①メンテナンス性に秀れたD/B構造を考える。

②検索技術

短時間で所定項目が検索できるシステム

自動翻訳システムを組み込む

③ネットワーク

既存のネットワーク（パソコン・ビデオテックスなど）網を利用して効率性を上げる。

④図形情報

地図情報などを組み込む

7. その他

○ 出席者

伊藤 寛道	九州造形短期大学 教授
藤本 敏樹	九州通商産業局商工部中小企業第一課長
松尾 泰次	福岡入国管理局総務課渉外調整官
中原幸一郎	(財)福岡県国際交流センター交流課長
三浦 政輝	(財)福岡国際交流協会総務課長
満留 省吾	日本交通公社海外旅行九州支店長
武村 丞治	福岡商工会議所国際部長
和田 弘隆	国際協力事業団九州支部参事
森山日出夫	九州大学 講師 留学生教育担当
白土 悟	" 留学生会館 主事

伊藤(寛) 九州造形短期大学

4回の研究会を続けてきたが、小まよめの段階へきた。
今日は西日本新聞社の提案に沿って討議を進めていきたい。

1. 情報提供内容について

松 尾 福岡入国管理局

重要と思われる情報項目は、西日本新聞で用意されたリストでほとんど満たされているので、これに第2回研究会の討議内容から取捨すればよいが、優先順位を付ける必要がある。私の考えでは、浅く広いものから、深く狭いものの順にするべきだと思う。

並び変えると、まず第一に九州各県の紹介、2番目に短期滞行者も中期滞行者もカバーできる観光情報、3番目に官公庁等案内、4番目は医療情報で、ここまでは短期・中期を問わず外国人なら誰でも欲しがらる情報だろう。以下は中期滞行者が対象になってくるが、5番目に住居情報、6番目に日常生活関連情報、7番目に教育情報、8番目に法的手続きという優先順位でどうか。

6番目の日常生活情報が一番沢山の情報を入力する必要があるだろうが、その中にマスメディア、日本の祝祭日、日本の慣習、1カ月の滞在費を取り上げてはどうか。

所在源情報による代用だが、いずれにしてもデータベースだけで完璧な情報提供はできないので、問い合わせ先など所在源情報を入れなければならない。しかし外国人にとって、このデータベースだけ当たれば各方面のある程度のことかわかるというようにするべきなので、範囲についてはいろいろあろうが、観光情報もある程度必要だ。

情報提供対象者の問題であるが、一過性の観光客、留学生、研修生、就職で在留の人など短・中・長期滞行者いずれもカバーすべきだ。というのは、中・長期滞行者も日本に来た当初は観光客と同じ程度の情報しか持っていない訳だから、知りたい情報は観光客も留学生も同じではないか。

九州にいる長期滞行者の数……昨年1年間に九州各県の港、空港から入国した観光客は14万人で、全国では220万人入国している。全国の入国者の中に九州へ入って来る人もいるが、その数はつかめない。また、九州各県の中・長期滞行者(63年末外国人登録者数)は約7,800人である。この数には日本人と結婚している人、また永住の許可を受けている人、在日韓国・朝鮮人などの戦前から在留の方などは入っていない。

中 原 (財)福岡県国際交流センター

新聞社のリストの中から優先的に提供していったらよいと思われる情報項目をピックアップしていく。

まず、住宅決定の情報、法的案内(手続き、福祉システム)、医療情報、賃貸

住宅情報、長期滞在者に対して教育システムである。また、観光情報は所在源情報でもよいからあったほうが利用が増える。

所在源情報で代用するのは今の観光情報である。

情報提供対象者は、長期も短期もすべて対応すべきである。

三 浦 (財)福岡国際交流協会

松尾氏と同じ意見であるが、付け加えて第3回研究会で報告したように観光情報の需要は多いので、長期滞在者と一過性の外国人では内容に違いがあるとは思いますが、必要であろう。

情報提供対象者の参考として、福岡市に住民登録されている外国人は9,900人、在日韓国・朝鮮人を除くと3千弱の人が滞在している。

満 留 日本交通公社海外旅行九州支店

交通公社には、「どこに行っても聞けばいいか分からない」と言って来る人が多いが、県庁所在地であると、英文のガイドブックがあるが、横断的なものがないので九州の全体像を見渡すことができない。

九州の気候や交通網も長期滞在者によく聞かれる。しかし、市内の地図はあっても横断的なものがないために、次の都市へ行く時、各地域の全部を集めなければならない。外国人向けに脈絡のつながるような観光情報があるといい。

武 村 福岡商工会議所

短期旅行者に必要なものは、土産品店や免税品店の所在がわかるショッピングガイド、観光ガイド、宿泊施設、エスニックレストラン(旅行者の国々の)などである。仕事で来られている人のために、現地採用の通訳リスト。その他に宗教関係で、教会のある場所。長期滞在者のために、講演会・セミナーを含む地元で行われるイベント情報など。

一般的に考え、情報は天神、博多駅の2カ所に置いておく。

言葉は英語、中国語、韓国語の3カ国語が最低必要だろうが、場合によっては留学生の活用も考える。

和 田 国際協力事業団九州支部

新聞社のリストを基本として、情報は多い方がいいと思うが、対象者を考えるのが先である。

外国人自身が、どういう立場なのか(旅行者であるのか、滞在者なのかなど)を始めに聞いて進める形がうまくいくのではないかと。

より正確な情報のある所に案内が行く方がよいので、既存の情報があるものであれば、所在源情報で代用してよい。特に、短期的に情報内容が変わるものなどは、その方が利用者にとって親切である。

情報提供対象者は、1. 単独で住居を取得している人、2. マンション・寮など、

人の建物に滞在している人、3・ホテルなどに滞在の動きの多い人の3つ位から選択して、どこに行ったらよいかを案内したらどうか。

JICAの研修員の数は、平成元年度は九州で426名、その内306人が福岡県で研修を受け、58名は福岡市で受けている。他に九州に10日間くらい滞在する青年招聘として、主に東南アジアの方が171名来ており、九州全体合わせると、597名が研修を受けている。

森 山 九州大学 留学生担当

いろいろな問い合わせを受けた時に役に立つように、情報提供対象者の中に日本人が必要である。

機械相手よりも、人間が口答で説明したり、適当な言語で引き出してやるようなシステムになればいい。

指名された所が、最後まで面倒を見てくれることを確信した上での確実な所在源情報が必要。たらいまわしになったら、なんのためのデータベースかわからないことになる。

観光情報でボランティアで案内のできる「人」の提供ができたらいいと思う。

伊 藤 人間的な情報提供が必要であろう。

白 土 参考として今年、留学生が求めてきた情報を言うておく。

自分の国と日本の習慣の違いが分からないということだ。たとえば住居の決定にしても、連帯保証人・敷金・礼金・家賃の支払い方法（まとめ払いの国がある）・大家のサービス範囲などがわからない。

また、生活方法の問題として、熱帯地方の人が冬にストーブをつけっぱなしで換気をよくせずに畳がカビだらけになってしまったり、ダニが発生し、ぜんそくになったり、畳の掃除方法を知らなかった。

町内会費のシステムなども自分の国と違うのでわからないという。

2. 情報提供サービスの形態

松 尾 端末機の設置場所は、利用者の多い所ということで現在キャプテンの置いてある所と同じだろう。市町村の窓口、駅、空港、デパート、地下街、大学、国際会議場、ホテル、レインボープラザなどであろう。

情報提供言語の問題は、今までの研究で技術的に日本語と英語以外は無理だということなのでやむおえない。ただし、日本語と英語のみにする場合、レインボープラザ1カ所だけでも、中国語、韓国語のわかるスタッフを置いた中心地を設け、中国語しかわからない外国人にも通訳付きでデータベースを利用できるようにすべきではないか。

また、画面表示だけでも、早い機会に中国語、韓国語でできるようにしたい。

コンピュータ以外の情報提供方法としては、本、活字、ビデオがあるだろう。法手続きなどは、分かりにくいものなので、活字を併用したらよい。ビデオとしては、九州各県紹介、観光案内などをしたらよい。

中原 キャプテンのように誰でも使えるようなものなのか、あるいはコンピュータの端末の操作が必要なのか、データベースの形態で、設置場所は違ってくると思う。誰でも使えるようなものならば、駅、空港案内所、入国管理局、官公庁などの外国人のよく行く所、それから国際交流協会などであろう。操作のむずかしいものだと、設置場所は限られてくる。

言語は中・韓国語の対応はできないということだが、将来は福岡県・九州ということを見ると必要な言語である。

コンピュータ以外の情報提供方法は印刷物で、簡単なパンフレットなどだろう。

三浦 設置場所は多ければ多いほどいいだろうが、有料か無料かが関係してくるだろう。外国人が必ず利用する銀行、郵便局は設置したい。

使用言語に中国語、韓国語はぜひ必要である。

コンピュータ以外の情報提供方法はパンフレットだろう。

満留 端末機操作は簡単なものでないと、問題が発生するであろう。限られた場所にしか設置できないのではないか。日本に着いたばかりの外国人が、理解不可能な端末の設置は意味はない。

場所としては空港のツーリストインフォメーション、港、駅の最低3カ所は必要だ。

JTBのコンピュータには、全国の交通事情、旅館の構造まで入っているのでジョイントすれば情報検索できる。リアルタイムで入力されているのでメンテナンスの面でも効率的である。

武村 あちらこちらに沢山置くよりも、福岡県の国際交流会館が作られるのでそこに1カ所置くといいのではないか。また、機械だけでなく、人間も対応できる両面のケアが必要である。

和田 最悪の場合ここに聞けば絶対に間違いがないという所が1カ所あれば、それ以外は人が集まる所に設置すればよい。

中心になる所があれば、提供言語は日本語と英語でやむおえないと思う。

コンピュータ以外にテレホンサービスは使えないだろうか。

森山 コンピュータは、複雑なもの、簡単なものと両方やるべきだ。簡単なものは、最初の画面で日・英・中・韓の4カ国語から言葉を選ぶ事から始まる。人間が操作対応しなければならぬものだと、専門スタッフがいないと宝の持ち腐れとなっ

てしまう。

大学にも設置していただきたい。

一般の人が個人的にアクセスする場合にも有・無料は問題である。

留学生が画面を見るのは疲れるので、音声の方がいいと言っていた。

白 土 提供言語で、留学生の場合は割と日本語がわかるので心配はないが、日本語のできない外国人のために、ローマ字表記があると親切ではないか。

また画面をコピーできると便利である。

藤 本 設置場所は人の集まる博多駅、空港、天神と外国人の必ず行く所。

端末機を設置する所のPRが必要である。

提供言語は、技術面、経費面を考慮して、基本は日本語だ。自動翻訳システムを開発中で、このデータベース作成のころには英語→日本語は完成しているはずで（3年後完成予定）、その1年後には日本語→英語が完成しており利用できるだろう。そうなる则既存の日本語の情報を活用すべきではないだろうか。しかし第一画面のみは、日本語英語両方の表記をする。

3. 情報の収集とメンテナンス

松 尾 収集については、情報により個別に集めるのではなく、上部団体を通じて集める。

メンテナンスについては、入手先に対し定期的に変更確認をする専門スタッフが必要となるだろう。

内容のすぐ変わる情報には、時刻表、料金表などがあるが、1カ月などの期限をあらかじめ設定する。

中 原 リアルタイムの最新情報がデータベースの価値を高めるので各フロントからこまめに収集確認をする以外ない。また、既存の情報を利用し情報を集めることも大切である。

三 浦 関係各所に協力要請する。役所にも情報があるが、プライバシーにかかわるものになると問題があるので、協力可能であるかどうか前もって確認する必要がある。定期的な確認も必要であるので、収集とメンテナンスの協力体制を整えておく。内容の変わる情報は、イベント関係だろうが、一番欲しがらる情報でもあるので、内容ごとに週や月の単位を設けて区分しておく。

満 留 専門のスタッフは是非必要だろう。協力体制を確立しなければならないが、各企業も経費をかけて集めた情報なので簡単に提供してくれるかどうか疑問である。それによってリアルタイムなものになるかどうか変わってくる。

武 村 どこにどういう情報があるか整理が必要である。

和 田 外国人に、親切に情報提供という発想から始まったことなので、その外国人からお金をとるのは無理であろう。県や市、財団の協力が必要である。

森 山 完成後のメンテナンスは、内容を新しくするだけでなく、発想を変えて良いものにしていくことが重要であるので、使い勝手などを考えたモニタリングをしなければならない。

白 土 日本語学校の教育システムなどは、1年毎に変わったりするので、資料収集が必要だ。

 企業提供のイベントなどは取り上げるのはむずかしいだろう。コンピュータ1画面当りを各企業に作ってもらうのはどうか。

 また、情報を打ち込むのではなく、できあがったものをコピーできるということなので、技術関係もかかわってくるだろう。

藤 本 役所側から言うと、コンピュータ化されたデータは沢山ある。

 行政管理庁より、「税金を使って作成されたデータは、できるだけ民間に提供しよう」という話がある。製本されているものであれば全て磁気化されており、プライバシーにかかわるもの以外は実費程度で提供してもらえる。

 なるべく経費のかからないようにこのような官公庁のデータを利用してもらいたい。

 内容のすぐ変わる情報は分類して期限を決めておく。料金表などは、大きな影響はないだろうが、時刻表はすぐに変更してもらいたい。

4. 採算性

松 尾 簡単に操作できるキャプテン方式のものだとして日本人は有料で外国人は無料と区別するのは技術的に無理であろうから、すべての利用者から徴収する。

 引き出す情報内容により、有・無料を区別するのは可能なら、公的な内容だと無料にするとしたらどうか。

中 原 この内容でメンテナンスを考えると、採算性は絶望であると思う。端末機を設置する所にシステムを買ってもらう以外はないのではないか。有料か無料かは各々の設置機関にまかせる。福岡県にも同じような構想があるが、買ってくれといわれてもどうか……。

三 浦 このテーマで、民間企業が採算性に乘せようとするのが無理なのである。国、県、市など公共団体が入っていないと無理である。

外国人に対して有料の価値があるかということが問題で、有料であればほとんど利用されないであろうし、自己満足でおわってしまう。行政対応しかないのではないか。

満 留 有料性のイメージは全くわからない。外国人の場合、有料なら使わないのではないか。100円硬貨1枚であれば利用するかもしれないが、これだけのデータベースには100円では採算には合わないだろう。

満 留 有料性のイメージは全くわからない。外国人の場合、有料ならるので公的機関より資金を受け、第3セクターなどで管理運営していくしかない。

和 田 県や市の方と同じ意見だ。

森 山 キャプテンシステムの採算はどうなっているのか知らないが、おそらく企業ベースには乗らず、寄付か会費で成り立っていると思う。

たとえば、画面印刷の紙代10円くらいは有料にできても、それ以上のお金を取るのは無理である。NTTが「104」で30円を取る時代なので、本当は情報というものは高いのであろう。

白 土 お金を払ってまで聞きたい人は、あまりいないのではないか。生活の問題でも、情報を持っている人はどこかにいるので、機械のある所まで行ってお金を払って利用しない。

藤 本 基本的には情報の価値に対しては、お金を支払うべきだと思うが、現実問題としてアジア太平洋交流データベースの性格から言って、有料では利用者はないのではないか。将来は有料にできる日が来るかもしれないが、スタート時点では絶対に無理だ。

システムを売り込むのではなく、お金を出してもらう。

経費を安くする為に、既存の安いデータを入手する。また、基金制度を設け企業に協力してもらうことも必要ではないか。

伊藤(寛) 自分の払うお金に見合うだけの価値ある情報が手に入るかどうか。金余り日本へは、「無料」の期待あるだろう。

満 留 最終的には、どこかへ行けばたどりつける情報であるので、有料性はむしろかしい。

藤 本 海外から来られるツーリストの料金にあらかじめ何回分かのデータベース使用料を加算しておき、何回まで使えるというシステムにはできないか。

滴 留 現地のツーリストの人に熟知させるのは無理である。

中 原 使わない人は値引きしてくれということになる。

5. 予想される効果

伊藤(寛) 我々が主観的に予想するのはむずかしいだろうが、こういうシステムを作ったらどういう効果が望めるかということについて話してもらいたい。

松 尾 各方面から注目されるであろう。外国の方はもちろん、日本人、国内の行政機関への福岡のイメージアップになる。

中 原 予想される効果として、イメージアップと効率化がある。今までたらいまわしになっていたものが少しでも避けられる。

しかし、人と人との情報で解決していた日常生活の細々したことも機械にたよるようになるという逆効果もあるのではないか。

三 浦 うまく機能し利用者が多くなれば、レインボープラザの窓口での相談が減るだろうが、機械相手と人間との対面では事情が違い実際には減らないだろう。

伊藤(寛) 日本のコンピュータ技術の進歩は、世界一であろうが、アジア諸国の人々がどの程度なじんでくれるかは問題である。

滴 留 イメージ上の効果しか思い浮かばない。九州のイメージアップになるだろう。

武 村 情報を多く持つことによって、その人の行動半径が広がり、多少なりとも経済的波及効果があるだろう。

こういうデータベースがあるということで市民、特に若い人の東南アジアへの意識改革ということも期待する。

和 田 公的機関が介入し無料となれば、地域の姿勢としてイメージアップになるだろう。

また、旅行者の場合は口込みがさかんなので、そこから印象がよくなるだろう。

森 山 これが動き出すと、外国人を相手に仕事をしているひとが知らない、わからないと言えなくなる。

個人的には、人間を通じて暖かみのある対応が必要だと思うが、人間嫌いの人もおり、そういう外国人にとっては、わずらわしさのない良いシステムということになるだろう。

伊藤(寛) 自分だけで苦勞しながらやっていきたいという人が、欧米には多く、また自分で調べるのが面倒な人もいる。人間対人間の繋がりを付けることも大切だ。

白 土 情報が欲しくなくても、知りたいという人もいるだろうし、そういう人に日本を紹介する機会となるだろう。手軽な日本人社会案内となる。教育問題、社会問題など簡単にまとめられたものを含めば理解、または啓発のきっかけになる。

藤 本 通産局では、昨年夏ホテル・ニューオータニで国際化セミナーを行い、今年は北九州の国際会議場でのアジア太平洋交流フォーラムをなど、国際化というものが表面に出たのは昨年からで、そういう意味では、アジア太平洋交流データベースを期待しているし、地域のイメージアップというのが一番の効果だろう。

外国人の行動半径が広がるのではないか。採算性に乗りにくいものを民間企業である西日本新聞社が取り組むということにも意義があるだろう。

自動翻訳できるので必ず日本語で入力して欲しい。フロント・エンド・プロセッサという形でシステムを一部データベースの中に取り込んで必要に応じていつでも英語に翻訳できるというようにしてもらいたい。

地図情報については、数種類お願いしたい。ゼンリンの方法(個別)と全体から見て、知りたい場所を選ぶ方法など。

伊藤(寛) 技術的に自動翻訳が可能だろうと言うことだが、どこまで精密に翻訳できるか。人間の心や考えを伝えるなど、内容によっては誤解されかねないものもあるので、可能なかぎりは取り入れるということにしておくが良い。

藤 本 データ収集の場合、気を付けていただきたいのは、印刷物で入手できたものを全てコンピュータに入力できる思うのは危険である。いったんコンピュータに入力するとプライバシーの侵害となるものがある。

企業各社の料金表の場合もコンピュータに入力し、第3者に提供すると、著作権の侵害になるので注意が必要である。

伊藤(朗) 新聞に載った記事でさえ、著作権法で記事データベースに入れられないものがある。(世論、特集もの、判決文の要約など)民間企業、団体その他から入手したデータは簡単に入力できないので問題だ。

野 村 第1回から4回までの研究会にご出席頂きありがとうございました。

昨年のアジア太平洋博覧会をやる中で出てきた苦勞を東京データベース振興センターへの研究テーマとして、かなり掘り下げた率直なご意見をいただいた。

参考として福岡ニューメディアについてお話する。提供者側の費用負担で始まったが、ユーザー側から見ると使い勝手の悪いものと低迷を続けていた。しかし福岡市のスポーツ施設の利用についてのシステム(申し込み、抽選、決済)を始めた

ところ好評で、うまく動いている。会員が会費を支払う受益者負担で、すでに1年近く行っている。また、この福岡のシステムを北九州市へという売買契約も成立した。

発想の転換を計ることの大事さを知るのである。

アジア太平洋交流データベースについては、採算性を考えて何でも入れるのではなく、情報の質を考慮したい。お金を払ってでも欲しい、出向いてでも欲しい情報とは何かという情報価値の面から考えたい。

この会は、今回で最後であるが、事務局では個別に調査研究を進めていくので来年1月のある時期に報告を行いたい。

伊藤(寛) 皆さまのご意見と、また12月17日に話を聞く予定の福岡に住む外国人主婦の方のご意見を参考にまとめていくことになるが、お忙しいなか貴重なご意見をありがとうございました。

9.5 第 5 回

アジア太平洋交流データベース研究会

議 事 録

○ 日 時 平成3年1月30日 13:30～15:30

○ 場 所 西日本新聞社14階2号会議室

○ 討議内容

1. アジア太平洋交流データベースの内容は

①どんな内容のD/Bを作ったら良いか。

使われるD/Bをめざす。

②当面利用対象は外国人を目的とするが日本人にも使えるようにする。

2. アジア太平洋交流データベースの提供方法は

①コンピュータ・システムを考える。

現在の人手によるサービスは必要情報に到達するまで時間がかかる。

②どんな問い合わせ、必要と思われる情報にも即座に対応でき、簡単に検索できるシステムを考える。

3. データベース情報のメンテナンスが情報の価値を決める。

①メンテナンスができるだけ自動的に行われるシステムを作り上げる。

②情報発生源に近い所でメンテナンスできるものは極力させる仕組みに、とくに行政窓口などで。

③年1回か、半年に1回情報センターで大きなメンテナンスをする。

④情報メンテナンスすることでメリットをもたせる。

メディアには自動的に流れる仕組みなど。

4. 情報センターの位置付け

公共的色彩が強くそれ自体の収益性は弱い。しかし、国際化の波による必要性はとくに自治体で強く感じられる。

そこで九州地域の各県・各市に組織されている国際交流センターの中心的情報センターとしての役割を担ってはどうか。

そして運営費として各県・各市の国際交流センターに情報利用料として年間予算に組み込ませる。

○ 出席者

藤本 敏樹 九州通商産業局商工部中小企業第一課長
坂梨 政雄 九州山口経済連合会企画課長
中原幸一郎 (財)福岡県国際交流センター交流課長

野村 武 西日本新聞社情報開発センター次長
伊藤 朗人 " データベース部長
高浜 正興 " 調査部次長
波多江 修 " システム開発部次長
伊東 純一 " システム開発部
小西 晋 " "

- 波多江 西日本新聞社情報開発センター
まず、データベースの内容をどうまとめたらいいかということだが、当然使われるデータベースにしたい。又利用対象者に日本人を加えたいがどうか。
JTBなどのデータベースがあるが実際はやはりメンテナンスが古いようだ。
- 藤本 九州通商産業局
日本人が使えるかどうか、また九州以外の日本人が使えるか、どうアクセスするのかを考えて、そして翻訳して外国人向けにする。外国人も日本人と接触しながら情報を得て、PRしてくれるのではないか。
- 波多江 現在いろいろなデータベースがあるが、その中の地域の特産物などの項目は地域内の人には利用しておらず、区域外の人が利用している。九経連のデータベース構想も、やはり域外のネットワークを考えているのか。
- 坂梨 九州山口経済連合会
九州産業技術センターのデータベース構想はたくさんの既存のデータベースへの道案内をするセンターにしようとしている。既存のものはそれぞれが専門化していて、個々の売り込みだけになっているので、準公共的な立場でいろいろなデータベースを紹介し普及することが必要で、それが軌道に乗れば代行検索したり、直接アクセスしたりする。
アジア太平洋交流データベースの場合も、JTB、福岡市、福岡県などの既存のデータベースの窓口になるのがいいのではないか。メンテナンスの面など大変なので必要なものだけオリジナルにインプットする。
- 藤本 しかし既存のものは全て日本語なので、紹介しても日本語でしか情報を得ることはできないので、それを解決することが必要だ。
- 波多江 現在の完成度で7割が自動翻訳可能で、あとの3割が人間の介在が必要であるが、やはりコンピュータを使用したほうが早いだろう。
レインボーや各地区のセンターを見ると外国人のユーザーが多く、外国語の話せる人がボランティアが仲介役としており、日本人に渡すという時間のかかる作業である。
県の国際交流センターではやはり訪問が多いのか。
- 中原 (財)福岡県国際交流センター
ほとんどが英語の対応で、日本語を勉強している外国人がゴミ処理工場やビール工場を見学したいと言ってやって来たりする。
- 藤本 既存のデータベースを利用するのが一番良いのであるが、ネットワークで繋ぎ、

新聞社で翻訳し提供するのでしょうか。

しかしその場合、協力団体（データベース保有者）へ誰が利用料を支払うかが問題になるだろう。

波多江 公共的要素が強い為、ほとんどの国際交流事業を企画するのは行政単位である。つまり収益を求めるのは無理テーマなのだろう。

藤本 企業の社会的責任などを考えればしょうがないだろう。同じものが複数できて競合しより良いものが生き残るのであるが、このデータベースに関して言えば莫大な資金がかかるので同じようなものを作るのは無駄だ。

坂梨 福岡市の百道にアジア太平洋交流センターという研究者を集める構想があると聞く。又県庁跡地の国際交流センターなど行政機関はすでに走っているので、当然データベースの考えはあるだろう。その場合行政が直接構築やメンテナンスはせず民間に委ねるのではないかと思われるので、西日本新聞社のアジア太平洋交流データベースを使って貰うという考えはどうか。

藤本 行政が協力しやすく、お金を出しやすい体系にしておくことが大切だ。

波多江 九州8県、政令市2市など10団体、県庁所在都市7団体、また国際交流センター設置都市などに積極的に利用してもらい使用料を支払ってもらおう。それをプールして運営資金とする。

九州各県知事会にリーダーはいるのか。

坂梨 知事会の会長県が事務局を持っていて、それは在籍年数の長い知事の持ち回りであるので次回から大分へ移るのではないか。

知事会は年に2回6月と10月に行われるが、議題のほとんどは要望である。

連携必要なプロジェクトの推進も話題になる。例えば航空宇宙産業など鹿児島県が中心だが、九州全体でバックアップし北海道や東北に対抗するために組織作りをしている。このように県や市が介入する必要のあるプロジェクトについては知事会に提案し御墨付きをもらおうと担当部署は動きやすく、資金も出しやすい。各県の担当課長レベルの値廻しから始まる。九経連から提案するよりも、県を味方にして県の提案として出してもらおうほうが良い。民間が直接持っていても受付けてもらいにくい。

藤本 県の場合、横の意識がありなかなか難しい。

波多江 国際交流センターの運営費は県から出ているのか。

中原 1億何千万か、県から出ている。

坂梨 国際交流と共にデータベースに関しては各県とも力を入れているので、他県の計画に乗るといのは難しいのではないかと。自分の自治体でやりたいのになぜ福岡にお金を出さなければならないのかということになる。

中原 そこが一番の問題である。どこが一番利益を受けるのか。

伊藤 西日本新聞社データベース部

熊本県がOKを出しても熊本日日新聞がだめ、鹿児島県はOKでも南日本新聞がだめだということがある。地元紙が了解しなければ県としては動きようがなく、政治的にまとまる話ではない。

坂梨 福岡県指導であるが内容はオール九州ということ、各県の交流協会にもメリットが有り有料で接続できることをPRする。

波多江 福岡県、福岡市、北九州市は独自で動いているが、それだけの力があるということなのだろう。しかし県庁跡地にできるとしたら北九州市とのかねあいもあるのではないかと。

ハードから全く新しく作っていくとして初期投資を含めた運営費は5年の償却で1億8千万くらいである。

既存のデータを利用して年間1億2～3千万という数字になるので、相当の団体とやっていかなければきつい。

福岡県だと政令市を除いたところではいろいろな形でやっておられる。

中原 国際交流センターは福岡市にあるのでしかたがない。データベースの情報の中身が極め細かなものであればよいのではないかと。

波多江 県庁所在市、港湾、空港などおおがかりなシステムになるだろう。

図形管理もできるものなど、初期のコンピュータ経費を5億程考えている。データ収集費は10万件で1億円を考えている。しかし要員が一番経費のかかるものだろう。

坂梨 例えば福岡ニューメディアサービスのキャプテンとドッキングできないか。

伊東 西日本新聞社情報開発部

ニューメディアサービスのキャプテンはデータベースの構造ではなく画面のイメージでやっているのが難しい。メニューに応じて画面に出てand、or条件で絞り込まなければならない。

- 坂 梨 博物館にそのシステムがあり使ってみたが、ある程度パソコンができないと難しい。誰でも使えるキャプテンシステムくらいにならないと使いにくい。
- 伊 東 福岡ニューメディアのキャプテンだと市の施設利用などあるが。
- 藤 本 いわゆる中間ファイルという概念。
- 伊 東 あらかじめデータベースを引っ張ってくるルートを決めておかないとどうにもできない。
- 坂 梨 とばないのでいきつくまでに手間がかかるということ。
- 伊 東 イメージが基本である。
- 波多江 各行政で作られているので、どこか動きはじめるとコンパクトになってくる。
- 坂 梨 アジア太平洋交流データベースではソフトを提供するというので、パッケージで県や市に売り込んだらどうか。
- 伊 藤 10万件のデータ入力というのは並み大抵のことではない。
記事データベースでも70人が1日入力し続けて1年の現時点でまだ10万件にならない。
- 波多江 メンテナンスがポイントになる訳だが、できるだけ自動的に出来る仕組みを考えていかなければならない。所在源に近いところでメンテナンスする必要がある。
- 坂 梨 やはり情報を把握しているおおもとが収集、メンテナンスするようになければならない。ホテル、旅館等と協定を結び自動的に端末に入れてもらい修正されるようにする。
それぞれの提供もとが変更することによりなんらかのメリットがあるようにする。
山口の例でメンテナンス協力により予約が増えたという利用価値を実感し納得して運営されている。
始めは利用状況などは隠したがるものである。
- 波多江 近畿、名鉄のツーリストではデータベース化されており、飛び込みで旅館を捜した時、すべての旅館の空き情報が部屋ランク別で見られるようになっていた。
- 藤 本 データベースの基本では、そのためにメンテナンスすることは避ける。

例えば西日本新聞社の記事データベースを無料あるいは割引料金で検索できるなどの提供者へのメリットをアピールする。

国の機関でもはじめはデータベースのためにデータを作ることから始めたが、それではもったいないということでお互いの機関が情報を交換しはじめた。

情報の交換となると著作権の問題も出てくるだろうが、新聞社は詳しいだろう。

伊 藤 入力することそのものが著作権の侵害になる。アメリカではカードを使い買物をする事が多く、機械的に「誰が」「何を」「どこで」「いくらで」買ったかなどがインプットされているので情報として付加価値がついている。

買物に関してはプライベートはない状態であるという。

藤 本 今回のデータベースには統計的なものは少ないようだが、できるだけ協力したい。

波多江 お話を伺ってきてアジア太平洋交流データベースの必要性はありそうだが、どう利用させるかが問題だ。

藤 本 最初は人の集まる所に置いて、景品でもつけて使ってもらおうことだろう。

伊 藤 一度つくればそのままいいというものではない。日々情報として変わっていくものでないと売れない。引き出す人が内容を覚えてしまうようでは価値がなくなる。メンテナンスの多いものほど価値は高くなるがコストも高く、営利事業としては成り立たない。

坂 梨 観光情報のようなものは、分かりやすく一般に利用してもらう内容であるため、キャブテン端末と競合すると思われる。別におくのか中に取り入れるのか考えなければならない。

第3セクターで県や市で運営されているので、それとの兼ね合いがあるのではないか。

波多江 先日データベース振興センターを尋ねた。

一回目は可能性を研究する段階だったが、二回目は、来年続けるとすると、プロトタイプを作る必要がある。

今までは人材派遣情報や所在源情報が多く本部としても、この種の研究は珍しく新しいという評価を受けた。

2月いっぱい報告書をまとめたが、実現するためには採算制も必要である。レインボープラザなどを見ると人間の限界というものを感じている。

伊 藤 福岡県や市、新聞社の持つアジア太平洋に関する情報などをゲートウェイ方式

でくって各所の端末に受けてもらう。

坂 梨 例えばイベント情報であれば「シティ情報ふくおか」を利用するなど。

伊 藤 西日本新聞の各県版にはかなりの量のイベント情報がある。

坂 梨 記事情報をアジア太平洋という切り口で横断的にすると利用価値はでてくるのではないか。

伊 藤 情報を取材し入力するという作業は大変な手間がかかる。

坂 梨 日経関係のように、同じ内容のものを並べ変え商品にしているように、西日本新聞社がしてもいいのではないか。自前の端末ではなく一つのソフトを作り価値あるものして提供料を取る。

波多江 日経のデータベースは今どんな端末なのか。

伊 藤 パソコンであれば何でも。ソフトも日経側がいろんな機種に合わせている。

波多江 話は中途半端になったが、過去5回の研究会とグループ・インタビューをまとめて報告したいと思う。

9. 6 アジア太平洋交流データベース研究会

留学生グループ・インタビュー

議 事 録

○ 日 時 11月29日 14:00～17:00

○ 場 所 福岡国際ホール「若杉の間」

○ 討議内容

1. どんな情報があったらいいと思うか

・ 情報項目

①生活習慣 住宅・労働・健康・教育・食・文化・ショッピング

②慣習

③法的手続き

④その他

・ 所在源情報

2. どんな情報提供方法が良いか

①コンピュータ端末で即座に

印刷物で良い

②使用言語は日本語と英語を考えているが他に必要と思われるものは

③どんな所に情報提供ステーションがあったら良いか

3. 非常に役に立つ情報には

①お金を払っても良いと思うか

②いくら位までだったら払っても良いと思うか

4. 日本で生活して困ったことは

①住居

②経済的問題（奨学金・アルバイト）

③人間交流

④その他

○出席者

森山 日出夫	九州大学 講師 留学生教育担当
白土 悟	九州大学 留学生会館主事

九州大学留学生 5名

高浜正興	西日本新聞社調査部次長
波多江修	システム開発部次長
小西晋	システム開発部

トウ ホン (中国)	日本滞在 3 年半	九州大学文学部博士 1 年 092-623-3745(学内3203)
文 泰憲 (韓国)		九州大学工学部建築学科博士 1 年 (内線5272)
ホセ・ルイス・ホセ・ロドリゲス (メキシコ)		九州大学農学部博士 3 年 092-672-0864
モヒラ・ヤスミン (バングラデシュ)	日本滞在 2 年	九州大学農学部修士課程 (内線6186)
ソムサック・マニーホン (タイ)	日本滞在 5 年	九州大学農学部 092-641-1101(内線6186、8185)

波多江 西日本新聞社では、アジア太平洋地域から福岡又は北九州に来ている外国人に必要な情報をデータベースを作ってサービス提供しようという構想がある。

いろいろな場所にばらついている外国人の欲しい情報を一つのデータベースに蓄えてサービスをすればもっと便利になるのではないかという考えの研究をしている。

今回は留学生に集まっただけ、今まで困ったこと、必要な情報はどんなものか話を話していただく。

森 山 私と白土先生で話を進めたい。

小西君は2年前に九州大学農学部を卒業後に西日本新聞社に入社し、コンピューターに詳しくこの研究会のお世話をしてもらっている。

(留学生の紹介)

トウ ホン (中国)	日本滞在3年半	九州大学文学部博士1年
文 泰憲 (韓国)		九州大学工学部建築学科博士1年
セルヒオ・ボテロン (メキシコ)		九州大学農学部博士3年
モニカ・スミン (ハンガリー)	日本滞在2年	九州大学農学部修士課程
ソムサック・マニボン (タイ)	日本滞在5年	九州大学農学部

森 山 福岡に来る前に九州大学や福岡についてどのような情報を持っていたか。

トウさんの場合は奥さんが先に農学部に留学していたので手紙のやり取りの中で、福岡や九大のことについて聞いていたか。

ト ウ 手紙には全く書いておらず、また日本にも関心はなかったので博士になるまで自分が日本に来るとは思ってもいなかった。

始めは9日間の観光ビザで日本に入国しそれから留学ビザに切り換えた。

白 土 観光ビザを留学ビザに切り換えができることは知っていたのか。

ト ウ 留学生の家族は特別に切り換えられることを知っていた。ちょうど1987年の7月で観光ビザで入国する出かせぎ労働者が増えはじめた頃だったので、入国審査で往復航空券のことを聞かれたが、まだ日本語も話せなかったので疑われたようだ。

森 山 文さんはどういうきっかけで、どういう情報を持って来たのか。

文 韓国で修士課程まで終えた頃、日本に行きたいと思い領事館などに行ったが資料があまりなかった。韓国には日本の最新情報はない。

釜山に来る日本人観光客の車のナンバープレートで「福岡」という文字を見たことはあったが、読み方も、どこにあるのかも知らなかった。

留学と言えば東京ということだろうが、いろいろな条件で福岡に決めた。学校を探すのが一番大変だった。

制度的に違い、一つのラインができれば早いスピードで事が運ぶがそこまでの手続きが大変だった。

白 土 東京の大学は有名か。

文 専門分野によって違うのでどちらが上でどちらが下ということはないだろうが、一般的に外国まで行って勉強するのであれば東京ということだろう。

森 山 トウさんと文さんは私費留学生だが、ホセさんは日本の大使館が試験をして招待する奨学生である。応募する時にどういう情報を得ていたか。

ポテロウ メキシコで卒業し、働いていたが何かチャンスが欲しかった。どこへ行けばチャンスが掴めるか探していたが、人間関係のことや、水産関係のレベルの高いことを考えて日本に決めた。また、本や映画を見たりメキシコにいる日本人の働き方などを見て好感を持った。

大使館で手続きを済ませたが福岡に行くということは全く知らず日本に入り、日本語を勉強してから福岡に行くように言われた。メキシコの留学生のシステムはそうなっていて、私は福岡ではなく、日本を選んで来た。

森 山 一番最初に九州大学や大村先生のことを知ったのはいつか。

ポテロウ 大阪外語大学に入ってからだ。大村先生に手紙を出したが、なかなか返事が来ないので心配になり、日本の友達にたのんで電話をしてもらったら自分は教えるだけで、住む所は知らないと言われ九大のイメージが悪くなった。

大使館では先生に連絡を取ればどんな問題でも助けてくれると言われていた。福岡だけでなく九州は特別な所ようだ。

森 山 1985年に大阪外語大学に来たというと、九大の留学生センターは私から白土先生に変わった時だ。大村先生がわからなければ白土先生に連絡を取れば今のよう問題はすぐに解決していたと思う。一番気になったのは住居の問題でその頃は留学生会館はできていたので大阪外語大学の先生でも留学生会館の事を知っていて教えるべきだった。

ポテロウ 留学生会館のあることはわかっていたが推薦で決めるということで入居できるかどうかわからなかった。

白 土 指導教授が大学内のそういう世話をする人を知らなかった。

ポテロウ 知らなかったか、はっきり言えばやりたくなかったのかも。

白土 やりたくなかったのでは、という疑いを持ったということだろう。

ポテロウ 深く考えると大使館が悪いのではないかと思う。日本に留学する人が少ないので日本に行けばなにも心配はない、勉強のことだけ考えれば良いときれいな型にはめてしまおうとする。

森 山 同じように国費留学のソムサックさんは、タイの大使館ではどうだったか。

ソムサック 卒業して留学の希望はあったが、どこの国でもよかった。しかし、鳥取大学、東京大学、北海道大学の先生と一緒に働く機会があり、個人的な情報を得て日本に決めた。試験の時にはその先生方の推薦を受けた。

タイで日本の情報を得るのはむずかしくなく、大使館の他に外務省関係でJapanese Information Center、JICA、JASCO、日本国際基金の文化交流もある。ただし全てバンコクにあって、私の住んでいる所とは東京と福岡位の距離があり、わざわざ行くことはできないが知りたければ手に入らないことはない。

森 山 主な情報源としては、一緒に研究をしていた人からの個人的な情報で、必要なものは得られたということ。

ソムサックさんの時は文部省奨学生は何人くらい受けて、何人くらい合格したのか。

ソムサック 300人以上申し込み、30人合格した。30人は理科系と文化系に分かれた。

ポテロウ メキシコでは私の時に、200人位の申し込みがあり、10人位受かった。

森 山 10人といえ少くない数ではないので、正確な情報を与えるべきだ。
ヤスミンさんはご主人が先に文部省の奨学生で日本に来ていたが、ヤスミンさん自身はどうか。

ヤスミン 卒業後5カ月くらい働いていた。日本に来る時は始めから勉強するつもりで来たが、留学生家族ビザで入国し1カ月後に学生ビザを取った。

ホ セ 留学生の奥さん達もみんな日本で勉強したがっているが、お金がないのである。

森 山 授業料が高いことは日本に来る前から知っていたか。

文 国立の場合はそうでもなく、私立の場合は何倍も高いと聞いていたので国立に

行こうと決めていた。

トウ 日本は4月入学で英米制の国では9月入学なので、中国の大学を7月に卒業し日本に来て、半年間は研究生をしなければならない。大学院の授業料は私費留学の場合半額免除になるが、研究生は免除がないので高い。入学金も研究生と大学院の2度取られる。

ヤスミン 日本に来る前は日本をお金持ちの国だと思っていたがわからなくなった。最初はお金がなくて困っていたが今はいろいろなアルバイトをしているので少しは楽になった。

トウ 日本での留学経験を持つ70%の人が日本に好感を持っていないという。一番きついのは人間関係である。「仲間」に入れられないし社会的には軽く見られる。郭沫若の書いた小説の中で激しく日本を非難していた。1910年代のことだ。

森山 郭沫若氏が九大に留学していたのは、日中関係が悪くなる前だったろうが、その頃と比べても変わっていないか、もっと悪くなっているのか。

トウ 郭沫若氏のことは私の故郷出身の人なので日本に来る前から知っていて、本もすでに読んでいた。

ポテリオン それを知っていても日本に来たのか。

トウ 妻が日本にいるので5年間働いていた大学をやめて来た。
日本で中国哲学を勉強している。

森山 トウさんの奥さんは政府派遣の留学生で、マスターが終了したら、帰国しなければならなかったが、本人は勉強を続けたいという希望があり、先生方もその方がいいということだった。また、タイミングよく奨学金ももらえるようになり他の留学生の助けもあって留学を続けている。そして、トウさんが日本に来たがせつかなので勉強をしようということで大学に入った。

私は奥さんの手紙で九大の良いところ、悪いところを十分に知っていて九大を選んだのではと思っていた。

ポテリオン 森山先生だけでなく、日本人はいつも日本の良いところ悪いところを聞いたがるが主観的に違うのでそれは言えない。日本の大学生について思ったことは、わがままであるということ。仲間になるまでは人間関係がむずかしい。

他に困ったことはあるがどこでも一緒である。

波多江 現在皆さんのお住まいはどこか。

ポティレオンさんと文さんは市営住宅、ヤスミンさんは県営の千早団地

波多江 隣近所の付き合いや町内会費、ゴミ出しなどうるさくないか。

文 いいと思う。妻の仕事だ。

ポティレオン 政府からお金がでないから自分でやるということだ。

留学生会館には掃除婦さんがいるので留学生はしない。時々ゴミを捨てたりするがきれいにはやっていないので県、市営住宅のようにやると良いと思う。

家賃は留学生は半額になるが、2年くらいしか住まないのに敷金があるし、市営だと風呂も自分で付けなければならないので安くても20～30万円はかかってしまう。

波多江 住宅の情報はどこで聞いたか。

トウ 留学生のためにいろんな機関があるが多すぎて分散している。

森山 文部省の内外学生センター、福岡市のレインボープラザ、福岡県の国際交流センターとあるが、3者の間には密な情報交換はない。自分の情報のみを答えている状況であるので3カ所の情報をまとめて持っておかないと一番便利のいい情報とは言えない。

この研究会そのものはバラバラの情報をネットワーク化してどこからでも探せるようにしていくものである。

必要な人にとって一番いい情報となるシステムでなければならない。

文 私の場合は留学生センターにはあまり行かない。自分よりも長く日本にいる韓国人の先輩に聞いてある程度の情報を得ている。住宅を探す時にも先輩から「市政だより」に掲載される時期を聞いていたので、その頃に注意して見て応募した。韓国人の留学生は半分くらいは顔見知りであるので会った時に情報交換している。

森山 韓国の留学生はまとまりがある。

ポティレオン 私は'News Today'で探した。また区役所で調べ申し込んで3年後に市営住宅に当たった。その間市営15回、県営6回申し込んだ。

森山 ポティレオンさんが、なかなか抽選に当たらなかった時期に比べると福岡市の

サービスは少しよくなり、留学生が入りやすくなっている。家賃は先ほど話が出たように半額になり、また留学生にとっては不便かもしれないが少し離れた所ならば優先的に入居できる所もある。

ヤスミンさんの所は県営ですね。

白 土 県営住宅の中では、日本人と話したりするのか。

ヤスミン 忙しいので時々であるが、外で子供の事、勉強の事、バングラデッシュでの生活の事などを話した。一月に一回はみんなで掃除をしている。

小学校と保育園の子供がいるが、始めの頃保育園に行く時に泣くので心配だった。上の子供は早く慣れたが、下の子供は泣かずに保育園に行くまでに3～4カ月かかった。6カ月くらいすると日本語も私達よりも上手になり、友達も沢山できた。

白 土 ソムサックさんは住む所はどうやって探したか。
また、民間の住宅で近所付き合いはあるか。

ソムサック 鳥取大学にいる時は日本人の学生寮のような所にいたが、そこは台所も風呂も共同だった。こちらでは、留学生会館の締め切りに間に合わなかったのが先輩に探してもらった。

大学からの帰りが遅いので近所付き合いをする時間はない。

森 山 ソムサックさんもポティレオンさんも九大を受けると決まった時に前もって留学生会館を申し込んでおけば入れたはずだ。

ポティレオン 大阪外語大の教授は全くそのことを知らなかったようだ。留学生が困らずに生活できるようにして欲しい。

白 土 教授との関係で、お歳暮・お中元などの習慣などまよったことはないか。

ト ウ しない。

ポティレオン 文さんもソムサックさんも先輩がいて情報をもらえるが同じ国の人が少ない人はどうしたらいいのか。

波多江 病気、病院などで困ったことはないか。

ト ウ 日本教育協会の保険と国民健康保険に入っているので心配はない。

- ヤスミン 子供達も自分の事は自分で説明できるし、病院も親切なので心配はない。
- ポテレオン 病院は親切だが、安い所と高い所がある。古い病院が安く、新しい病院が高いようだ。妻の出産の時には安い第一病院に行った。
- トウ 千早病院も安い。
- 白土 第一病院は福岡市からの指定があり安い。
- トウ 日本の病院の嫌なところは、余分な治療を勧めることだ。足の親指を踏まれただけでレントゲンを撮られ6千円もかかった。
- 森山 ポテレオンさんは九大の留学生会の会長であるが、病院のことなどの生活に役立つ情報は留学生の間ではどうやって知らせるのか。
- ポテレオン 私は第一病院がいいと思うが、他の人は高くても違う病院がいいと思うかもしれない。考え方も違うし病院の場合問題があった時に困るので自分の意見は勧められない。
一番悪いイメージがあるのは九大病院だ。先生達が権限のない学生にまかせるし、実験のようで嫌だ。
- 波多江 観光旅行、その他の旅行に行く時の情報はどうしているのか。
- ソムサック 日本では旅館案内、ホテル案内などの本があり、値段も安いのでそれを買っている。短い旅行で買うのがもったいない時は立ち読みをすることもある。あるいは日本人の友達に聞く場合も多く、よく泊まるのは4千円から5千円のビジネスホテルだ。ユースホステルも安いので会員になっているが、タイでは数が少ないので会員にはなっていなかった。旅館には泊まったことはない。
- ヤスミン 夜、子供達だけにしておけないので旅行は行かない。留学生のプログラムのハイキングには行ったことがあるが、お金がかかるので自分では行かない。
- ポテレオン 大学の旅行しか行ったことはない。
- 文 学会で広島に2回、また日本人の友達と長崎に旅行したことがある。
本屋に行けば旅行案内の本はたくさんあるが、読むのが面倒なので研究室の知人などにたのんで紹介してもらおう。面倒をかけるが一番早くて安心できる。
- ポテレオン 案内の写真はきれいだが実際には違っていたりするので、知人に聞いた方が良

いと思う。レストランのメニューや見本も同じで実物とは違う。

文 情報は文字より音や声の方が強いと思う。読むのは面倒だし、また日本語を文字で見てもすぐに頭に入らないが、声だとすぐに理解できる。

ト ウ 私は北海道から沖縄まで行った。沖縄は学会のために船で、後は長崎に2回など80%は観光で20%は学会である。

ホテルオ 旅館は日本人のためにあり値段も高く、留学生は安い所を探している。また、家族のいるものは旅行は大変だ。(費用面)
水産関係で行きたい所もあるがお金がかかるので行けない。他の人も見学したいけど行けないのではないか。はっきり言えば旅行できるのは日本人だけだ。
また、大阪外語大の生協は学生のために安い、九大の生協は外部より高くなっている。

小 西 食料品などは大量入荷に大量販売が安くなるのでしかたがない。

ホテルオ 目的は学生のためではないのか。
旅行も生協にたのんでも安くならない。

ト ウ 学割を利用するが、中国の場合は半額になるが、日本は2割しかない。

ホテルオ 九大から見学に行った時は忙しく、よく見る時間がない。日本の人には面白くないかもしれないが、外国人にとっては珍しく興味深いものなのでもっとゆっくり見たい。

森 山 白土先生が企画をする時に参考にしてもらわなければならない意見だが、いろんな国の人、学部の人が出て、さまざまな興味があるので詰め込みすぎになるが、その中に一つでの良かったと思えるものがあったら欲しい。

白 土 警察、消防などの救急の電話番号などは知っているか。

ソムサック 知っている。タイでも3ケタの番号だった。

ヤスミン 知らない。

波多江 「104」は使うか。

ソムサック 2回位使ったことがあるが電話帳で見た方が早い。

ポテリオン 私が「104」を使うのは土曜日、日曜日に病気になって当番院を知りたい時だ。

森 山 「104」で当番院を教えてくれることなどは九大の留学生の手引きには載っていない。

ト ウ 九大の留学生センターの隣に健康センターがあり、病院を紹介してくれる。
(大学に近い病院だけ)

波多江 皆さんは英語はできるか。テレビは多重放送を聞くのか。

(トウさん以外は英語が話せる)

森 山 生活用品を揃えるのは大変であり、中古のものを探るので、まだ音声多重テレビまでではなく、どちらを聞くかという段階ではない。しかし最近は留学生会館のベランダでも衛星放送のアンテナが2、3見られるようになった。

白 土 コンサートなどの催物に関心はあるか。

ポテリオン 行きたくても行けない。(経済的問題)
相撲は200円であるがよくない席である。

森 山 相撲の200円というのはライオンズクラブが特別に相撲協会に交渉をして、団体のみということで許されている値段である。

ポテリオン 日本の伝統的なイベントやコンサートがない。

ト ウ 私は2、3回平和台へ行った。ファンクラブに入っていないので当日並んで買った。

森 山 イベントのインフォメーションが「レインボー」に載っているが見るか。

ヤスミン 時々見るが全部は読めないなので好きなところだけ見ている。

ポテリオン 'Japan Times' や 'Daily YOMIURI' を図書館で見る。

波多江 2誌のイベント関係は東京のものしかのっていない。

ソムサック データベース化するとしたら、毎年決まって行われるイベント情報を入れたらいいと思う。毎年ではないものはデータベース化するのは大変なので、別の媒体でやる。

森山 毎年行われるものであれば中身も興味深いだろうし、連絡先を入れておけばいいだろう。

ソムサック 詳しい内容を入れるのは不可能であるので、詳しいことを教えてくれる場所の連絡先を入れておいたらいいと思う。国際交流協会、レインボープラザ、友好協会、九経連などの詳しく伝えられる所を登録したらよい。

白土 古本屋を利用するか。

ソムサック 買ったことはないが、見にいったことはある。

トウ 日本の推理小説などを買って読んでいる。

森山 東大の近くの古本屋には得意な分野があり、ある程度専門化しているが、福岡の場合は得意分野までではないようだ。

トウ 困るのは古本屋のある場所が散らばっていることだ。九大の近くにもあるが高い。

森山 六本松に少しあるくらいだ。

白土 飲み屋などの情報はどこから聞くのか。

文 あんまり行かないが、日本に来てすぐの頃、日曜日、土曜日の夜遅くまで研究室に残った後、食事をする場所がなくて困った。一般のレストランなのかどうかわからなかったので、持ち帰りの弁当を買っていた。

波多江 買物はどこで。

ヤスミン 食料品は近くのスーパー（マルキョウ）で、衣料品はダイエーなどで買う。天神のデパートなどは高いので見るだけだ。

波多江 安い店などの情報交換はあるのか。

ソムサック ほとんど友達から聞く。

森 山 医者の場合は後の責任が持てないから推薦できないが、買物の場合は安いとか、親切とかいったことはみんな情報交換をした方がいい。

ボテレウ 食料品も衣料品も安い時に買って普通の時は買わない。

波多江 悩みを相談する人はいるか。

ボテレウ 九大には森山先生と白土先生それから高松先生がいらっしゃるが子供の教育問題など制度的などうすることのできないことで先生達に相談して、うまく解決できなかった時に不快な思いをする。

ト ウ 学生課は不親切だ。留学生の名前を借りるとか使う時は使うのに……。

白 土 大学以外に悩みを相談する人はいるか。

ボテレウ 困った時に相談できる友達はあるが福岡にはいない。親友を作るのはむずかしい。

波多江 日本に留学した人の70%~80%が日本に対して悪い印象を持っているというのを聞いている。

ボテレウ それは中国人の場合ではないのか。

白 土 中国、韓国、台湾などの人で、留学生の70%を占めるので、そうなるのかもしれない。

波多江 中国や韓国の方は同じ国の方がたくさん来ていて友達になっているので、日本人と友達になる必要がないのであろうか。

ボテレウ パーティに出席し、30分くらいするとアルコールの関係か友達になったように親しくしてくれるが、その後はしらんぷりをされてつらい。日本人同士でも本当の友達はいないのではないか。

小 西 利害関係で付き合っている人もいるが、本当の友達が残っていくのではないか。

波多江 日本で働きたいと思うか。

ソムサック 私は日本に留学する前に、タイの公務員になっているので、タイ政府との契約で留学後はもどらなければならない。

ヤスミン 働きたいと思うがチャンスもないし、主人の留学が終わったら国へ帰らなければ
ならない。

ポテイルウ 日本で働きたいが、労働時間が長すぎる。
2年前、ある地熱の会社に勤めていたが、朝8時30分から夜は9時くらいま
でで、給料は良かったが家族との時間がなかった。

波多江 日本人の一般的な労働時間は休み時間を含めて1日8時間で、土曜日、日曜日
は休みで、短縮されてきている。

ポテイルウ 貿易関係のアルバイトを紹介されたが、初めの約束がだんだん長くなり、家族
のことが心配だった。

文 私は日本で就職は考えたことはない。国でなんとかやりたい。

波多江 韓国は経済的にも急成長を遂げているが就職事情は厳しいのではないか。また、
日本での留学経験というのは就職には有利であるのか。

文 外国に留学し、博士号を取ることは就職には有利になる。私は建築を勉強して
おり、一般の会社に入るつもりはない。

トウ できれば日本で10年位働き、中国へ帰りたい。

森山 大学や研究機関で今の研究を続けられるとしても10年というのは変わらない
か。

トウ 私のやっている学問（中国哲学）はむしろ中国でやった方がいいが、個人の気
持ちと中国と日本の現状を見れば、そのやりかたが一番いいと思う。

森山 情報は文字より耳からの方がいいということだが、特に漢字圏ではない国から
来られているヤスミンさんは読むのは大変ではないか。
その場合の言語は何か。

トウ 私は日本の周辺の国を考えると英語、韓国語、中国語、日本語の4カ国語だと
思う。

森山 そういう情報はどこにあればいいのか。
問題が起きた場合まず最初に誰に相談に行くのか。九大だけにあればいいのか。
レインボープラザや国際交流センターなど主な場所に相談を受ける人がいるべき

か、または機械なのか。パソコン通信などで受けられるようにコンピューターが
いいのか。

ポテロウ 留学生だとやはり大学で、一般の外国人だとレインボープラザなどがあると便
利だろう。

機械と人間の両方が必要である。

波多江 韓国、中国は領事館があるが相談に行くことはあるか。

トウ 敬遠している。

文 ビザ関係の手続きの時だけで、それ以外は行かない。実際に困ったことを相談
しようとしても解決できないのではないか。自分のことは自分で解決するしか
ない。

森山 最終的な決定を自分で下す時も、その選択がベターであるかベストであるかは、
どれだけの情報を持っているかで違ってくる。留学生から見た場合の情報の欠如
より以上に、大学の先生そのものが留学生や留学生の出身国の事情などにうとい
ということから摩擦が起きていることを指摘されているようで、ますます大変な
ことだ。そういう情報を留学生から提供してもらい、個人で思っているだけでな
く、必要な時に他に人が使えるような形に蓄積していく必要がある。担当者が変
わった時にまたゼロからの出発になるような無駄なことがあってはならない。

ポテロウ いろいろな国からの留学生を一つにまとめる必要があるのではないか。日本
での生活経験のより長い留学生を韓国人 から一人、中国人から一人、ヨーロッ
パ・アメリカ・カナダなどから一人を選び先生と一緒に留学生の世話をすると
いいのではないか。

白土 留学生会のようなものだろう。

トウ 留学生会の活動する場所がない。何年か前まで中国の留学生会は部屋を持っ
ていたが、今は会長の部屋でやっているので毎年変わることになる。

白土 九大留学生会が、いろんな国の留学生会の会長を集めた一つの連絡会になら
なければならない。今は韓国と中国の留学生だけで情報が固まっていて他の学生達
とは付き合わなくなっている。

波多江 慣習の違いや宗教のことを聞きたい。宗教を持っている人はいるか。

ソムサック（仏教）、ヤスミン（イスラム教）、
ポティレオン（カトリック）、文（なし）、トウ（なし）

ヤスミン 豚肉と酒は口にしない。

ポティレオン 教会へは1年に1回しか行っていなかった。天神に教会があるのは知っているが6年間行ったことはない。
私は神はどこにでも存在しており、祈りたければどこでも祈れると思っているが毎日教会へ行っている人もいる。

波多江 仏教はやはり日本のそれとは違うか。

ソムサック 全く違うので、日本のお寺も関係ない。

トウ 日本は中国仏教で東南アジアのものとは違っている。

ソムサック 宗教の違いは生活する上で何の問題もない。

森山 アルバイトの情報はどうやって探すか。

トウ 'AN'で1度仕事を見つけたが、合わなくてすぐに辞めた。
言葉があまりわからないことを理解してくれない。'AN'などの求人は肉体労働が多く、働いている人も性格が荒いので言葉も標準語とは全く違っている。

ポティレオン 大学院生は時間が少ないこともあろうが、普通の会社で働きたくても日本語がわからないとか、日本人のように働かないなどと言われ留学生の働くところがない。

波多江 先生方にアルバイトの相談はあるか。

森山・白石 ある。

ソムサック 内外学生センターも相談できるがなかなか見つからない。一番いいのは友達の話である。
アルバイトしたければいくらでもあると思う。する時間がないだけだと思う。

ポティレオン 留学生は大学院生などで学歴があるのに、皿洗いなどの仕事をしている。もう少しふさわしい仕事はないのか。

白 土 大学院生の場合はあまり疲れるアルバイトはできない。

ボテイワ 日本人学生には家庭教師などがある。

白 土 地域の人から英語、韓国語、フランス語を教えてくれという要望はある。

波多江 この研究会を始めて福岡市に700人の留学生がおり、その内の400人が九大に在籍し、それを3人くらいの先生方が世話をしていることを知った。情報の集まる新聞社の人間がこうなので、一般の人が知るはずがない。

通訳が欲しい時に先生の所の相談に行こうなどは考えもしなかった。まず教授に電話をして知らないということで止まってしまう。

森 山 そこであきらめてもらえればいいが、中途半端に知っている人のそういう問い合わせが殺到することがある。

白 土 今回のような場合でも5人集めるのに50回くらいの電話をした。連絡を取ろうとしても研究室にいないのでつかまらない。

ト ウ 私も昨日、偶然森山先生につかまえた。

森 山 今日もかなり無理をして出席してもらっているが、白土先生が電話1本で頼める人とそうでない人がいる。私達が頼むことによって負担を感じながらも引受けざるを得なくなるであろうし、そういう事情もあるのでアルバイトのことなどで有利になるように働きかける努力をする以外にはお返しすることはできないのではないか。

9. 7 アジア太平洋交流データベース研究会

在福岡外国人婦人グループインタビュー

議 事 録

○ 日時 12月17日 14:00～16:00

○ 場所 福岡国際ホール 「若杉の間」

○ 出席者

伊藤 寛道 九州造形短期大学 教授

在福岡外国人婦人 4名

ブレント・ガストン 福岡市国際交流員

高浜 正興 西日本新聞社 調査部次長

波多江 修 " システム開発部次長

小西 晋 "

波多江 西日本新聞社情報開発センター

西日本新聞社では外国人向けの情報サービスを始めようとしている。

今日は福岡で生活されている皆様方に、生活する上で困ったことや悩みなどをお聞きしたい。

伊藤 九州造形短期大学

今、福岡は国際化を進めている。

日本人は、中国や韓国とは地理的にも近く、文化的にも似かよっているので交流しやすいと思っているが、日本はアジアのどの国とも違っていると思う。その違いを理解し合ってこそ国際化が始まる。

その一方、中国・韓国以外の国については、日本と違う面ばかりを強調しがちなので、共通点を見つけて交流を深めることも大切である。

福岡が国際都市になるためには、外国人の感じる違和感をできるだけ少なくする努力をしなければならない。そのために知りたい情報をボタンひとつで見つけられるようなシステムを作ろうとしている。

黄 菊花 中国 北京から今年3月に来日。 子供は中国にいる。

7年前に東京にいたことがあるが、東京より住みやすく、きれいな街である。総領事館に住んでいるが、静かできれいだ。また人々も東京と比べると人情味があり暖かい。街を行く知らない人達の表情は忙しそうで、歩き方もせかせかしているが、その一生懸命さが今の日本を作ったのだと思う。

Parvin Islam バングラデッシュ

福岡に来て6年目で、3月に帰国予定。夫は九大農学部在学中で、2才半の子供が一人いる。最初は言葉もわからず、いい印象はなかったが、今では九州のほとんどを回って、その中でも福岡は好きな街だ。人々は広島と比べると優しく親切である。とても親しくなった友人はいるが、近所の人とはあまり親しくなれない。

引っ越しの時にはおみやげを持っていかなければならないと聞かされていたが、自分もそうしなければならないなか迷った。

伊藤 イスラムさんは天神などを歩いている時に、振り返って見られたりしないか。

Islam 私は見るとすぐに外国人とわかる顔なので、「外人だ」とか、「Hello」とか言われる。こちらから話し掛けると、不思議そうな目がだんだん慣れてくる。話したいだけのようだ。中学生くらいだとまだ子供なのでめずらしがるのはわかるが、大人がそうするのはおかしい。

福岡は住みやすく、他の所より物価も安い。志賀島は好きな場所だ。

同じ年代の人とは親しくなりやすい。

日本人は外国人のことをよく知りたがるが、自分のことはあまり話したがない。

徐 銀亨 (ソ・ウハン) 韓国 去年10月来日

上の子供が5才だったが、保育園がいっぱいに入れなかったので家で寂しそうだった。今は入園できて、博多弁も話すようになった。

日本の物価は高く、一番困るのは住宅である。

交通費も高いので旅行には行かない。

任 美淑 (任・ミスク) 韓国 2カ月前に来日

夫は九州大学の留学生 4才と6才の子供

留学生会館に住んでいるが1年で出なければならぬので、住宅やアパートのことが知りたい。

来たばかりのころは幼稚園と保育園の違いがわからなかった。韓国では保育園より幼稚園の数の方が多い。

福岡は私の故郷のソウルと比べると静かな街で人々は親切だ。韓国にいるときから物価は高いと聞いていたが、やはり高かったので安い店を知りたい。

ブレント・ガストン 2年前に福岡に来て、福岡市の国際部職員である。

週2日はレインボープラザ、1日は福岡コンベンションビルで働いている。家族は妻と2人だけである。

福岡は日本の他の都会と比べると住みやすいが、アメリカと比べると家が狭く、物価が少し高いが、交通の便はよい。ロスは地下鉄もなく、バスの数も少ないので車がないと生活できない。

伊 藤 福岡の良い印象ばかりを聞いたが、悪いことも率直に言って欲しい。

黄 はっきりと悪いと言えるところはないが中国人として分からないことはある。便利すぎることである。

とても過ごしやすい3月に日本に来たが、デパートや地下鉄で暖房が効きすぎて暑かった。夏になると冷房が効きすぎていて、エネルギーの無駄使いである。その反面イラク情勢の悪化などで石油危機を心配されたテレビ番組が放送されるのが不思議である。

Parvin 今はもう慣れて悪い面はないが、福岡に来て15日くらいの頃の日曜日に病気になった。ほとんどの病院は休みだし、漢字がわからず何科にいけばいいかわからないし、病院で書類を書く時も英語ではだめたということで看護婦さんに手伝ってもらった。日本人でも英語を話す人はいるが、病院の案内やその他の道案内も

英語の表示があればいいと思った。

任 出かける時にバスの番号がわからずに困った。

徐 留学生会館に住んでいるが、来年の9月に引っ越さなければならないが市営住宅はすぐに入れない。香椎浜がきれいで、静かなので住みたい。

教育の面で違うのは、韓国ではハングルの文字を全部覚えてから小学校に入るが、日本では「あいうえお・・・」だけだ。

姑の故郷は福岡なので、日本に来る前から人が親切だと聞いていた。

言葉がわからずに字も読めないが、市場やスーパーに行ったら覚えた。

ガストン 毎日、国際化ブームの中で働いての見方は他の人とは少し違う。街の中では英語のスペル、大文字・小文字、単・複数形の間違が多く、外国からの客は「本当に福岡は国際都市なのか」と笑っている。私は福岡市の職員として恥ずかしい。

また、福岡市はアジア太平洋センター、アジア文化賞、ユニバーシアード（95年）の3つを計画しているが、それぞれの課で働いているのは日本人だけである。時々私ともう一人の国際交流員が呼ばれて意見を聞かれるが、アジアとの交流を目的とした仕事ならばアジア系の職員も加えるべきだ。市のプランにももう少し外国人を入れた方がいい。

伊 藤 「アジア………」と言いながら、日本人のみで会議をしている。福岡がアジアの拠点都市だというのはせんえつである。

次に欲しい情報などを聞きたい。

黄 こちらへ来る前に、中国でテレビ放送されたアジア太平洋博覧会や国際マラソンで福岡を知っていた。

国際化を目指す姿は印象的であるが、街の看板などに外国語や外来語を使い過ぎである。美しい日本語を生かして作った看板が外国人の心を動かすのではないか。表面だけの国際化のアプローチではなく、自国の文化を大切にすべきである。

伊 藤 アメリカ人の使う英語が4万5千語ほどで、その5分の一の数にあたる9千語を日本人が外来語として使っていると言う。

外国の文化・言葉はむやみやたらと取り入れるのに、外国人に対しては心を開かない。我々は「日本の文化」があればこそ日本人として認めてもらえるのである。

Parvin 留学生の住む所が問題だ。高い家賃が払えないので、留学生のための住宅が欲しい。

また、物価が高いので安い所も知りたい。

福岡では留学生アルバイトする場所がない。あっても、ほとんどがネイティブスピーカーの英語の先生だ。

ガストン 時々フランス語や韓国語の照会もある。
レインボープラザでは帰国する人達の不要家具などを売る「さよならセール」がある。

Parbin 今はレインボープラザがあるのでいろいろな情報を受けている。

波多江 レインボープラザと留学生会館の間には交流はあるのか。

ガストン よく行われている。
住宅や日常生活の問題など、留学生に集まってもらい聞いている。

伊 藤 市営住宅を留学生に優先的に、しかも無料で提供して欲しい。

徐 看板などの英語がむずかしい。
アルバイトをしたいが、留学生の仕事はスーパーなどの肉体労働ばかりで私のできるものはない。韓国では結婚をした女の人に仕事はない。日本ではあるのに、留学生にはオフィスでの仕事がないのである。

任 子供の問題がある。来年小学校入学だが、日本に来てまだ2カ月なので言葉がわからないので心配だ。
また留学生会館に住んでいるので子供が騒いでも理解してもらっているが、アパートに変わったらわかってもらえるかどうか。

除 日本は木造住宅なので、音がよく響く。

黄 日本人はあまり大きな声を出さない民族だ。

ガストン 私も来年8月頃に引っ越さなければならないが、安い所が見つからない。
レインボープラザでよく相談を受けた内容は、6月に改正のあった入国ビザの問題や、JRの時刻表が見難く使いかたが分からないという相談、また質屋やリサイクルショップなど中古家具を売っている所、安い外国料理レストラン、帰国する人から、日本郵船などの引っ越し請け負い会社と値段などだ。
電話帳を見れない人からの問い合わせが多く、英語の電話帳があれば便利だと思う。緊急の時のために24時間営業のヘルプラインのような英語の電話案内もあればいい。関東（川崎、横浜、東京）、関西ではNTTと'JAPAN TIMES'の電話帳がある。JRは全部ではないが小さいものなら英語版がある。

- 黄 アジア地域の芸術家などを招いて映画祭などのイベントを開いたら良いと思う。福岡をPRできるのではないか。
- 「日本はアジアでありながら、目は遠くに向いている」とアジアの人々は言っている。アジア地域の人々との心の繋がりが大切ではないのか。
- 伊 藤 明治時代に脱亜入欧という政策を採ったが、今福岡のリーダー達はアジアに目を向け出した。
- 黄 日本の他の都市より、確かに福岡はアジア寄りである。
- 波多江 日本の食べ物に抵抗はないか。
- 除 材料は同じだが、全然違う料理を作る。
日本の白菜には水分が多い。
- 黄 大根も水分が多くておいしい。
- 任 韓国ではごはんを食べるのは、スプーンを使う。箸はおかずだけに使う。
- 黄 福岡は海の幸、山の幸に恵まれていておいしい。
- Parvin バングラデッシュとは魚の種類が違う。海の魚だけで川魚はない。
- 黄 福岡の中華レストランと中国の味は違うがおいしい所もある。
- 徐 韓国には日本料理屋がたくさんあるが、福岡には韓国料理屋がない。あっても日本人向けの味になっている。
- ガストン アメリカですき焼きを食べたことがあるが卵がついてこなかった。アメリカ人は生卵をたべないからだ。
- 波多江 日本の物価はどの程度高いと感じるか。
- 黄 品物にもよるが、中国とは比べものにならない。しかし中国では賃金も安いのでなんとも言えない。
- 徐 電気製品は韓国より安い。
- 任 日本へ来る時、家族は物価の高さを一番心配していた。

- 徐 韓国ではおみやげに万年筆やボールペンを買うが、日本では菓子しか買えない。
- 波多江 日本の習慣や宗教で困ったことはないか。
- Parvin 昼の上での生活に困った。
- 徐 尋ねた家で自分より年上のおばあさんが床に座って挨拶したのでびっくりした。
- 伊 藤 福岡の人が外国の習慣を知ること大切だ。
- 黄 同じことを繰り返す挨拶のやりとりがむずかしく、疲れる。
お世話していないのに「お世話になりました」と言われ、どう答えていいかまごついたり、心のこもっていない挨拶だ。
- 伊 藤 外国人には、よこしまな本心を隠す偽善だと思えるかもしれない。
- 黄 それをしないと日本人の間では問題になるだろうが、外国人はどう対応しているかわからない。
電話の対応もむずかしい。
- Parvin 弁論大会でなかよくなった日本人に遊びに来いと言われたので行ったら、びっくりされた。挨拶の言葉だったようだ。
- ガストン 始めにこのデータベースの話聞いた時は海外の情勢・社会・教育・人口などの情報を提供するものかと思った。
今考えられているような情報内容であれば、レインボープラザで十分ではないか。福岡県の国際交流センターもあるし、北九州にもできている。
また、もし作るのであれば民間の会社だけより県や市と協力して作る方がいいのではないか。
- 波多江 県や市、国の機関などは、いろいろな情報を持っているのでそれを1ヶ所にまとめるようなものを作りたいと思っている。
- ガストン 学生のための英語の本が少なく困っている。英字新聞も1日遅れである。
- 伊 藤 今日は貴重な意見をありがとうございました。データベース作成の参考にさせていただきます。

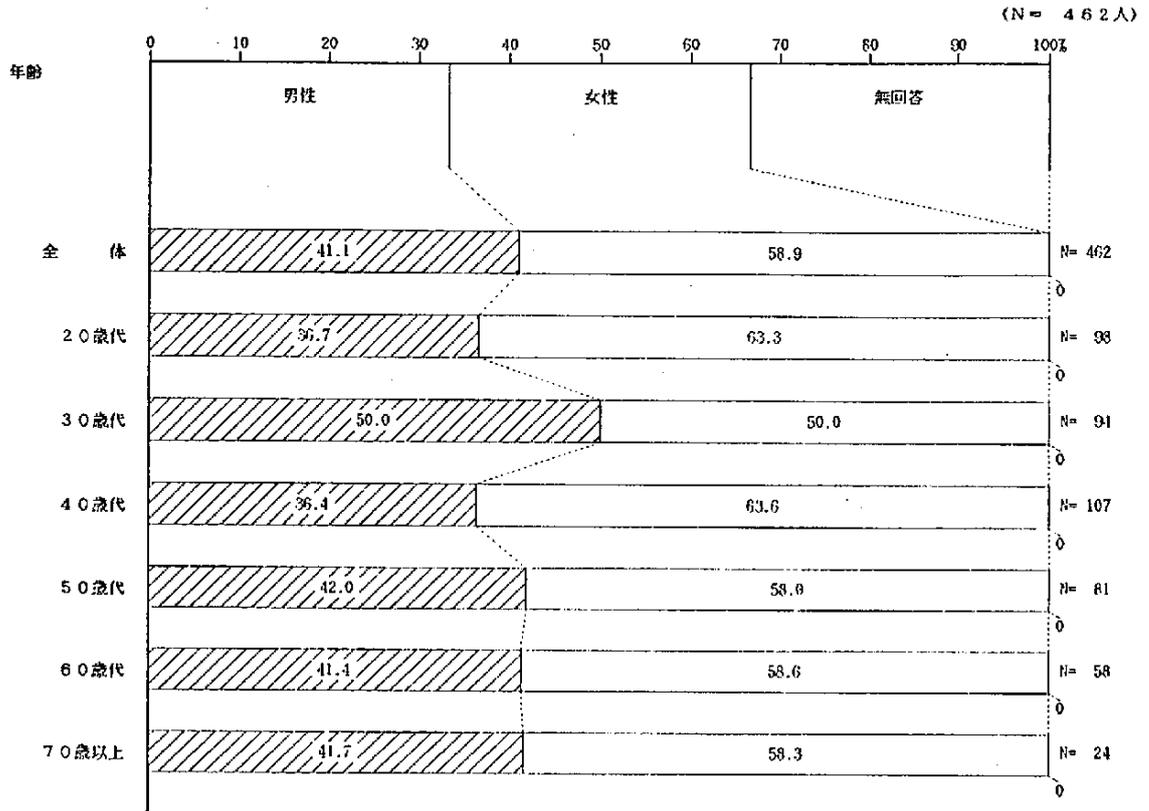
9. 8 国際交流調査詳細報告

目 次

1. 対象者の属性	128
2. 海外旅行経験の状況	132
(1) 旅行経験の有無	132
(全体、性別、年代別、職種別、地域区分別)	
(2) 旅行の用件(全体、性別、年代別)	135
(3) 旅行の行き先(全体、性別、年代別、職種別)	140
3. 外国人の友人の有無	147
(全体、性別、年代別、地域区分別)	
4. 外国人に道を聞かれたときの対応	149
(全体、性別、年代別)	
5. 外国との交流について	151
(1) 交流先として最も関心のある国	151
(全体、性別、年代別)	
(2) 交流先として選んだ理由	153
(全体、性別)	
6. 国際化の進め方について	155
(全体、性別)	

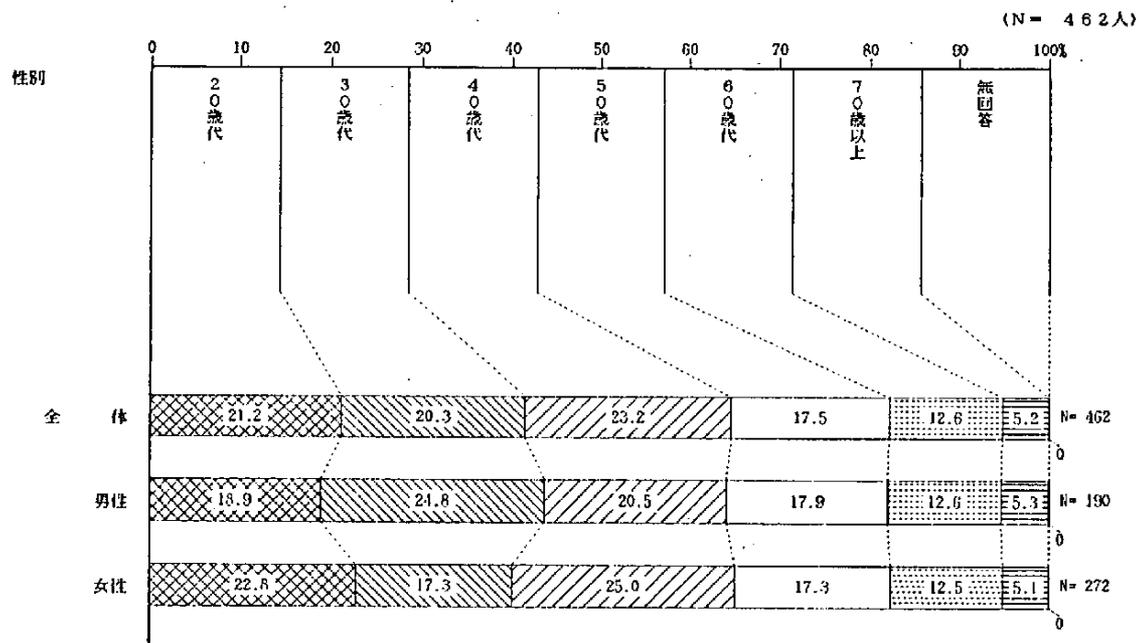
1. 対象者の属性

① 性別



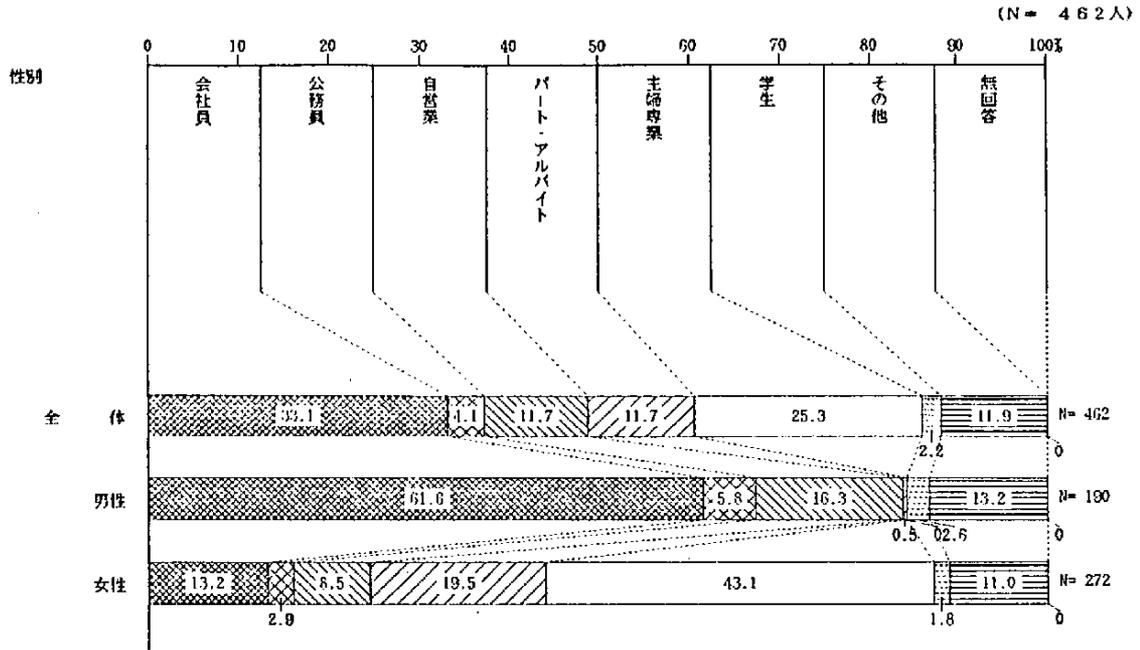
・性別では、「女性」が58.9%を占め、「30歳代」50.0%を除く他の年齢層は、全体の構成とあまり変わらない。一方、「男性」は41.1%を占め、「30歳代」50.0%が他の年齢層よりやや突出している。

②年代別



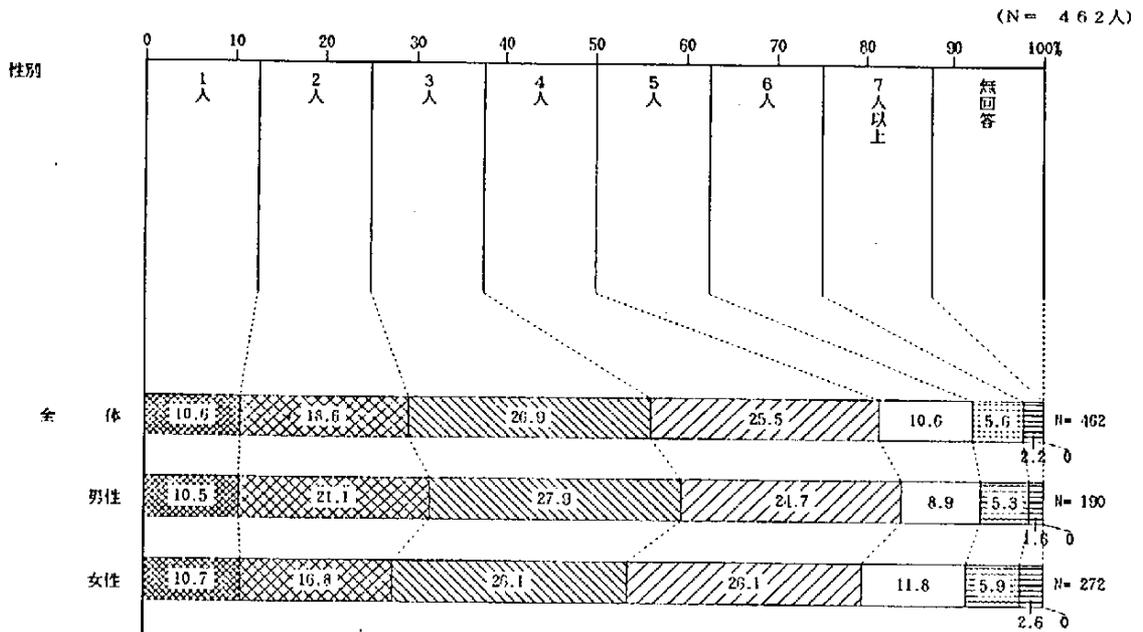
・年代別では、「40歳代」が最も多く23.2%を占める。次いで、「30歳代」20.3%、「20歳代」21.2%の順である。男性で見ると「30歳代」24.8%が最も多く、次いで「40歳代」20.5%、「20歳代」18.9%の順となっている。女性で最も多いのが「40歳代」25.0%で、次いで、「20歳代」の22.8%、「30歳代」と「50歳代」の17.3%の順である。

③ 職業別



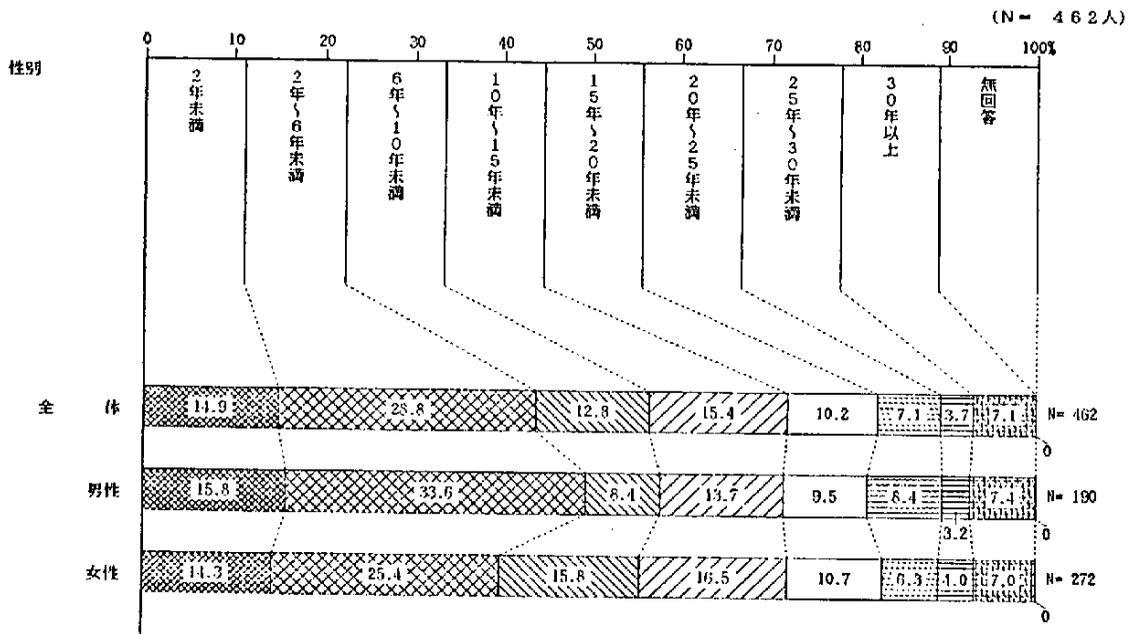
・職業別では、「会社員」が最も多く33.1%を占める。次いで、「主婦専業」の25.3%である。男性では「会社員」が61.6%と最も多い。女性では「主婦専業」43.1%が最も多く、次いで「パート・アルバイト」19.4%の順である。

④ 家族構成



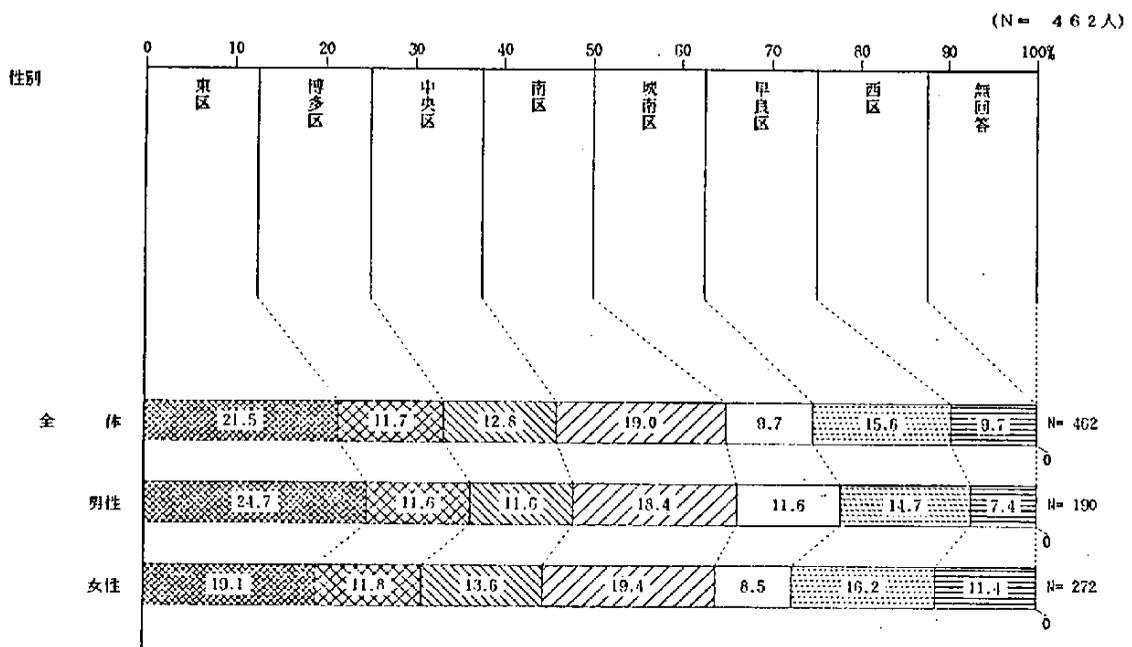
・家族構成で最も多いのは「3人」で26.9%を占める。次いで、「4人」25.5%、「2人」18.6%の順である。男性では、全体同様「3人」が多く、27.9%を占める。女性では、「3人」と「4人」が26.1%ずつで最も多い。

⑤ 居住年数



・ 居住年数で最も多いのは、「2~6年未満」で28.8%を占める。次いで、「10~15年未満」15.4%、「2年未満」14.9%の順である。
 また、男性は「2年~6年未満」が33.6%と、女性の25.4%と比較して多い。

⑥ 地域区分別

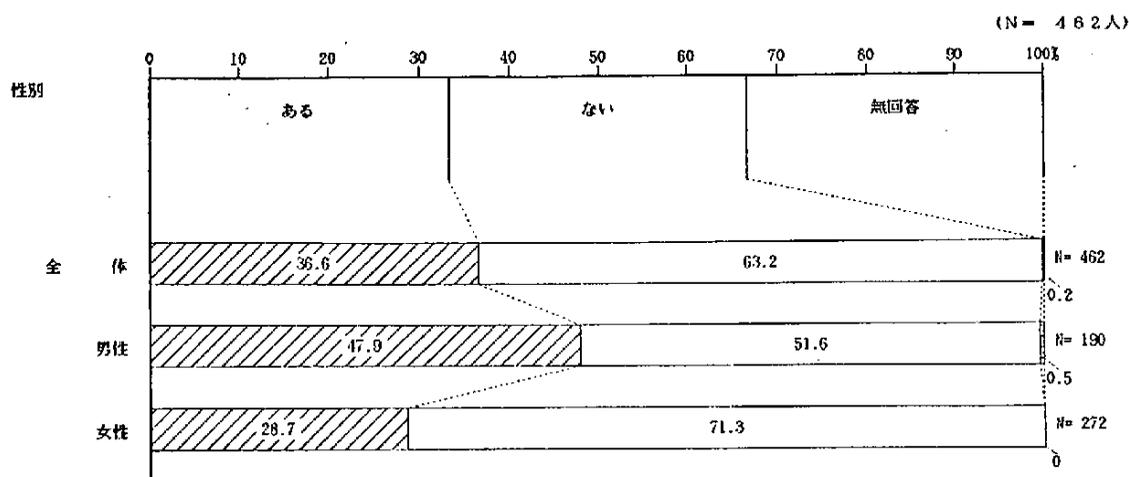


・ 「東区」が最も多く21.5%を占める。次いで、「南区」19.0%、「早良区」15.6%の順である。

2. 海外旅行経験の状況

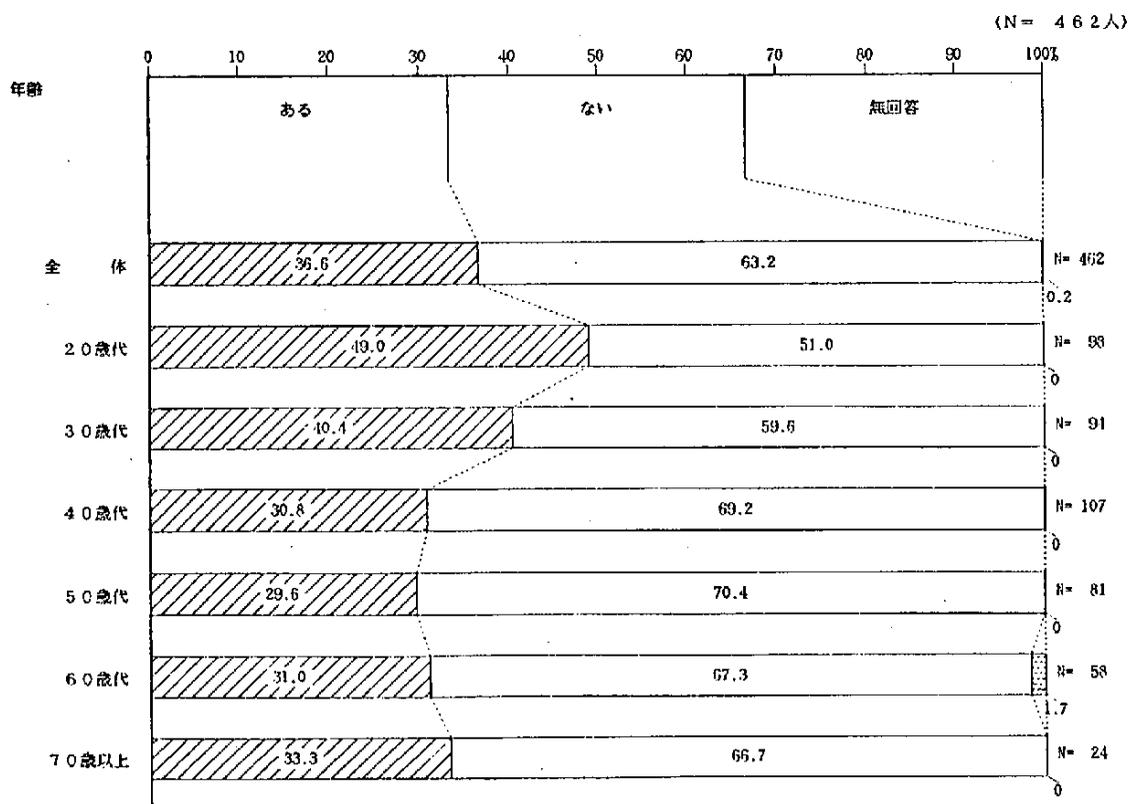
(1) 旅行経験の有無

① 全体、性別



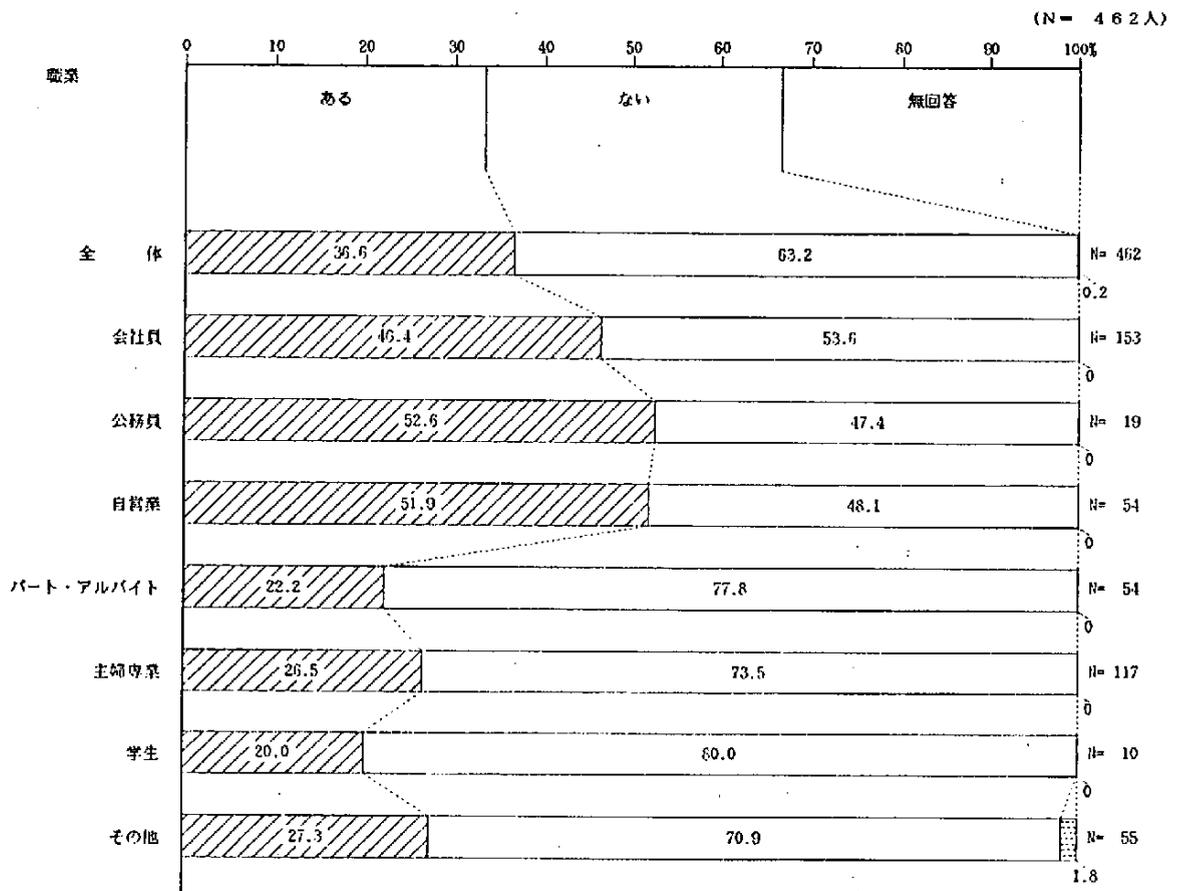
- ・全体で見ると、海外旅行へ行ったことがあると答えた人は36.6%である。
- ・性別では、男性の海外旅行経験者が47.9%と、女性の28.7%より19.2ポイント多い。

② 年代別



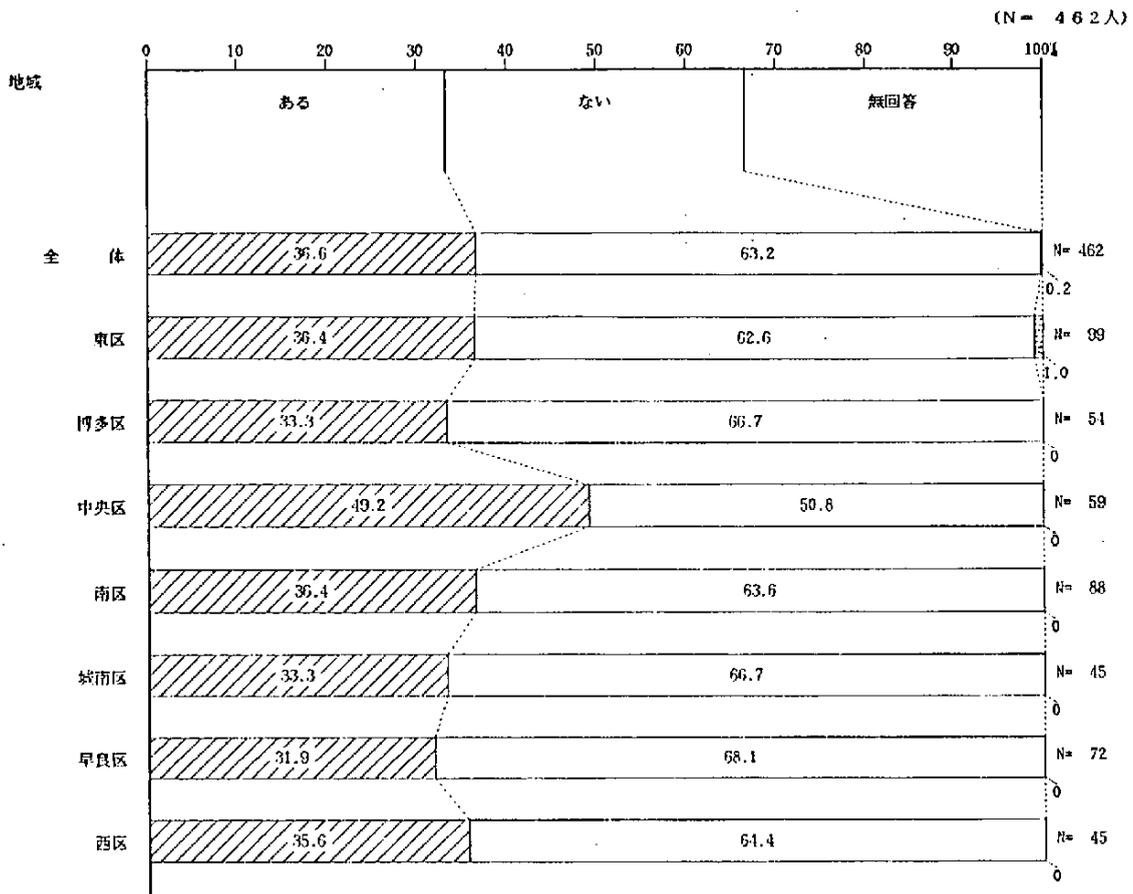
- ・「20歳代」では49.0%が海外へ行ったことがあると答え、他の年代に比べ相対的に多い。次多いのが、「30歳代」40.4%である。

③ 職種別



・ 職種別で見ると、「公務員」が絶対数が19と少ないものの、海外旅行経験者が52.6%と過半数を占める。次いで、「自営業」51.9%、「会社員」46.6%の順であり、勤労者の海外旅行経験者が比較的多い。

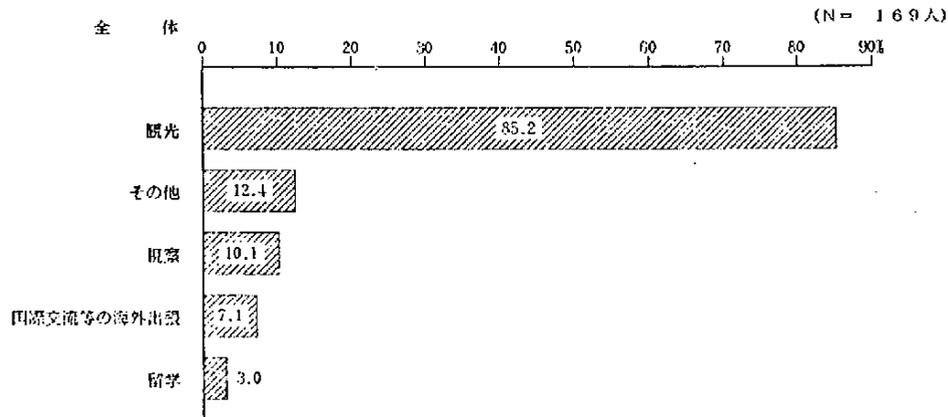
④地域区分別



・福岡市7区の区別で見ると、「中央区」の海外旅行経験者が多く、49.2%を占める。次いで、「東区」と「南区」の36.4%である。「中央区」を除いて、全体と同様な割合となっている。

(2) 旅行の用件(MA)

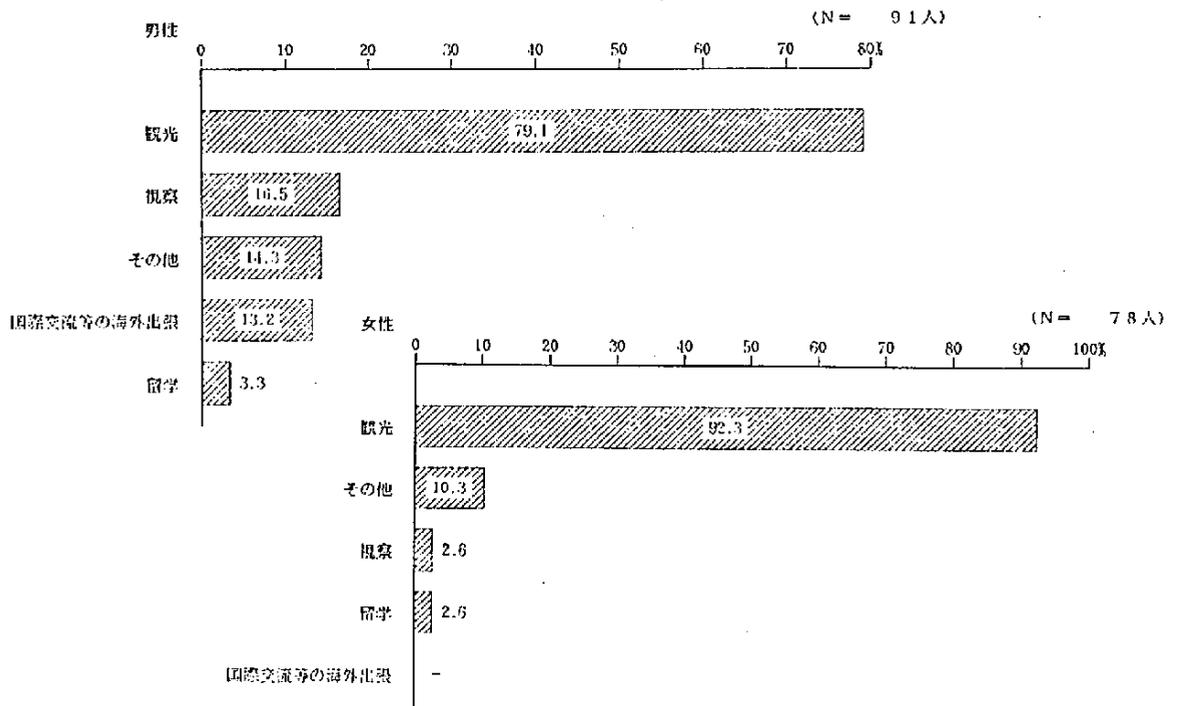
① 全体



・全体で見ると、「観光」での海外旅行が圧倒的に多く85.2%を占める。

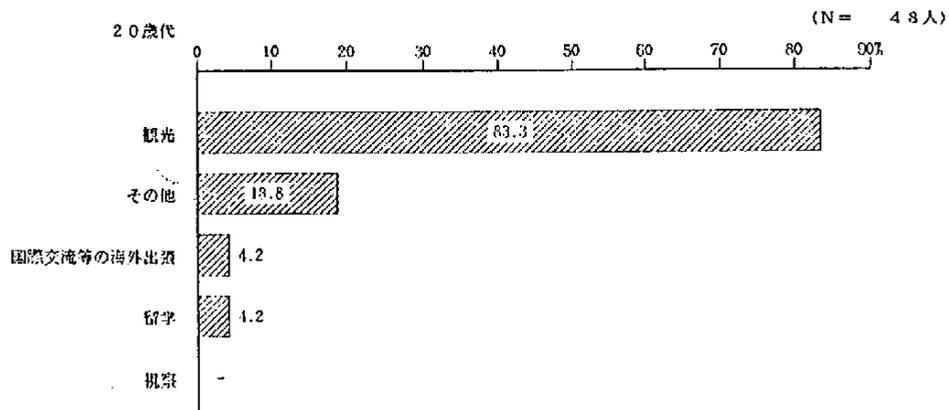
次いで、「視察」10.1%、「国際交流等の海外出張」が7.1%の順である。

② 性別

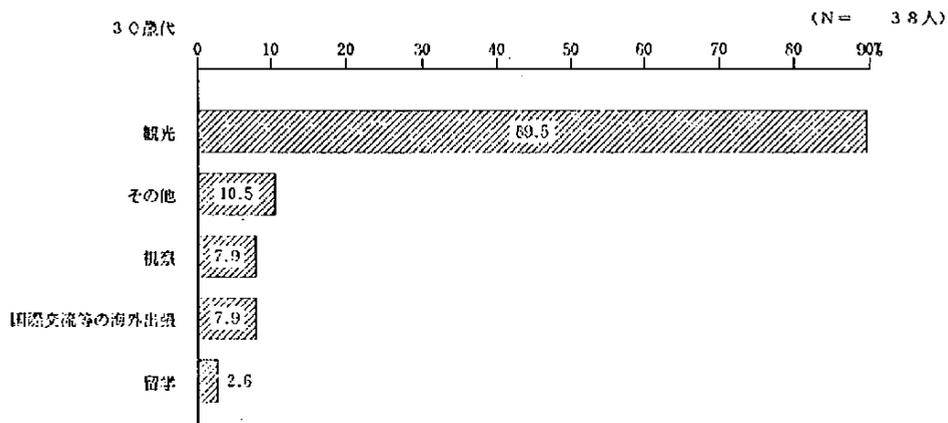


・性別で見ると、男女とも「観光」で海外へ行った人が多く、男性で79.1%、女性で92.3%を占める。また、男性では、「視察」で16.5%、「国際交流の海外出張」で13.2%の人が海外へ行っている。

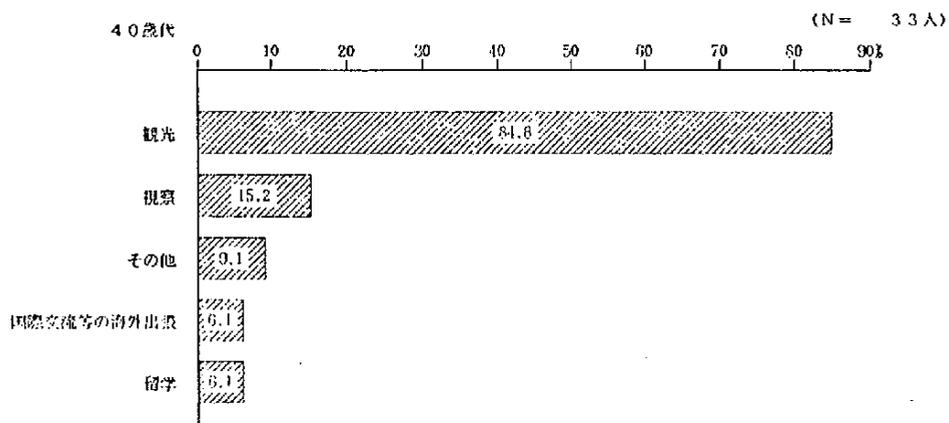
③年代別



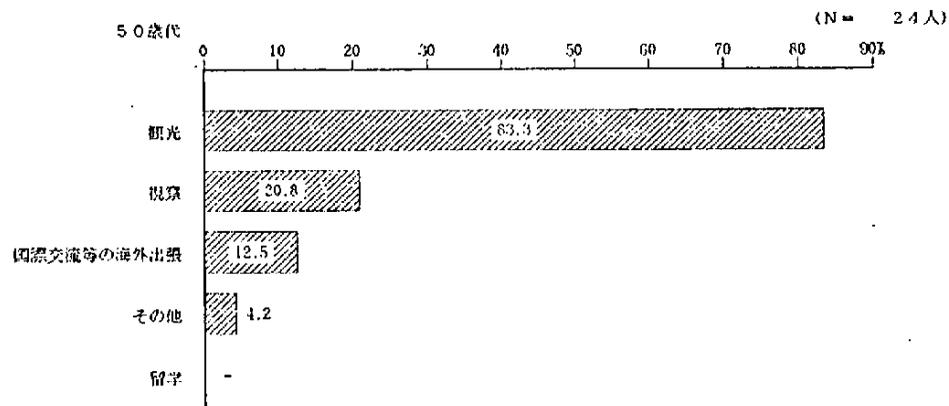
・20歳代では、「観光」が最も多く、83.3%を占める。



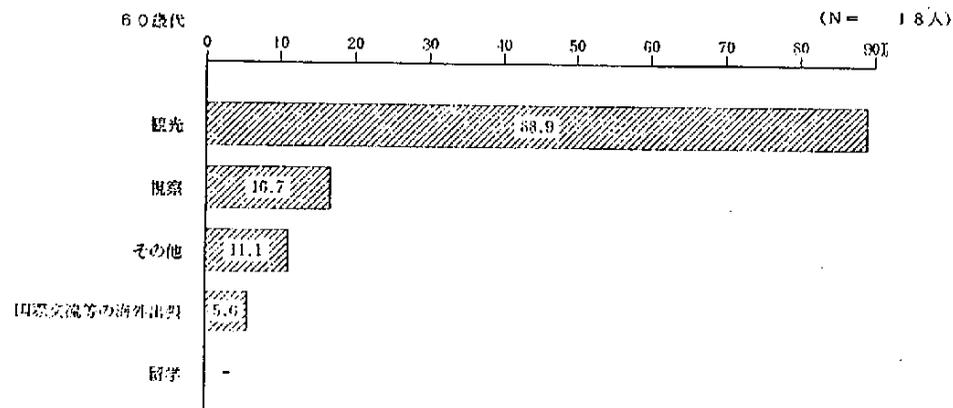
・30歳代でも、「観光」が89.5%と大部分を占める。



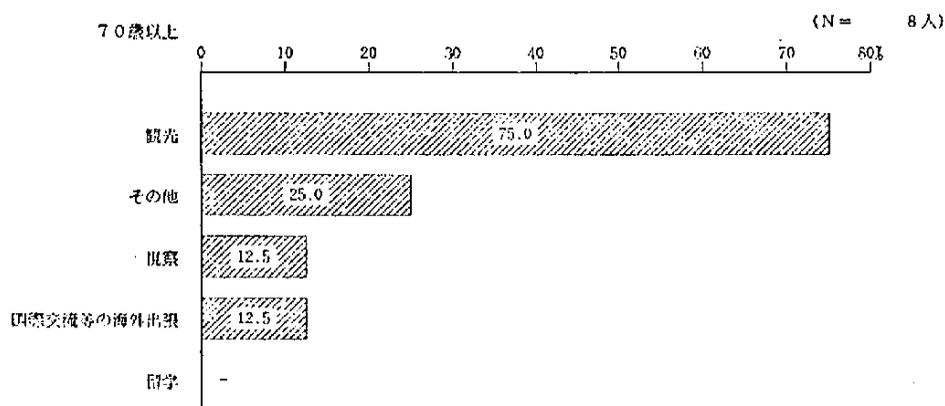
・40歳代では、「観光」が84.8%で最も多いが、「視察」も15.2%いる。



・50歳代では、「観光」83.3%に次いで「視察」も20.8%いる。この年代の「視察」での海外旅行経験者の割合は、他の年代に比べ多い。

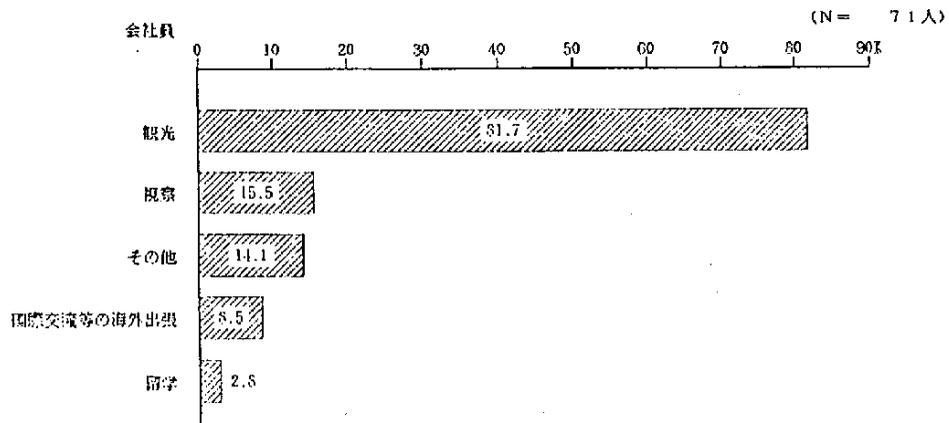


・60歳代では「観光」が最も多く88.9%を占める。次いで、「視察」16.7%の順である。

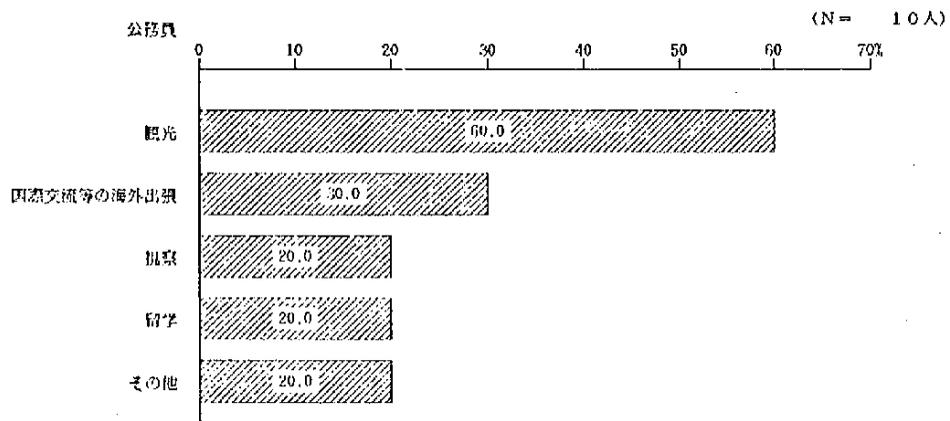


・70歳以上は絶対数が8と少ないが、75%の人が海外旅行経験の用件として「観光」を挙げている。

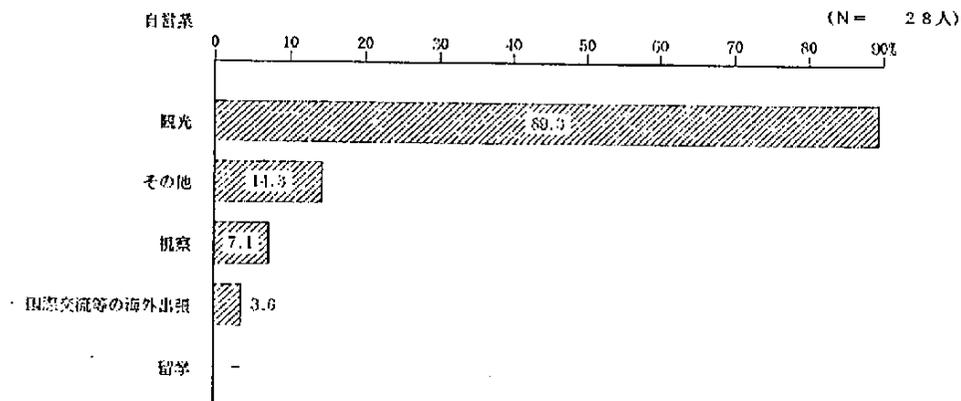
④ 職種別（会社員、公務員、自営業、主婦）



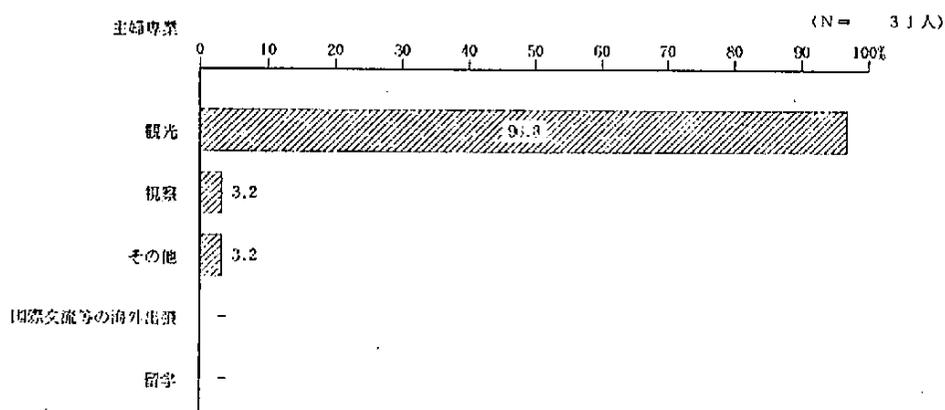
・会社員では、「観光」での海外旅行が最も多く、81.7%を占める。次いで、「視察」15.5%である。



・公務員では絶対数が10と少ないが、「観光」での海外旅行が60.0%で最も多く、次いで「国際交流等」の海外出張」30.0%である。



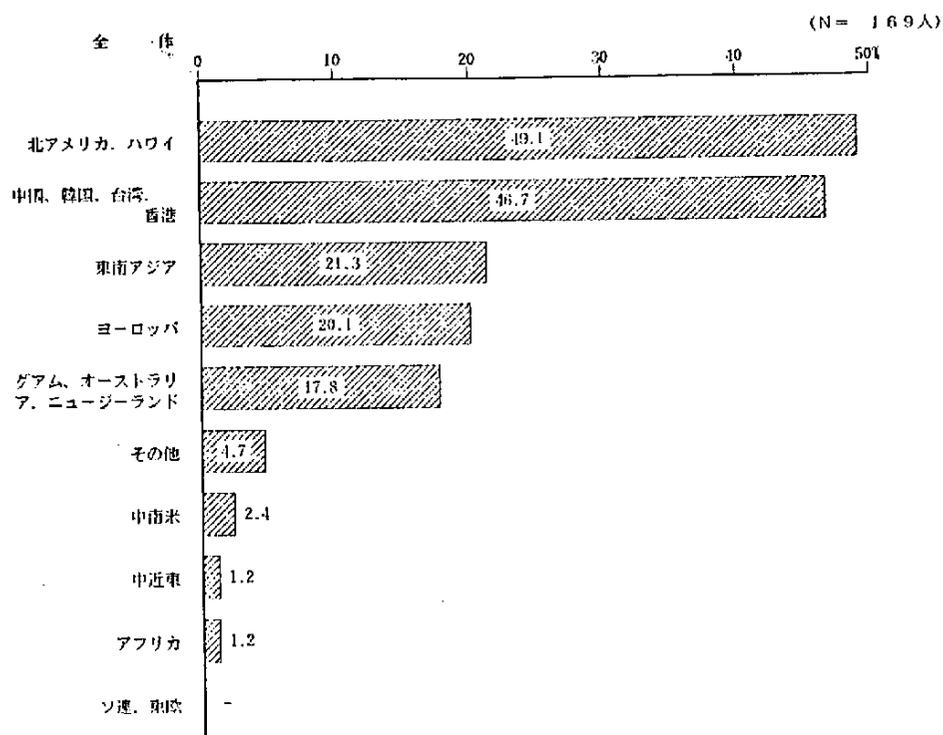
・自営業では、「観光」が最も多く89.3%を占める。



・主婦専業は、「観光」での海外旅行経験が96.8%とほとんどを占める。

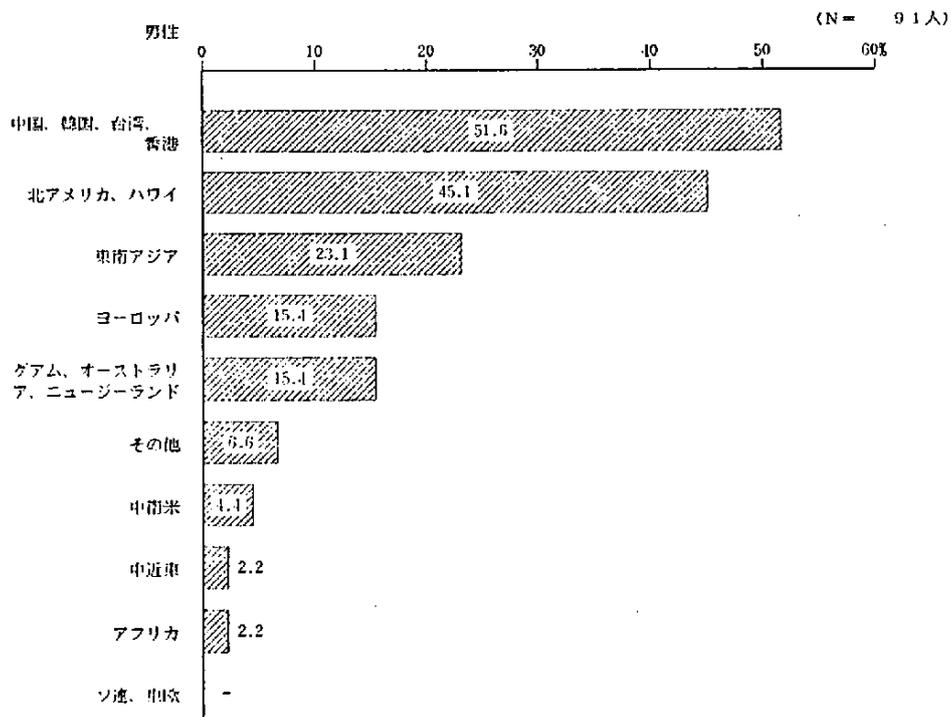
(3) 旅行の行き先(MA)

①全体

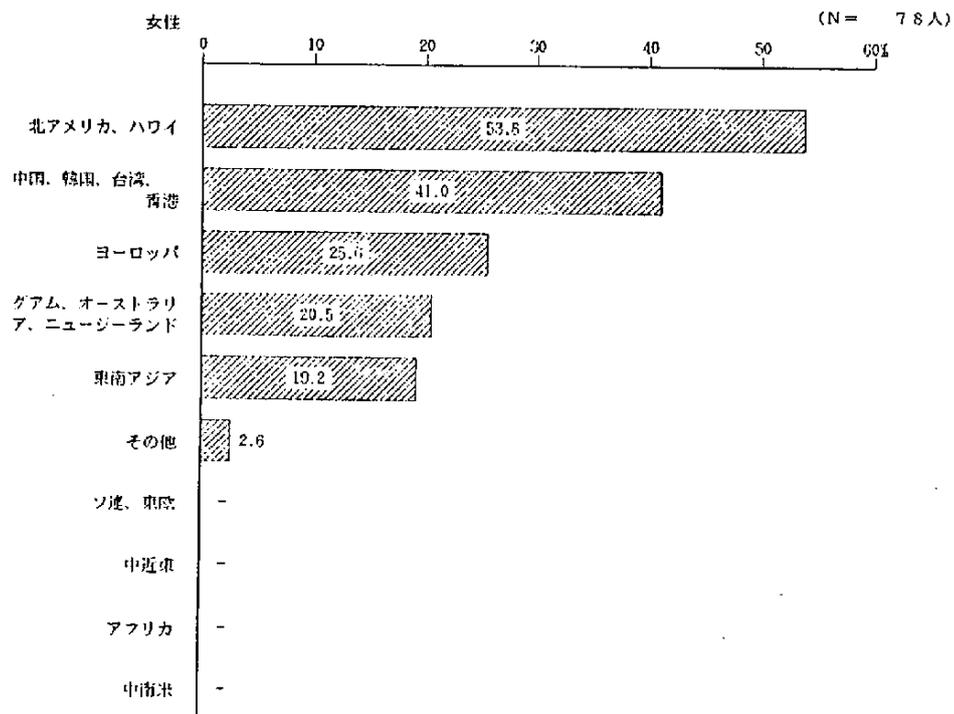


- ・全体で見ると、「北アメリカ、ハワイ」が最も多く49.1%を占める。次いで、「中国、韓国、台湾、香港」46.7%、「東南アジア」21.3%、「ヨーロッパ」20.1%、「グアム、オーストラリア、ニュージーランド」17.8%の順である。

② 性別

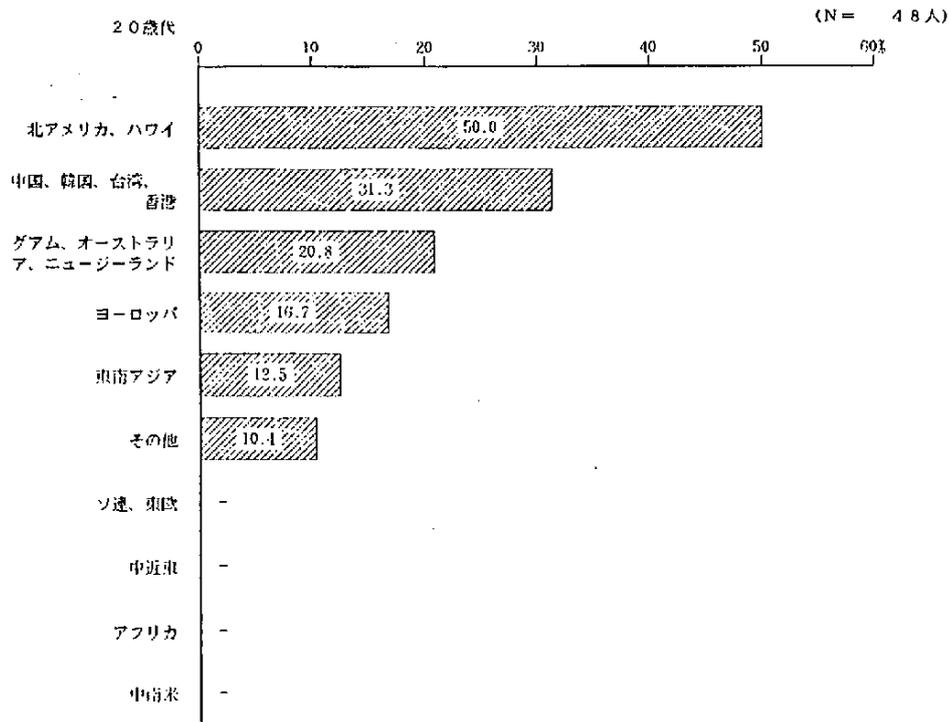


・男性で見ると、「中国、韓国、台湾、香港」が最も多く51.6%を占める。次いで、「北アメリカ、ハワイ」45.1%、「東南アジア」23.1%の順である。

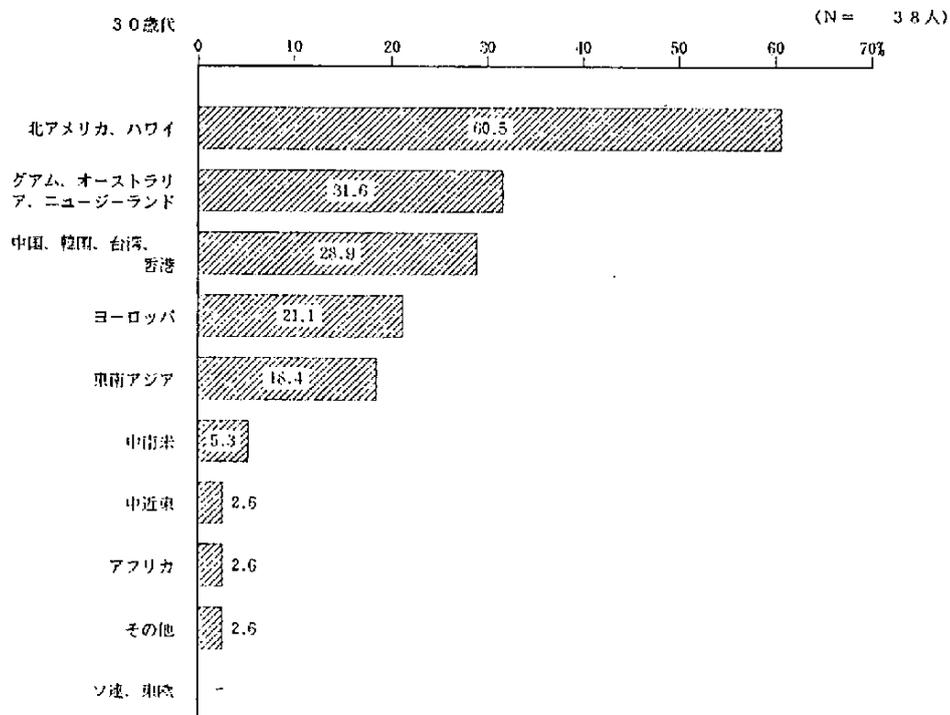


・女性では、「北アメリカ、ハワイ」が最も多く53.8%を占める。次いで、「中国、韓国、台湾、香港」41.0%、「ヨーロッパ」25.6%の順である。

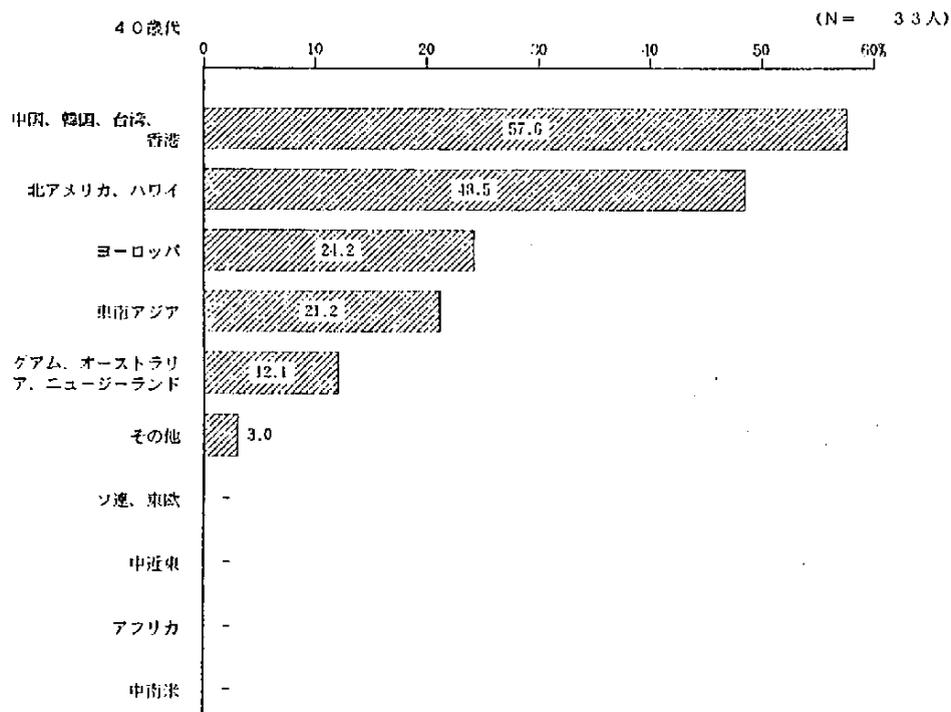
③年代別



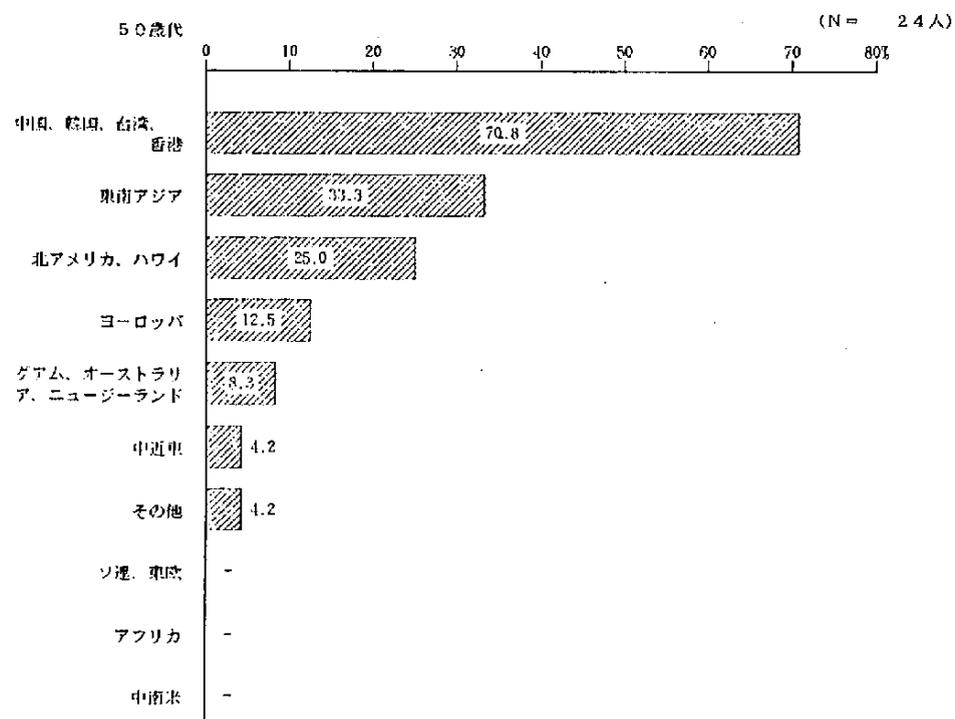
- ・20歳代では「北アメリカ、ハワイ」が最も多く、50.0%を占める。次いで、「中国、韓国、台湾、香港」31.3%、「グアム、オーストラリア、ニュージーランド」20.8%の順である。



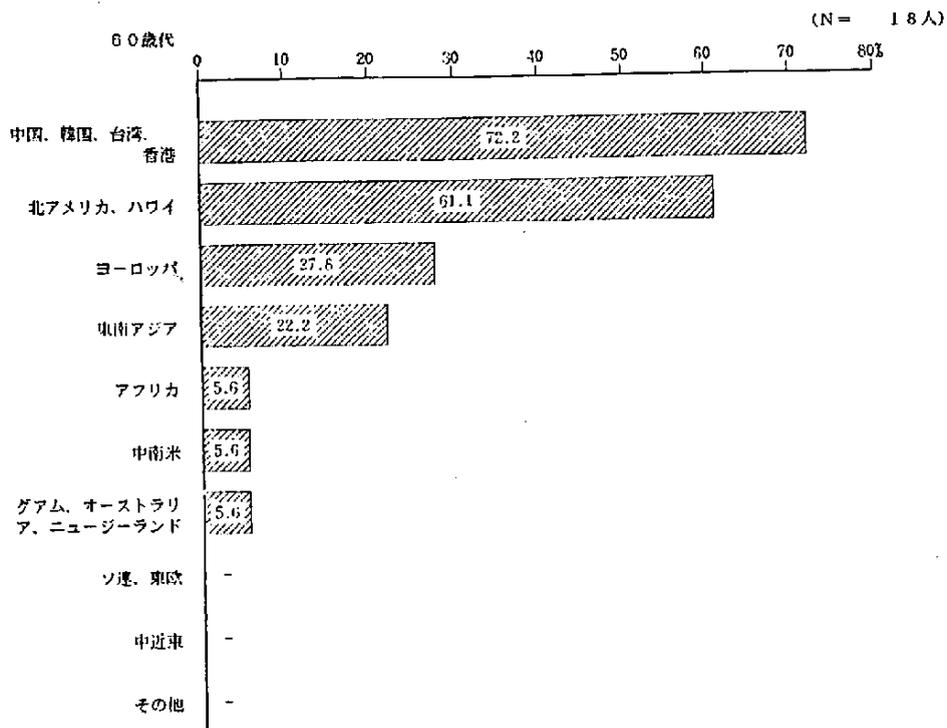
- ・30歳では「北アメリカ、ハワイ」への旅行経験者が60.5%を占める。次いで、「グアム、オーストラリア、ニュージーランド」31.6%、「中国、韓国、台湾、香港」28.9%の順である。



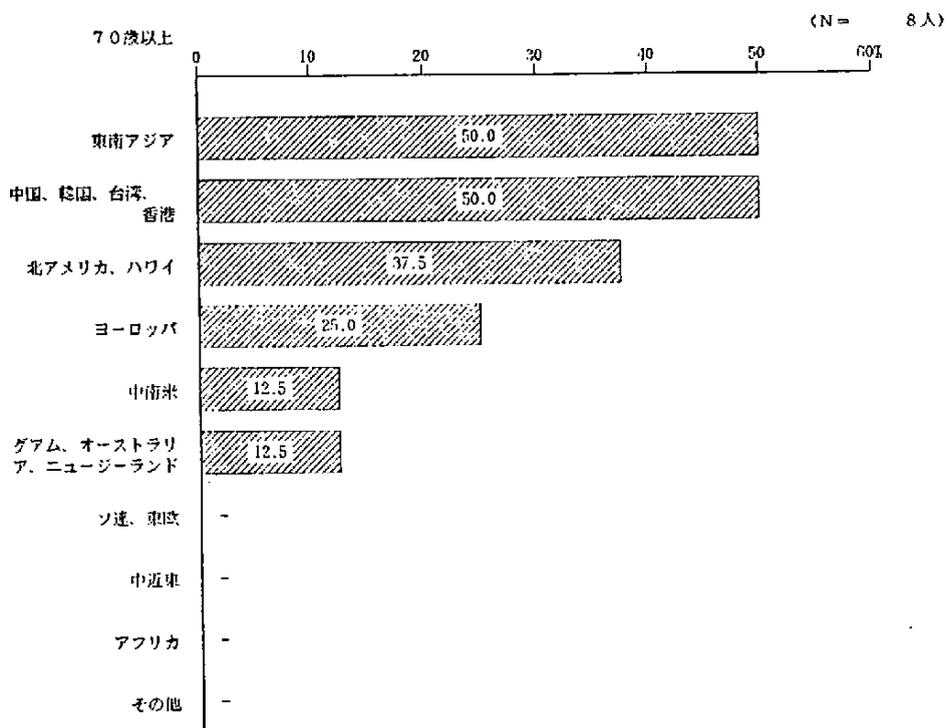
・40歳代では、「中国、韓国、台湾、香港」が最も多く、57.6%を占める。次いで、「北アメリカ、ハワイ」48.5%、「ヨーロッパ」24.2%の順である。



・50歳代では、「中国、韓国、台湾、香港」が70.8%と圧倒的に多い。次いで、「東南アジア」33.3%、「北アメリカ、ハワイ」25.0%の順である。

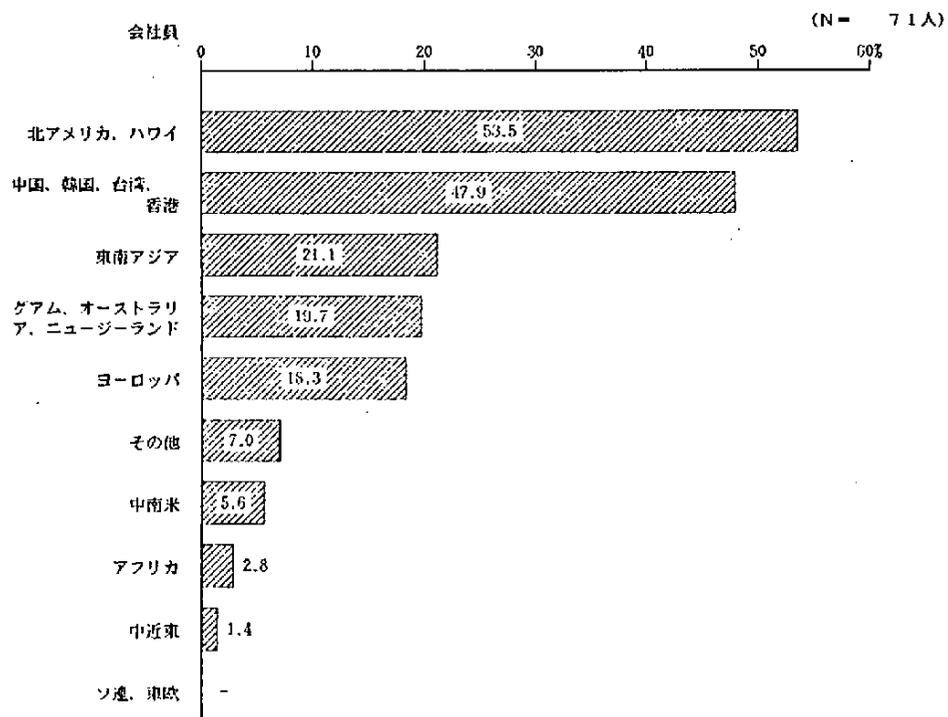


・60歳代では、「中国、韓国、台湾、香港」が最も多く72.2%を占める。次いで、「北アメリカ、ハワイ」61.1%、「ヨーロッパ」27.8%の順である。

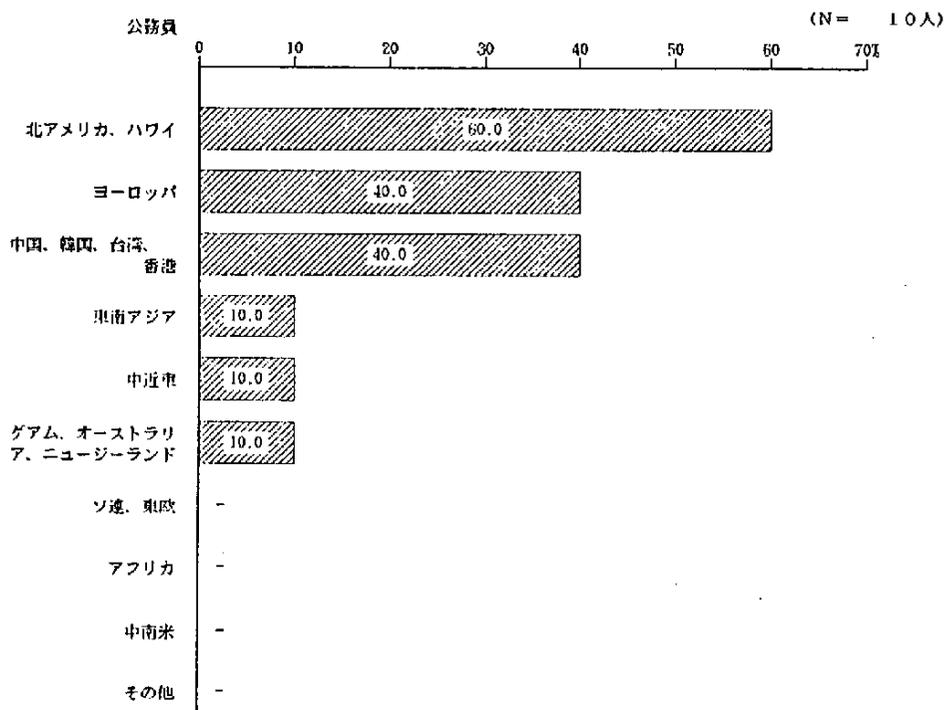


・70歳以上は絶対数が8と少ないが、「東南アジア」と「中国、韓国、台湾、香港」がそれぞれ50.0%と最も多い。

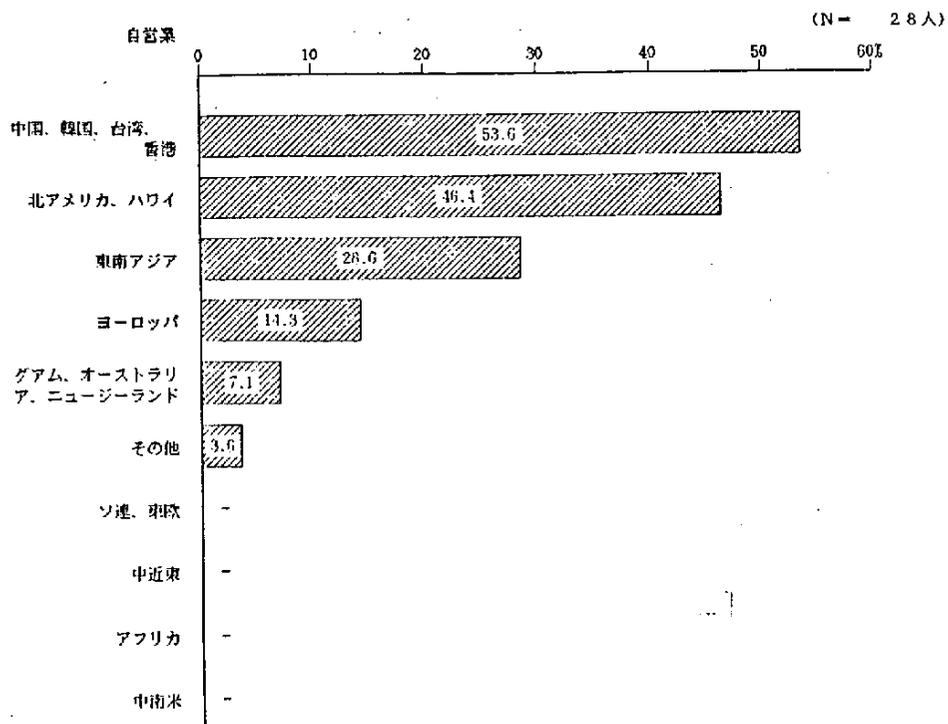
④職種別（会社員、公務員、自営業、主婦専業）



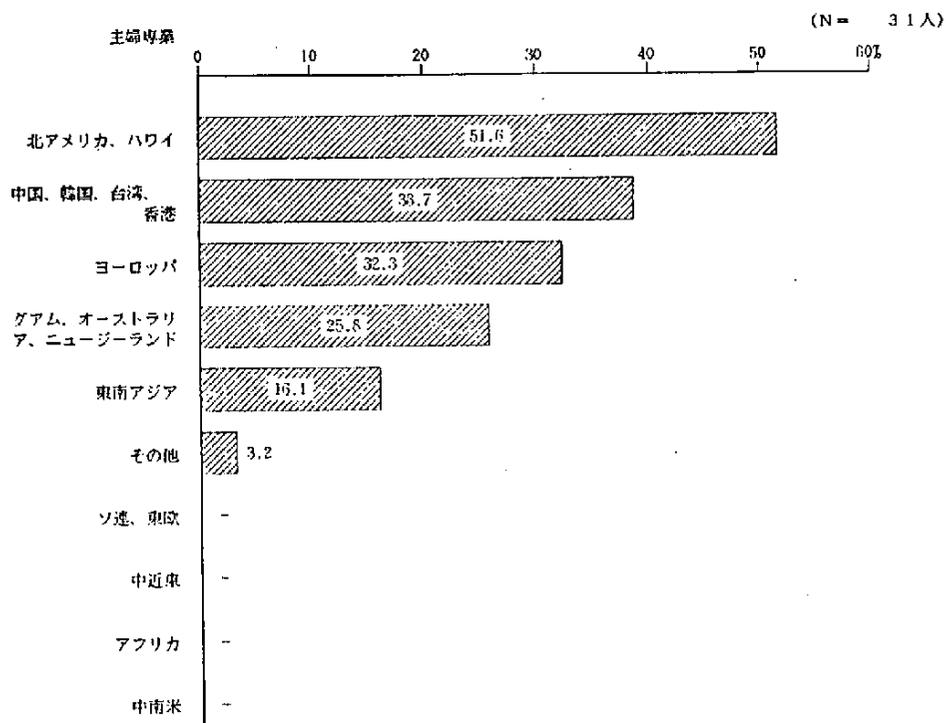
・会社員では、「北アメリカ、ハワイ」が最も多く53.5%を占める。次いで、「中国、韓国、台湾、香港」47.9%、「東南アジア」21.1%の順である。



・公務員は絶対数が10と少ないが、「北アメリカ、ハワイ」への旅行経験者が6割いる。



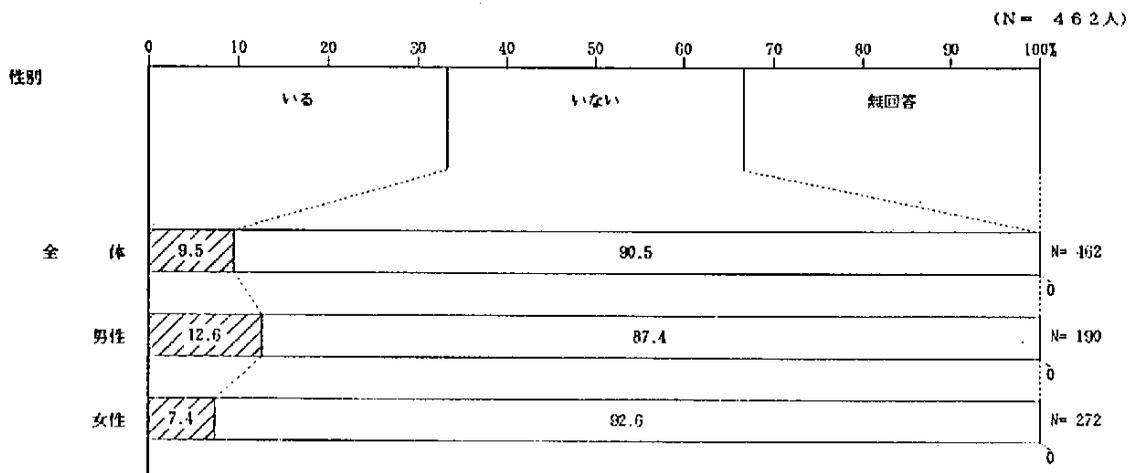
・自営業は、「中国、韓国、台湾、香港」が最も多く53.6%を占める。次いで、「北アメリカ、ハワイ」46.4%、「東南アジア」28.6%の順である。



・主婦専業は、「北アメリカ、ハワイ」が最も多く51.6%を占める。次いで、「中国、韓国、台湾、香港」38.7%、「ヨーロッパ」32.3%の順である。

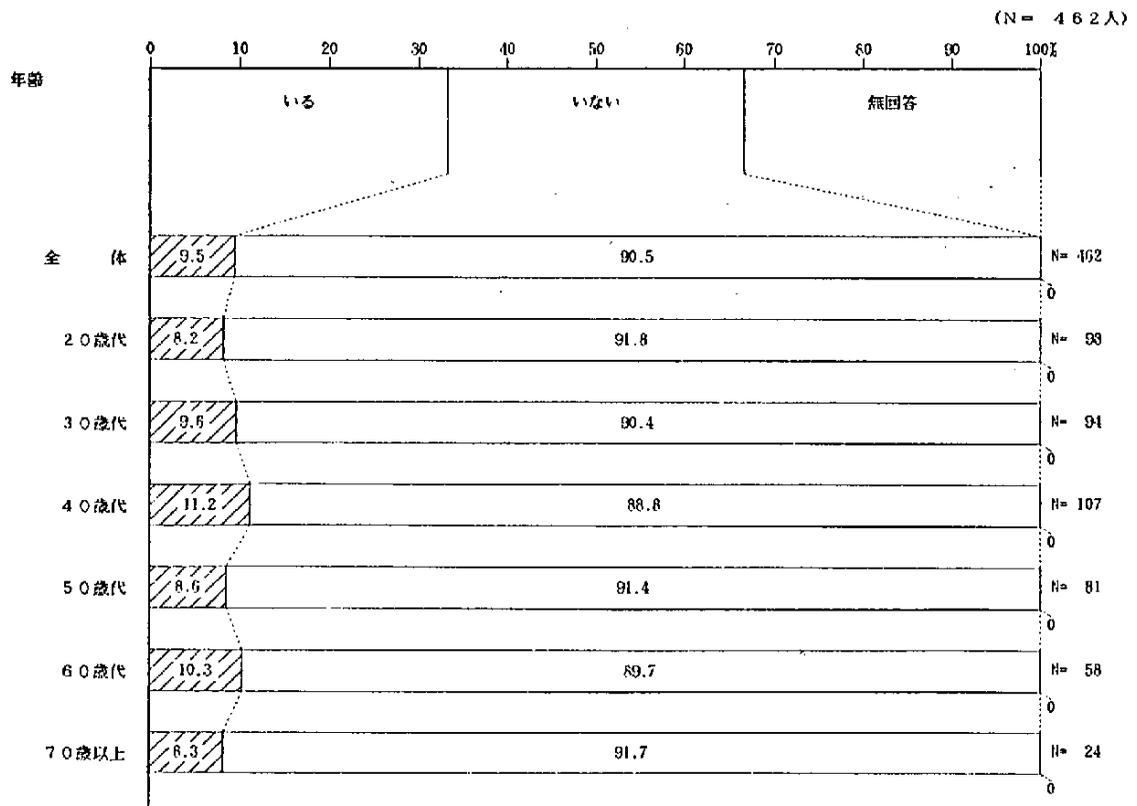
3. 外国人の友人の有無

① 全体、性別



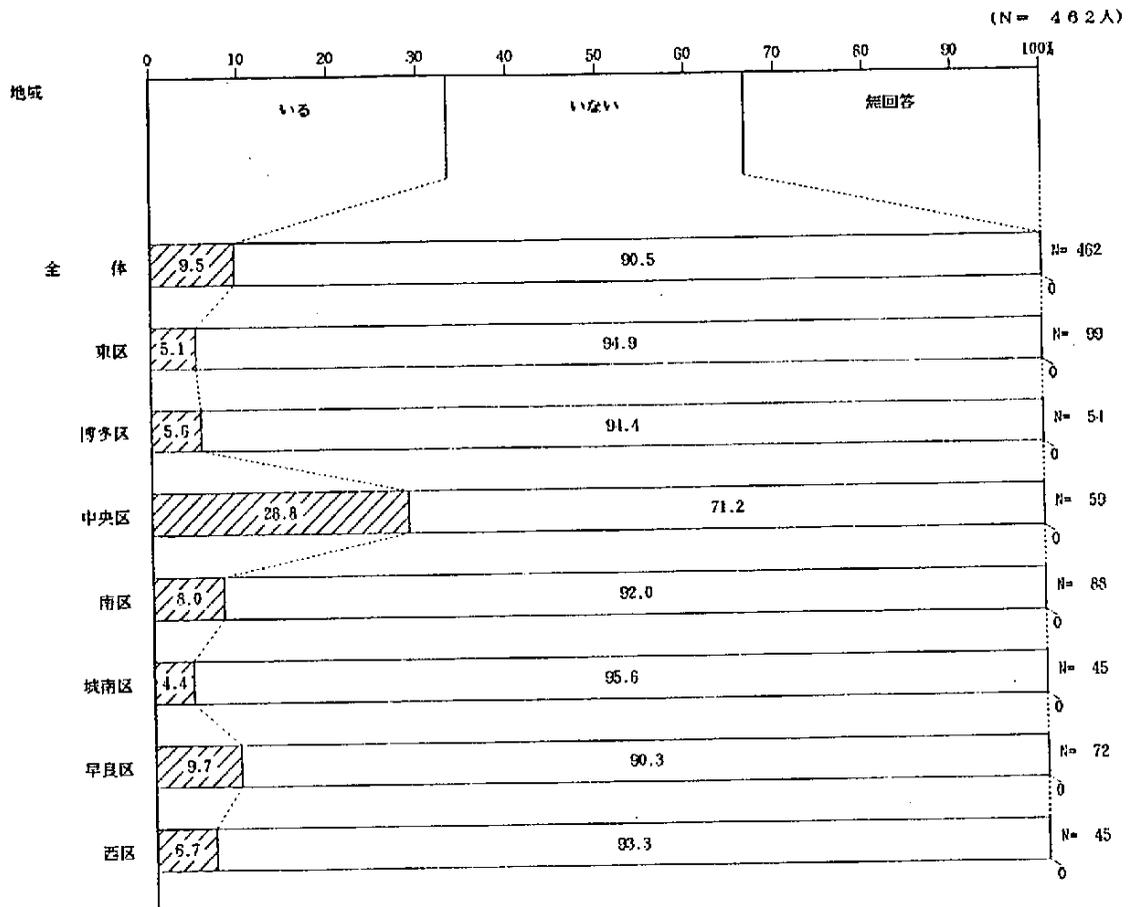
- ・ 全体で見ると、外国人の友人がいると答えた人は、9.5%である。
- ・ 男女別で見ると、男性で外国人の友人がいると答えた人は、女性より5.2ポイント多く12.6%を占める。

② 年代別



- ・ 年代別で見ても、外国人の友人がいると答えた人の割合は、全体とあまり変わらない。

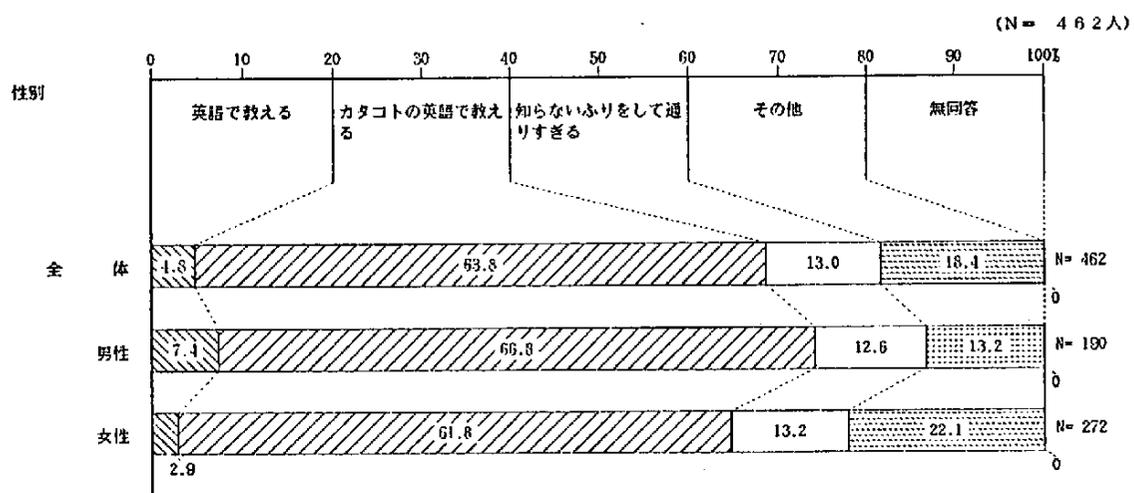
③ 地域区分別



・福岡市7区で、外国人の友人がいる割合が最も多いのが「中央区」であり、28.8%を占め他の区より突出している。

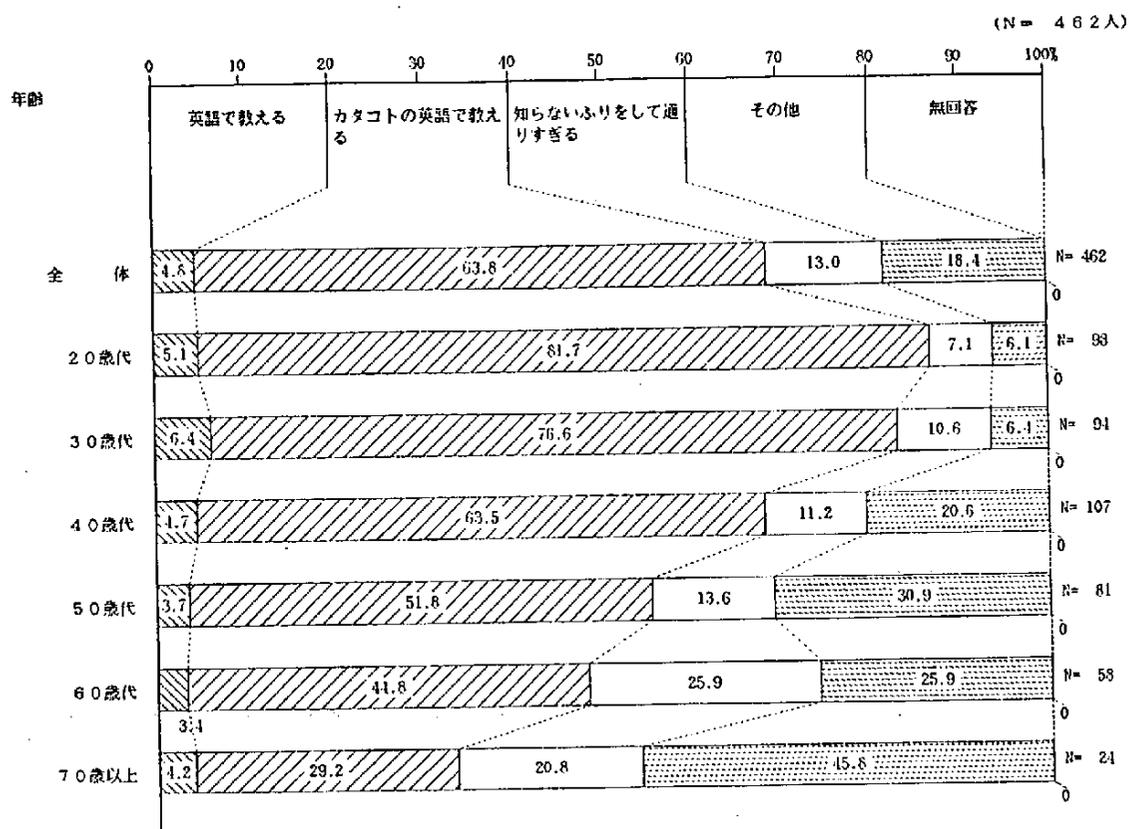
4. 外国人に道を聞かれたときの対応

① 全体、性別



- ・ 全体で見ると、「カタコトの英語で教える」と答えた人が最も多く63.8%を占める。次いで、「英語で教える」4.8%であり、英語で対応すると答えた人は68.6%を占める。
- ・ 性別で見ると、男性で英語で対応すると答えた人は74.2%、女性では64.7%であり、男性の方が1割程多い。

②年代別

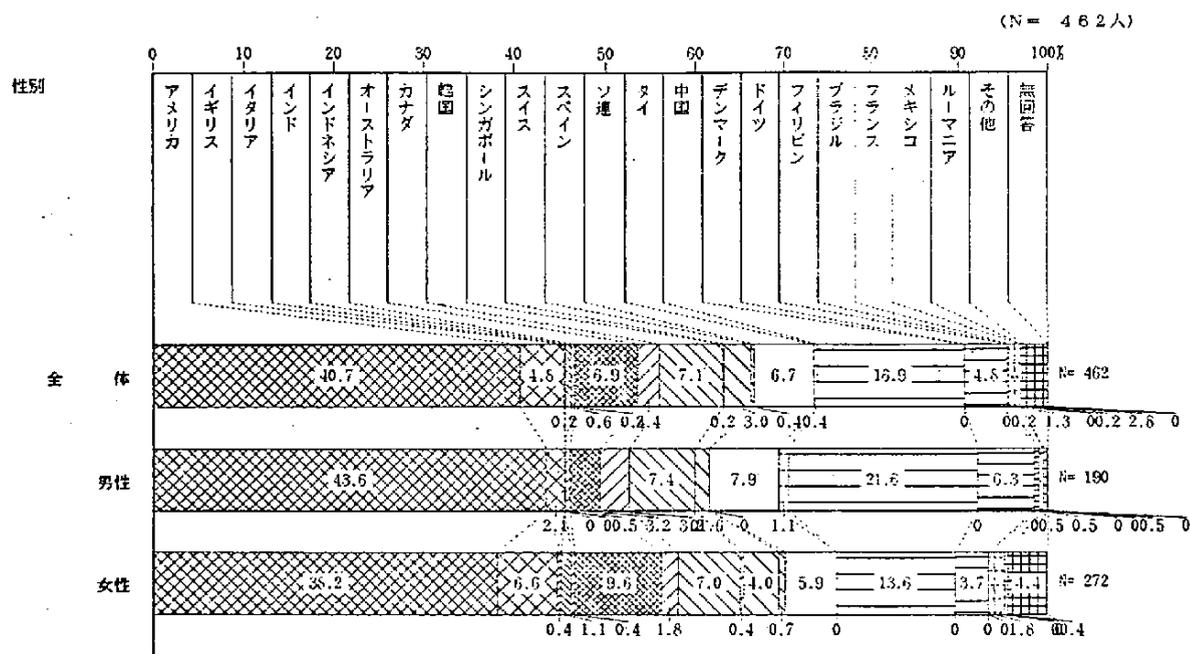


- ・「英語で教える」と答えている人の割合は、年代別に見てあまり差異はない。しかし、「カタコトの英語で教える」と答えている人の割合は、年代が高くなるにつれて減少している。また、60歳以上になると、「知らないふりをして通りすぎる」人が2割を超えている。

5. 外国との交流について

(1) 交流先として最も関心のある国

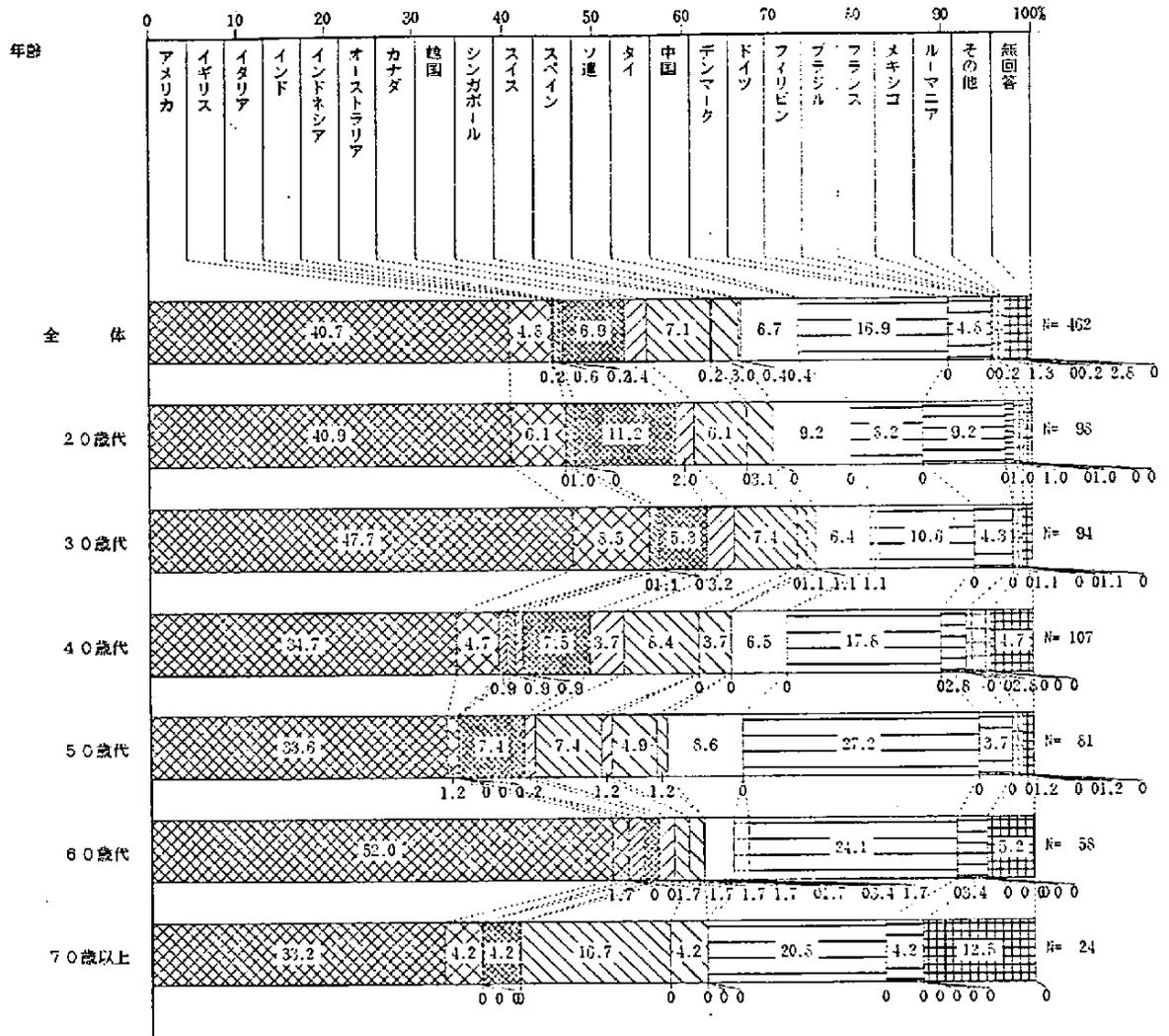
①全体、性別



- ・全体で見ると、交流先としての最大関心国で最も多いのが「アメリカ」で40.7%を占める。次いで、「中国」16.9%、「韓国」7.1%、「オーストラリア」6.9%、「ソ連」6.7%の順である。
- ・性別で見ると、男性では「アメリカ」がトップで43.6%を占め、次いで、「中国」21.6%、「ソ連」7.9%、「韓国」7.4%、「ドイツ」6.3%の順である。一方、女性では「アメリカ」38.2%が最も多く、次いで、「中国」13.6%、「オーストラリア」9.6%、「韓国」7.0%、「ソ連」5.9%の順であり、女性で「オーストラリア」を挙げている割合は、男性の3倍である。

②年代別

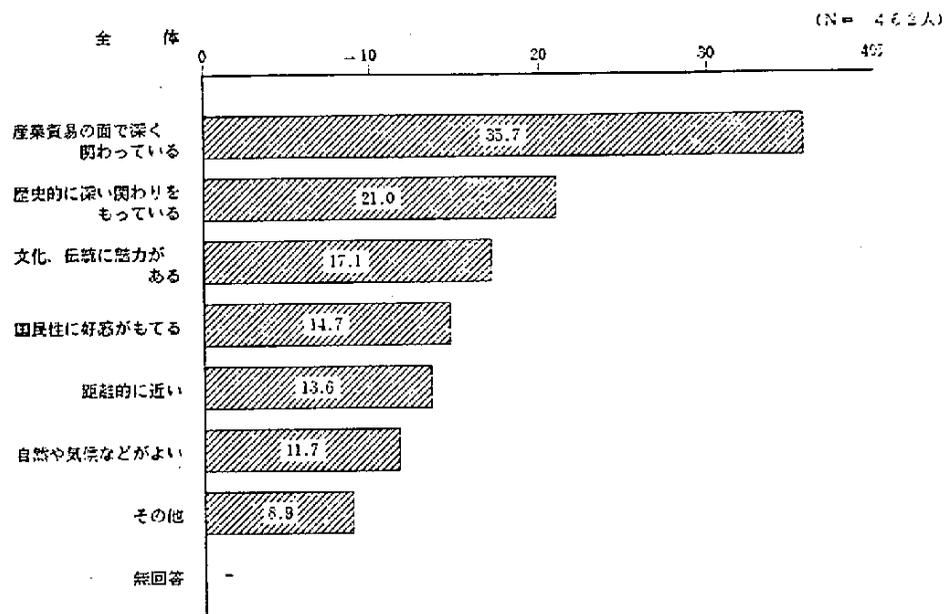
(N= 462人)



年代別に見ると、20歳代では最大関心国として「アメリカ」を挙げている人が40.9%と多いが、「オーストラリア」11.2%や「ドイツ」9.2%も他の年代に比べ比較的多い。また、60歳代では「アメリカ」52.0%と「中国」24.1%への関心が高く、この「中国」への関心の高さは高年齢層に見られる。70歳以上では、「韓国」に関心を持っている人が16.7%を占め、他の年代より多い。

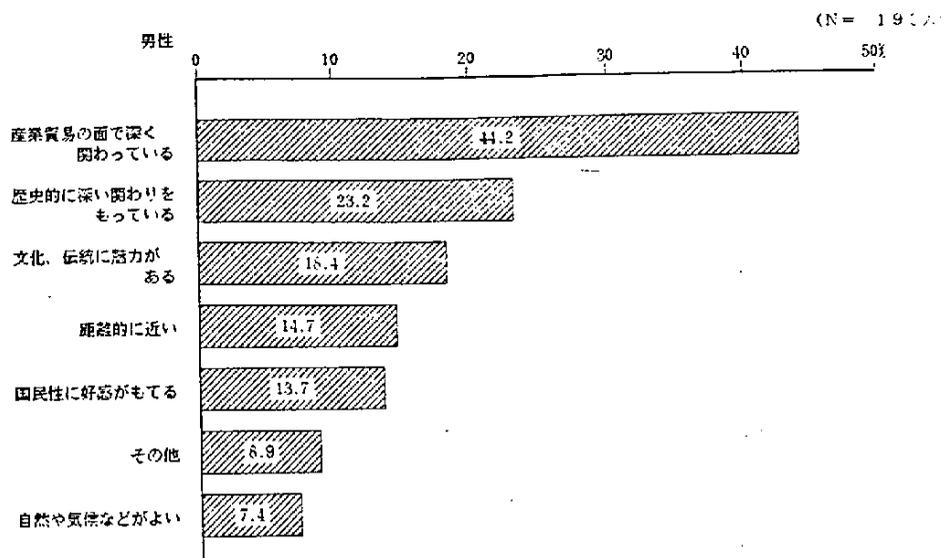
(2) 交流先として選んだ理由(MA)

①全体

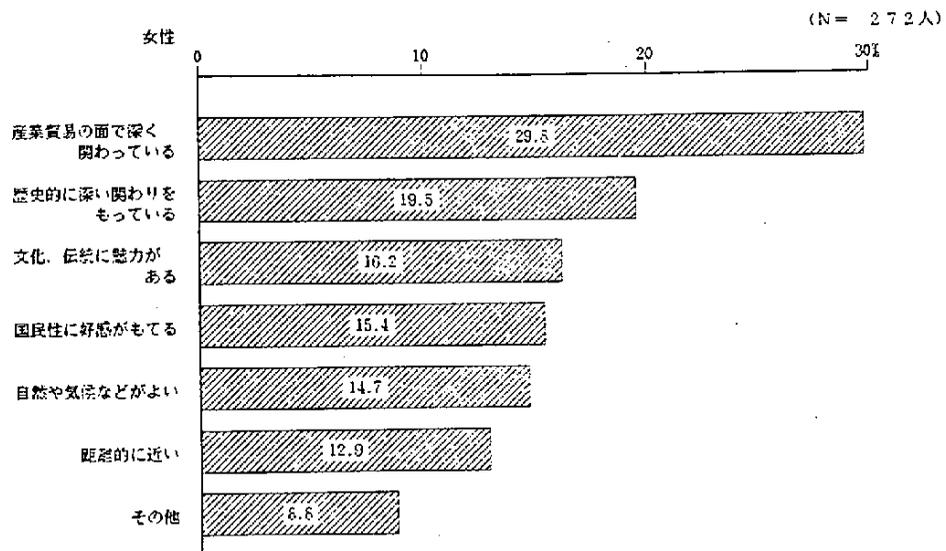


- ・「産業貿易の面で深く関わっている」と回答した人が最も多く、35.7%を占める。次いで、「歴史的に深い関わりをもっている」21.0%、「文化、伝統に魅力がある」17.1%の順である。

②性別



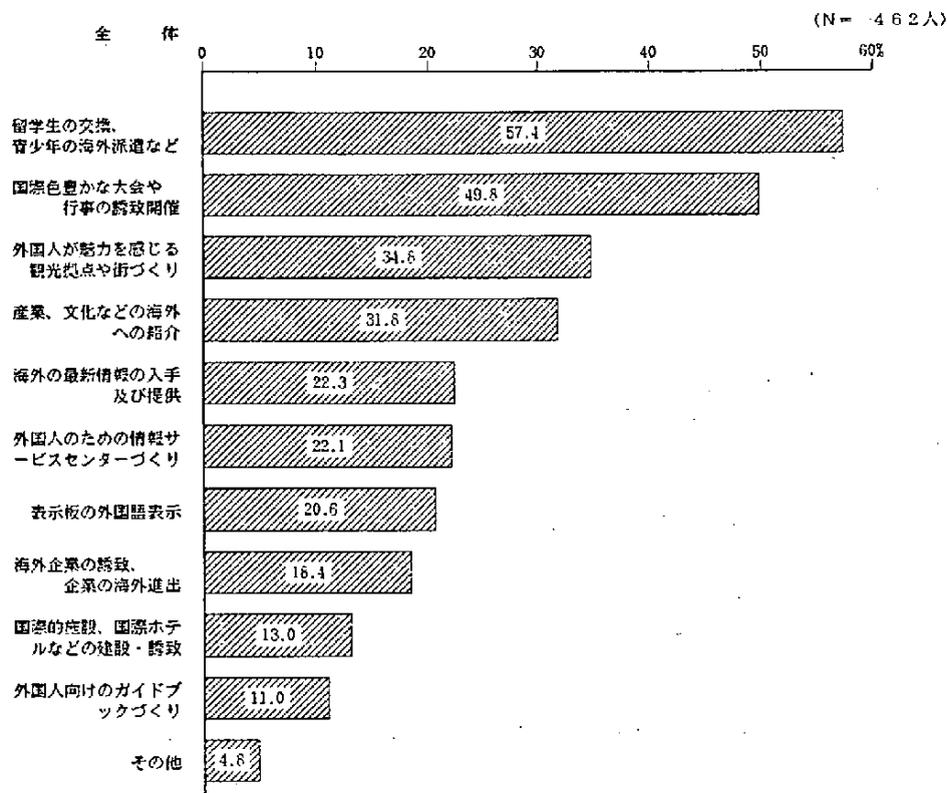
- ・男性では、「産業貿易の面で深く関わっている」を挙げた人が最も多く、44.2%を占める。次いで、「歴史的に深い関わりをもっている」23.2%、「文化、伝統に魅力がある」18.4%の順である。



- ・女性で見ても、上位3項目は男性と同じであり、トップには「産業貿易の面で深く関わっている」29.8%が挙げられている。
- ・また、男性では「距離的に近い」が14.7%と4位に挙げられているが、女性では下位に位置している。

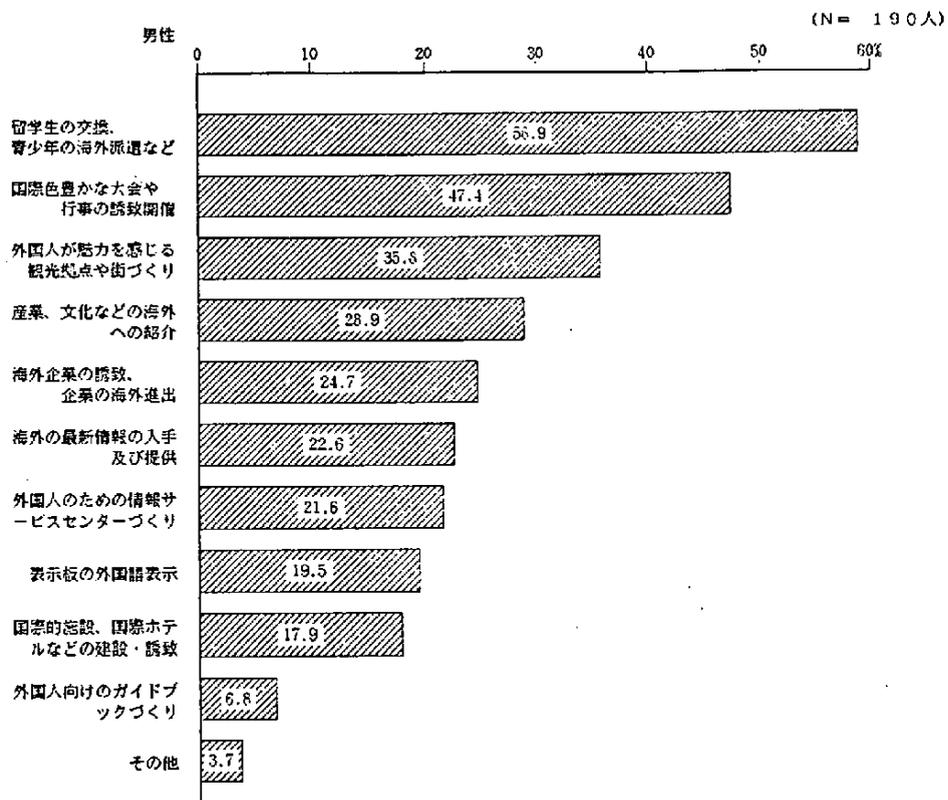
6. 国際化の進め方について(MA)

①全体



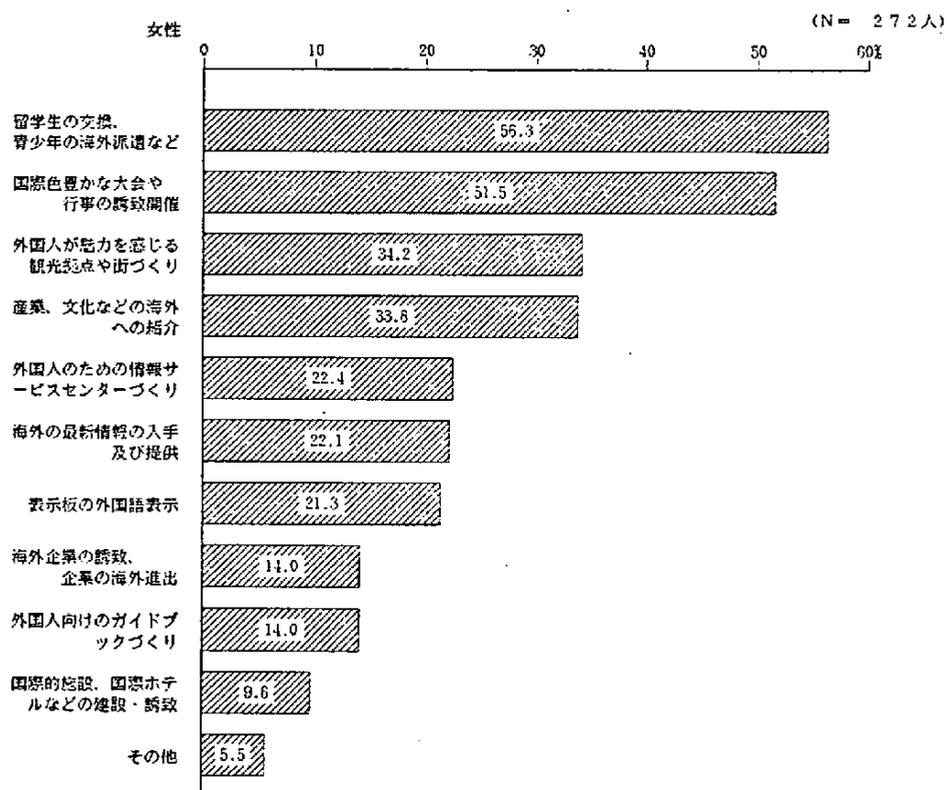
- ・最も多かったのが「留学生の交換、青少年の海外派遣など」で、57.4%を占める。次いで、「国際色豊かな大会や行事の誘致開催」49.8%、「外国人が魅力を感じる観光拠点や街づくり」34.8%と続いている。
- また、「外国人のための情報サービスセンターづくり」を、22.1%の人が国際化を進める方向性として挙げている。

②性別



・男性では、「留学性の交換、青少年の海外派遣等」がトップで58.9%を占める。次いで、「国際色豊かな大会や行事の誘致開催」47.4%、「外国人が魅力を感じる観光拠点や街づくり」35.8%の順である。

また、「外国人のための情報サービスセンターづくり」に回答している人の割合は全体とあまり変わらないが、男性の中では比較的下位に挙げられている。



・女性で見ても、上位項目は全体とあまり変わらない。

トップに挙げられているのは、「留学生の交換、青少年の海外派遣等」56.6%であり、次いで、「国際色豊かな大会や行事の誘致開催」51.5%、「外国人が魅力を感じる観光拠点や街づくり」34.2%の順である。

また、「外国人のための情報サービスセンターづくり」も22.4%挙げられており、男性と比べても上位に位置している。

—— 禁 無 断 転 載 ——

平成3年3月発行

発行 財団法人 データベース振興センター
東京都港区浜松町二丁目4番1号
世界貿易センタービル7階
TEL 03(3459)8581

委託先 株式会社 西日本新聞社
〒810 福岡市中央区天神1-4-1
TEL 092(711)5535

印刷所 九州印刷株式会社
TEL 092(511)8290

